特許文書分析・調査・査読支援・グラフ化システム

ぱっとマイニング JP

「新機能取扱説明書」

2014年　7月24日版

WIDE's
www.wides.com

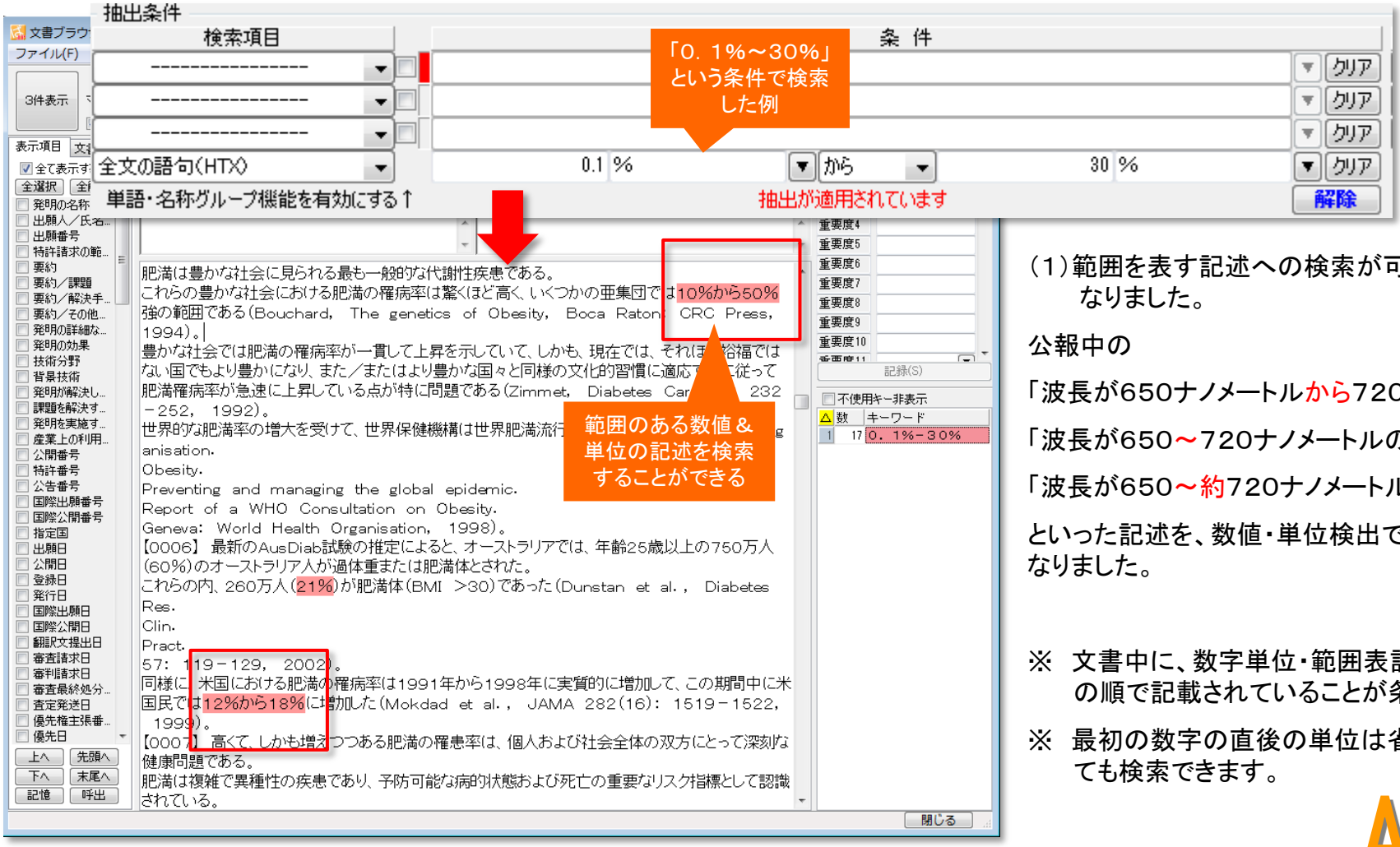
バージョンアップにおける　主な新機能　（1）

新機能紹介

2014(Ver.5.14.0009) → 2014(Ver.5.14.0013)

数値＆単位検索の強化　－1

「〇〇～□□ナノメートル」という範囲の記述を検索可能に！



（1）範囲を表す記述への検索が可能になりました。

公報中の

「波長が650ナノメートルから720ナノメートル」

「波長が650～720ナノメートルの・・・」

「波長が650～約720ナノメートルの・・・」

といった記述を、数値・単位検出できるようになりました。

※　文書中に、数字単位・範囲表記・数字単位の順で記載されていることが条件です。

※　最初の数字の直後の単位は省略されていても検索できます。

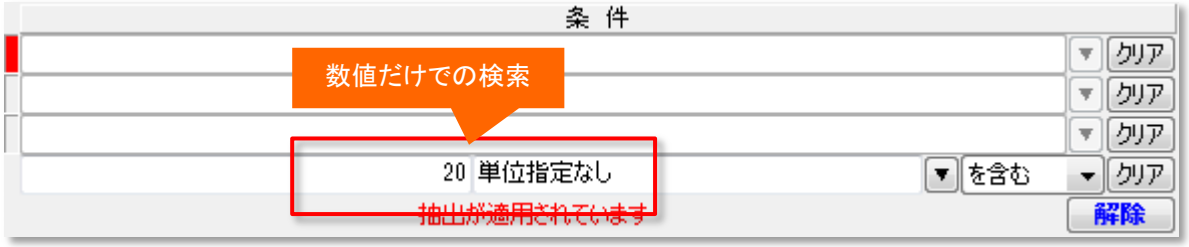
※　単位の設定は、[システム]⇒[辞書設定(数値＆単位　単位マスタ設定)]で設定することができます。

バージョンアップにおける　主な新機能　（2）

2014(Ver.5.14.0009) → 2014(Ver.5.14.0013)

数値＆単位検索の強化　－2

単位の指定のない数値範囲の検索が可能に！



「を含む」 と 「と等しい」の動作のちがい

〈例1〉 「10」「ミリメートル」「を含む」
5～30ミリメートル　ヒットする
1cm　ヒットする

〈例2〉 「10」「ミリメートル」「と等しい」
10mm　ヒットする
5～30ミリメートル　ヒットしない
1cm　ヒットする

（2）漢数字表記に対応しました。

「波長が約七百二十ナノメートル」
といった表記を検出できます。

（3）マイナス値に対応しました。

（4）「単位指定なし」での検索が可能に
なりました。

「重量%が4～10・・・」という記述が
検索できます。

（5）範囲条件に、「を含む」が選択できるように
なりました。

※　数値入力時には漢数字を使用できません。
文書中の漢数字については、直後に単位がある
ものだけを数字として認識します。

※「と等しい」を選択した場合は、
範囲を示す値（5～30ミリメートルなど）は
検索にヒットしません。

※　単位の設定は、[システム]⇒[辞書設定（数値＆単位　単位マスタ設定）]で設定することができます。

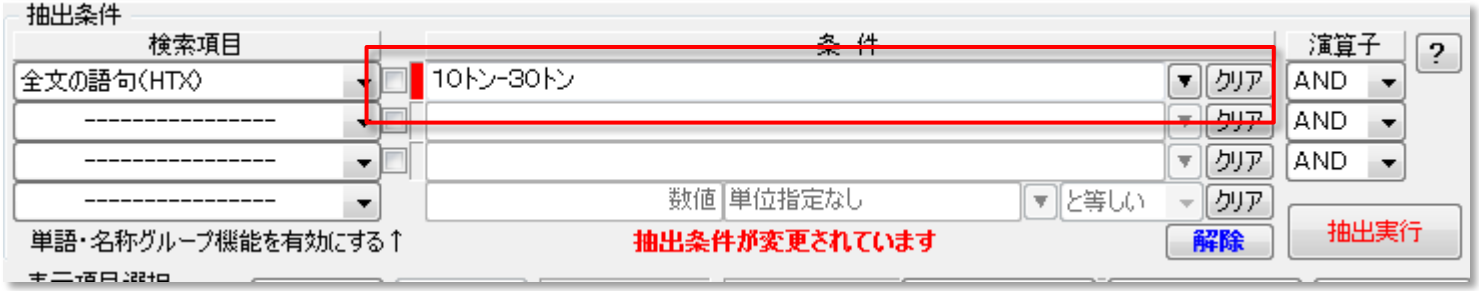
バージョンアップにおける　主な新機能　（3）

新機能紹介

2014(Ver.5.14.0009) → 2014(Ver.5.14.0013)

数値＆単位検索の強化　－3

キーワード入力欄での数値＆単位の入力ルール



数値＆単位検索欄以外の検索条件入力欄に、数値と単位を入力する場合は、以下の入力規則となります。
例：10トン　を検索する場合

- 「と等しい」　0010トン
  ※　数値の前に「00」を付けてください。
- 「を含む」　10トン
- 「以上」　10トン-＊
- 「以下」　＊-10トン
- 「から」　10トン-30トン　（10～30トンを検索する場合）
  ※　両方の数値に単位を付けてください。
  ※　ハイフンの左側に小さい方の値を入れてください。

※　漢数字は文字として認識するため、数値設定としての入力には
ご利用いただけません。

※　単位の設定は、[システム]⇒[辞書設定（数値＆単位　単位マスタ設定）]で設定することができます。

バージョンアップにおける　主な新機能　（4）

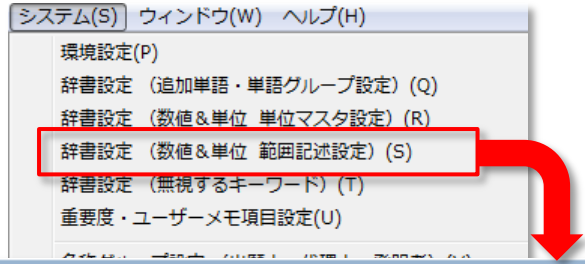
2014(Ver.5.14.0009) → 2014(Ver.5.14.0013)

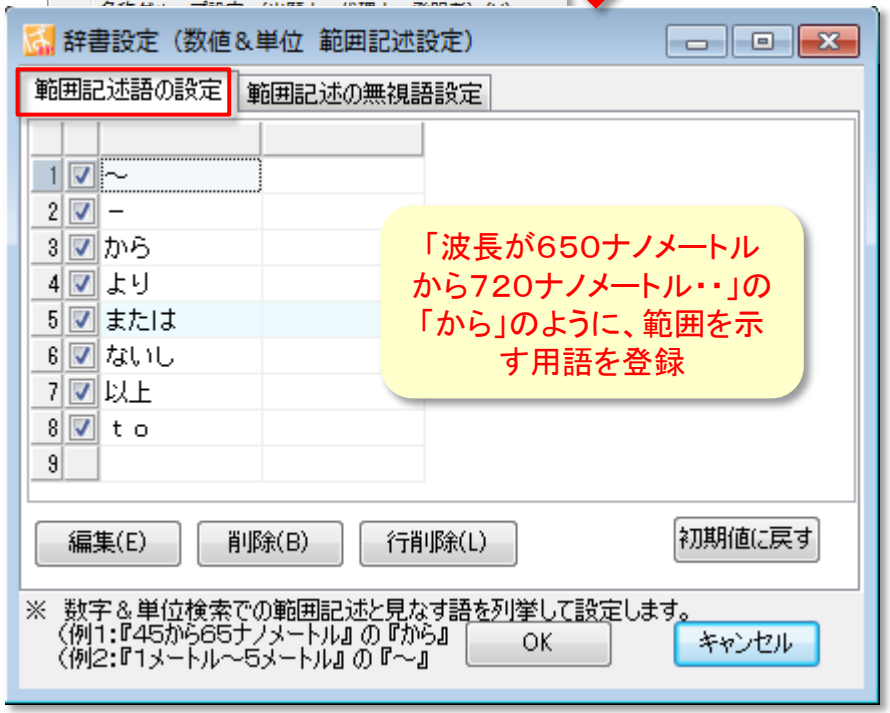
数値＆単位検索の強化　－4

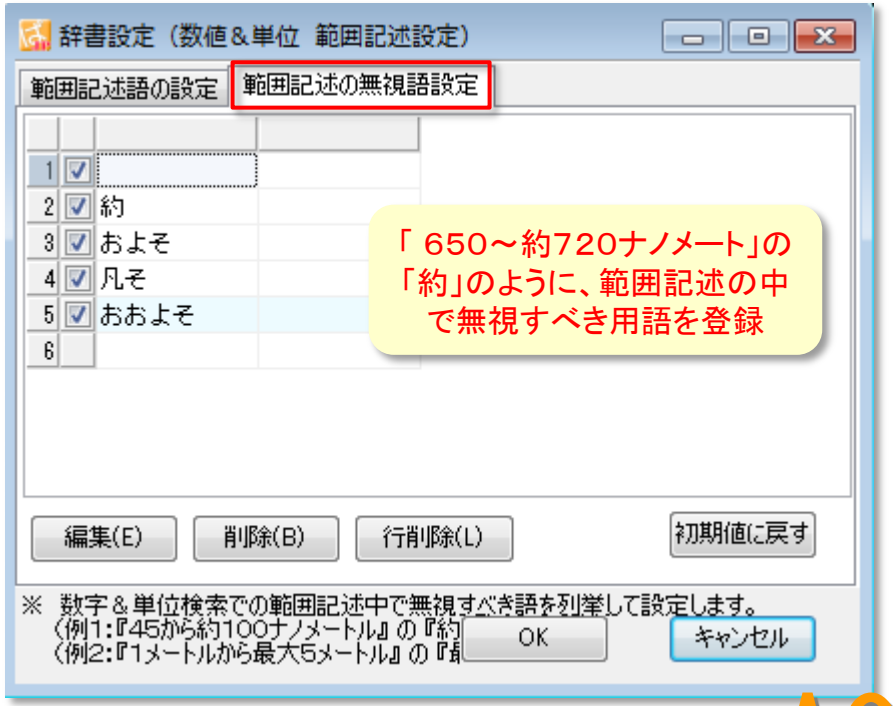
数値＆単位　範囲記述設定辞書を追加

・数値の範囲を示す記述の用語、範囲記述の中で無視すべき用語を設定できる、範囲記述設定の辞書を新たに搭載しました。

・[システム]⇒[辞書設定（数値＆単位　範囲記述設定）]で設定することができます。







バージョンアップにおける　主な新機能　（5）

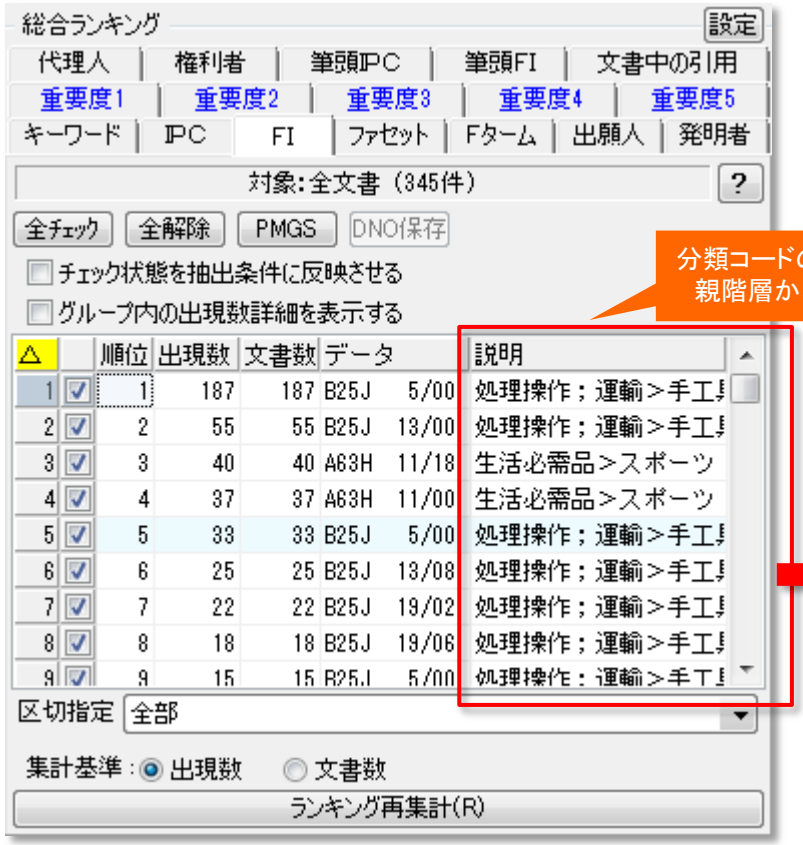
新機能紹介

2014(Ver.5.14.0009) → 2014(Ver.5.14.0013)

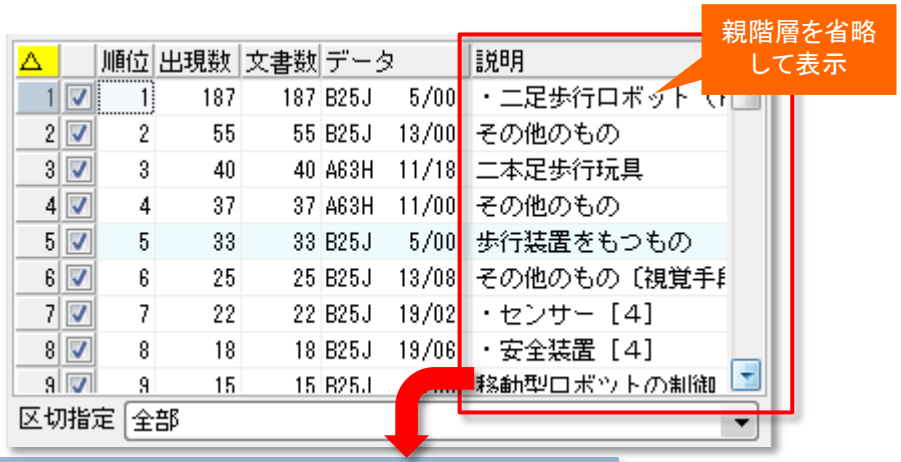
総合ランキングにコードの説明を表示！！

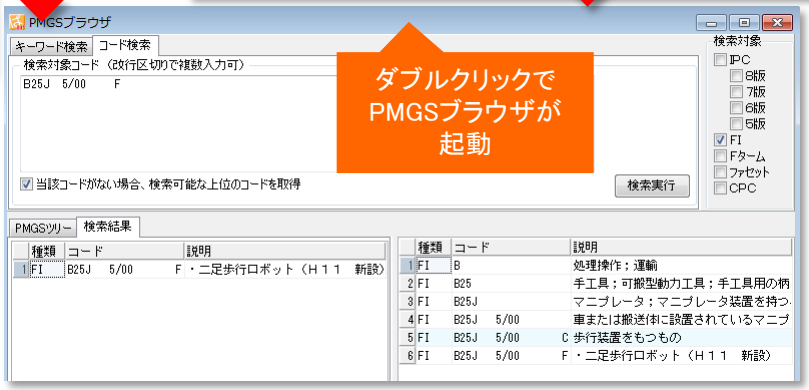
・総合ランキングの特許分類コード（FI、IPC、Fターム、CPC）の、
コード名の右隣りに、コードの説明が表示されるようになりました。

・コード名または説明欄をダブルクリックすると、PMGSブラウザが起動し、
該当コードの説明を確認することができます。



親階層の表示／非表示を選択することが可能

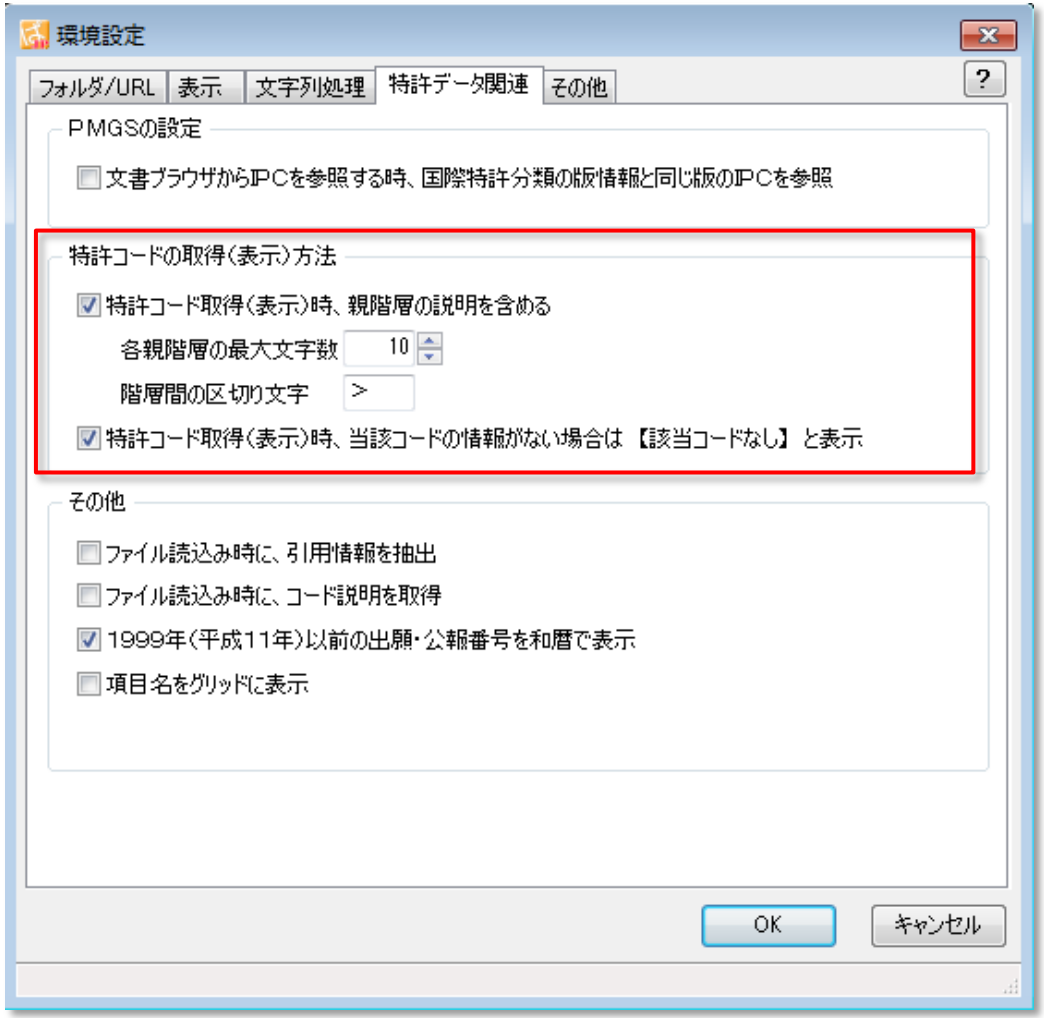




バージョンアップにおける　主な新機能　（6）

2014(Ver.5.14.0009) → 2014(Ver.5.14.0013)

特許コードの取得（表示）方法の選択



各階層の文字数、区切り文字を設定

・[システム]→[環境設定]→「特許データ関連」タブを開くと、「特許コード取得(表示)方法」の設定ができます。

・『特許コード取得（表示）時、親階層の説明を含める』
・・・チェックを入れると、特許分類コードの説明表示に、親階層の説明を含めることができます。
説明表示をシンプルにしたい場合はチェックを外します。

・各親階層の最大文字数、階層間の区切り文字を指定することができます。
※　区切り文字は全角文字、半角文字のどちらも使用可能です。
複数文字（>>>など）を使用することができます。

・『特許コード取得（表示）時、当該コードがない場合は【当該コードなし】と表示』
・・・当該コードの説明がない場合に、空白表示にするか、【当該コード無し】と表示するかを選択することができます。

バージョンアップにおける　主な新機能　（7）

新機能紹介

2014(Ver.5.14.0009) → 2014(Ver.5.14.0013)

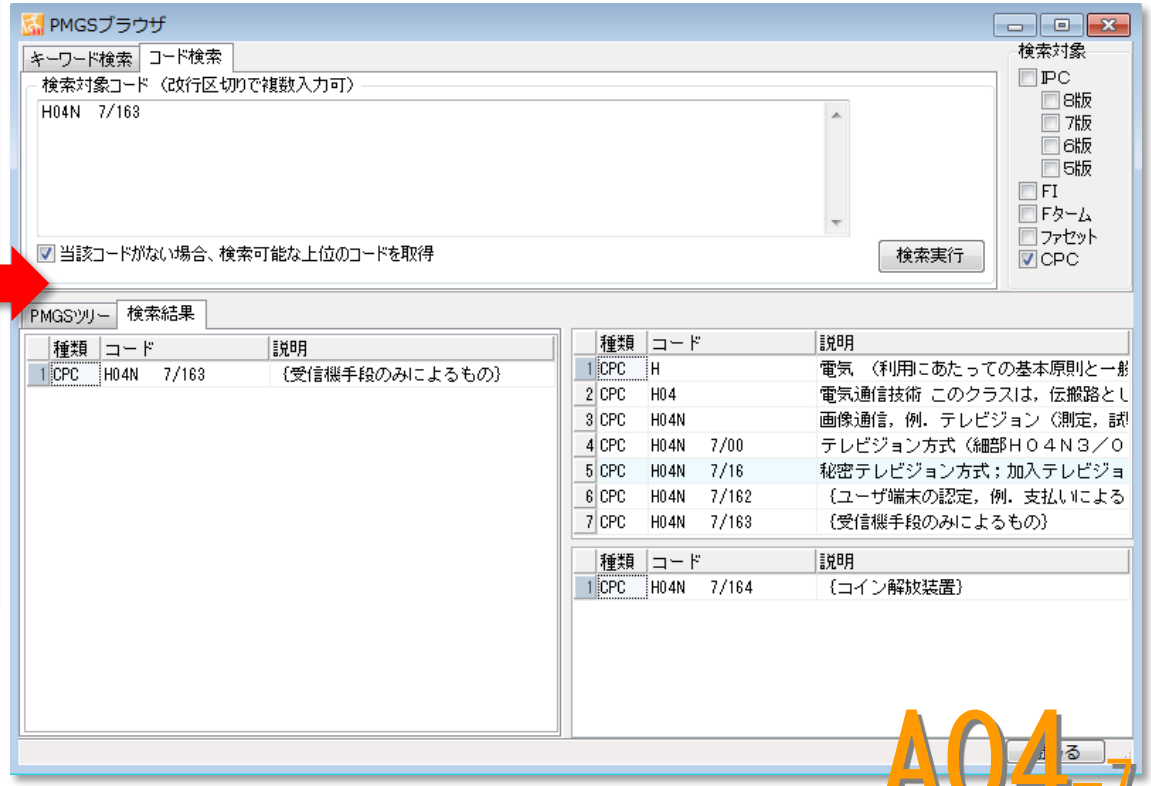
CPCコードに対応！

CPCコードの説明を表示

・総合ランキングにCPCコードを表示することができるようになりました。

・コードの説明も表示されます。

・コード名、または説明欄をダブルクリックすると、PMGSブラウザが開き、CPCコードの説明が表示されます。

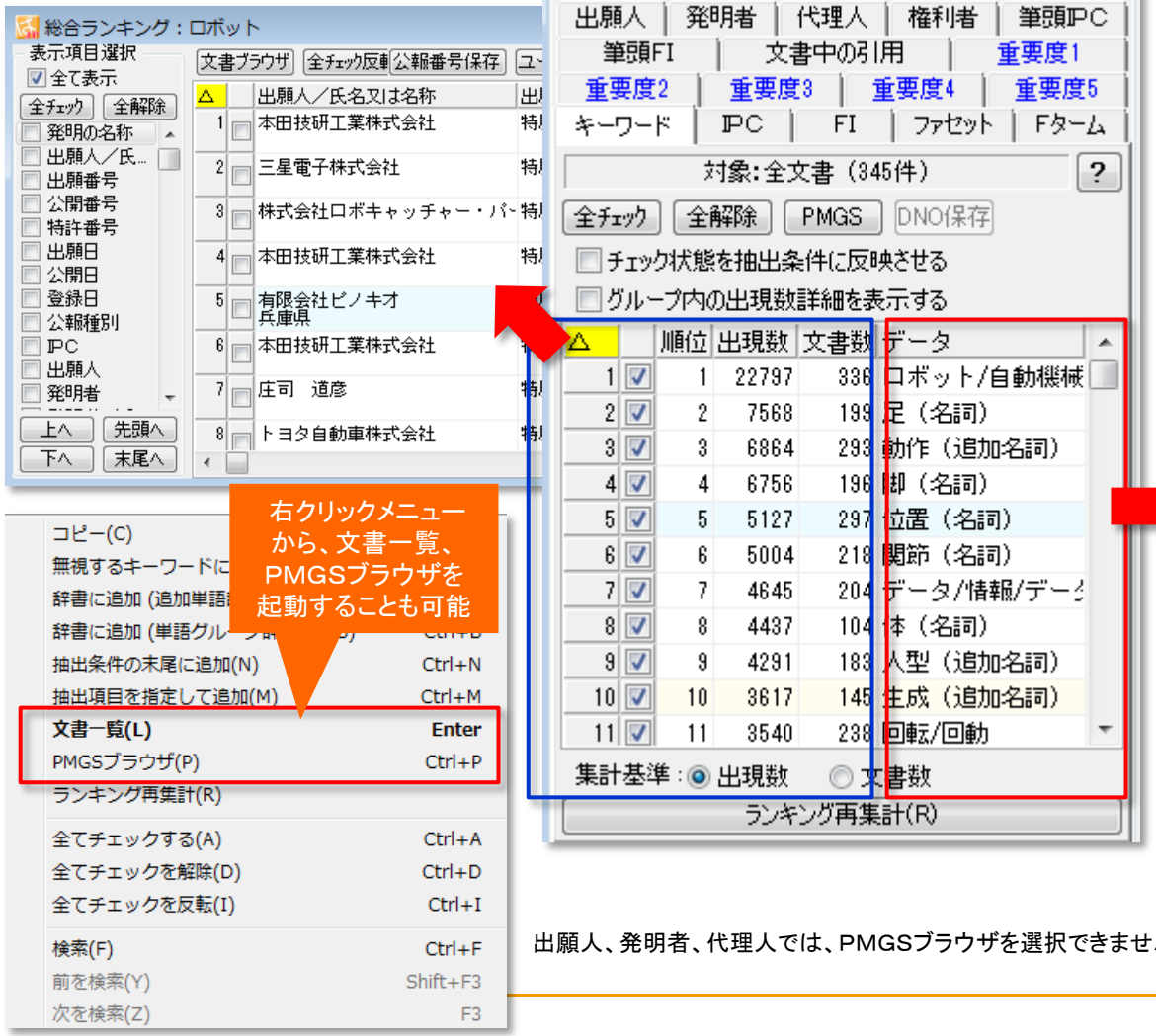


バージョンアップにおける　主な新機能　（8）

新機能紹介

2014(Ver.5.14.0009) → 2014(Ver.5.14.0013)

総合ランキングから文書一覧が起動可能！



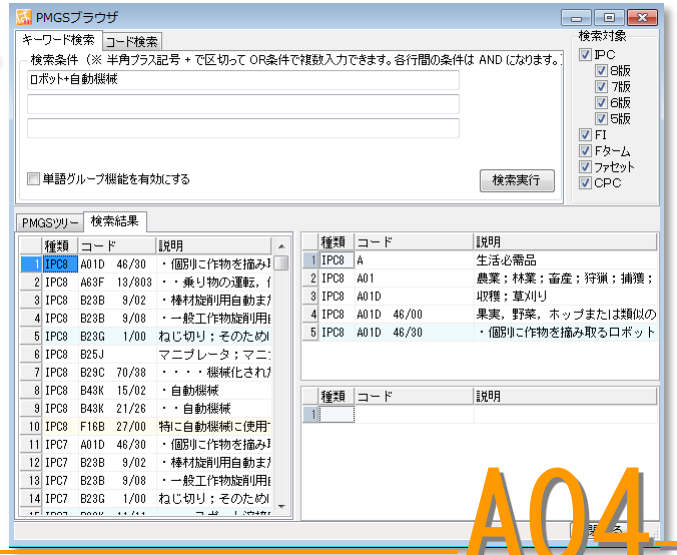
出願人、発明者、代理人では、PMGSブラウザを選択できません。

キーワードからPMGSの起動も！！

・総合ランキングの順位・出現数・文書数のいずれかの欄をダブルクリックすると、該当する公報の一覧表が表示されます。

・データ欄(分類コードの場合は、説明欄も)をダブルクリックすると、PMGSブラウザが開き、関連するコードとその説明を表示します。

・分類コード（FI、IPC、Fターム、CPC）をクリックすると、コードを説明するPMGSブラウザが開きます。キーワードの場合は、そのキーワードを説明文中に含むコードの説明が表示されます。

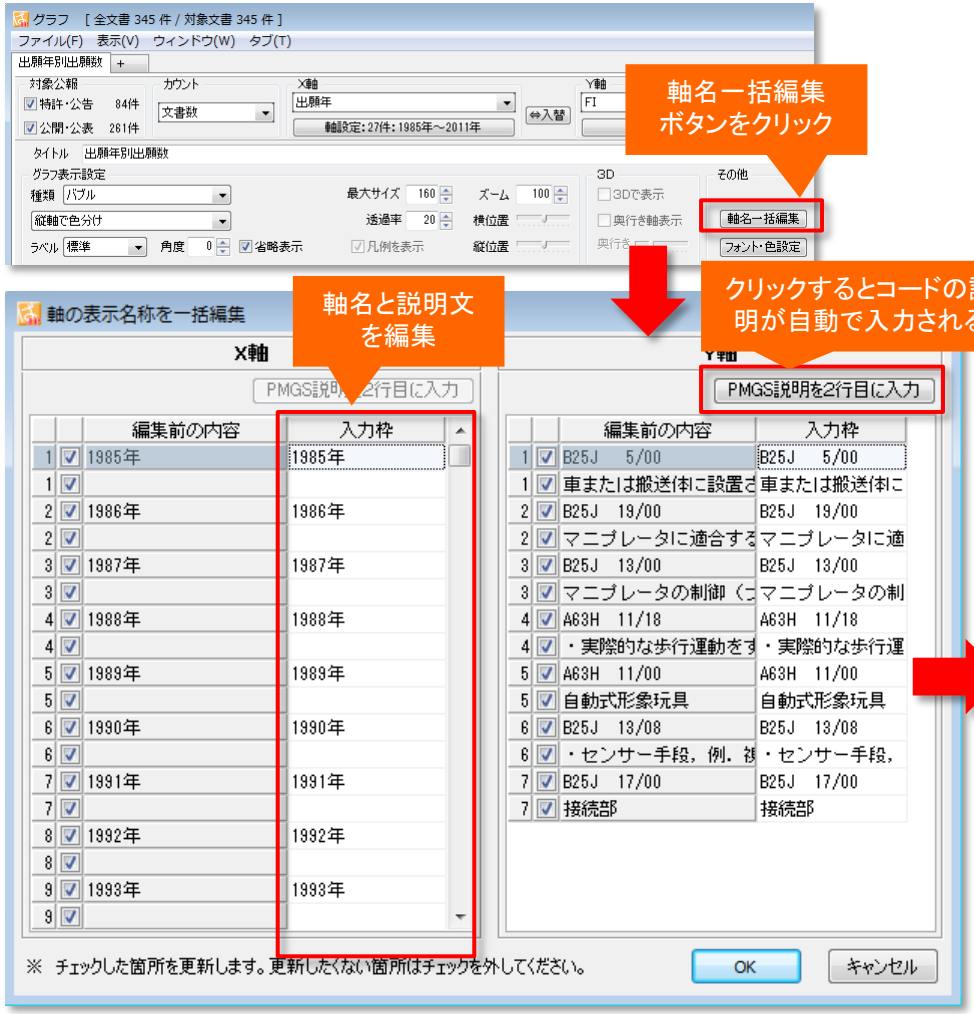


バージョンアップにおける　主な新機能　（9）

新機能紹介

2014(Ver.5.14.0009) → 2014(Ver.5.14.0013)

グラフの軸名を一括編集できる！！



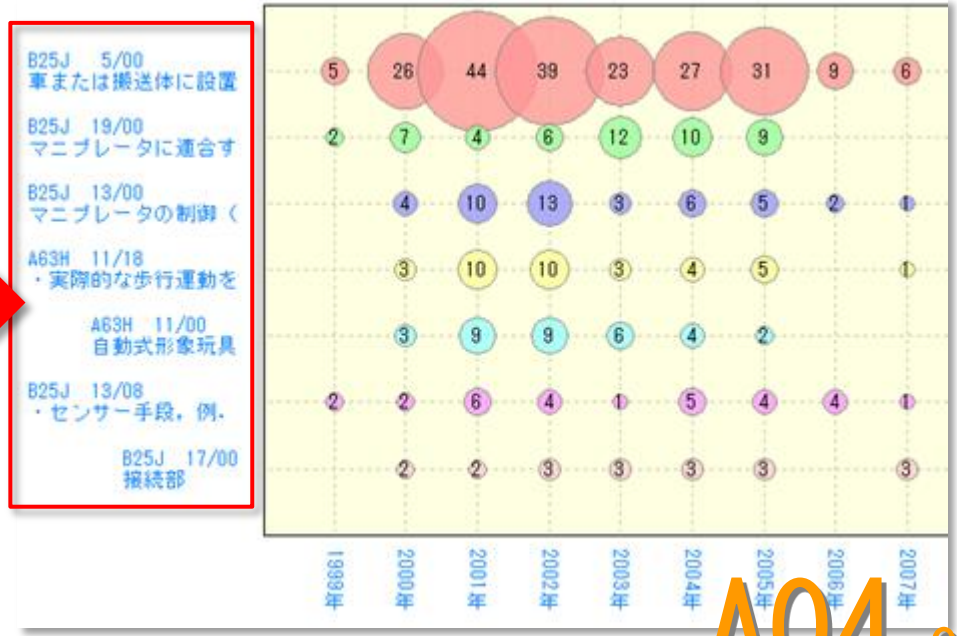
グラフの軸にコードの説明を記載可能

・グラフブラウザの「軸名一括編集」ボタンをクリックすると、「軸の表示名を一括編集」ウィンドウが表示され、軸名を編集することができます。

・また、2行目に説明を追記することができます。

・分類コード（FI、Fターム、ファセット、IPC、CPC）を軸にしたグラフの場合は、「PMGS説明を2行目に入力」ボタンをクリックすると、コードの説明が入力されます。

※ 「軸名の字数」は、最大99文字まで設定できます。

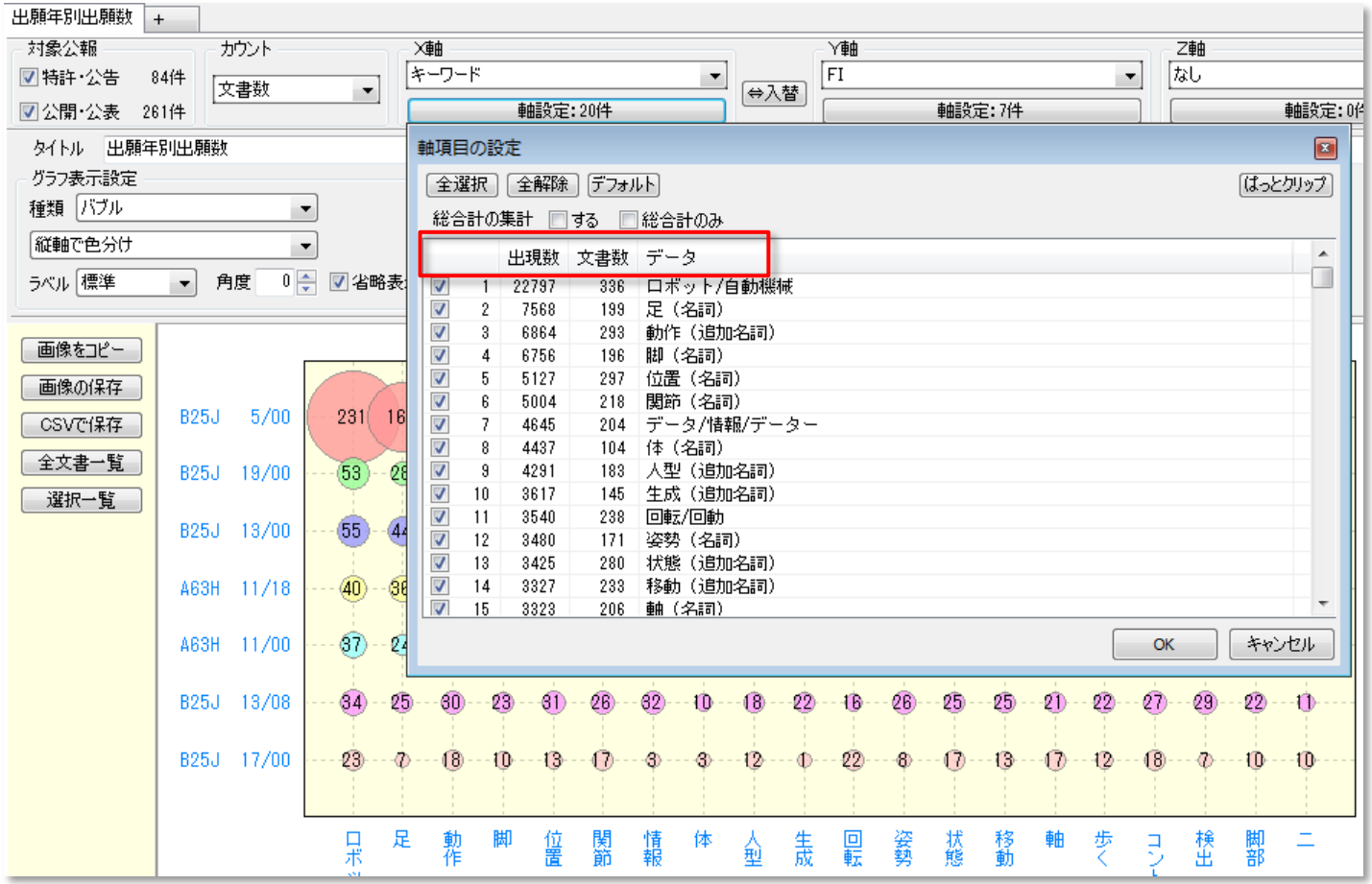


バージョンアップにおける　主な新機能（10）

2014(Ver.5.14.0009) → 2014(Ver.5.14.0013)

グラフの軸項目のソート速度を改善

ソートが快適に行えます

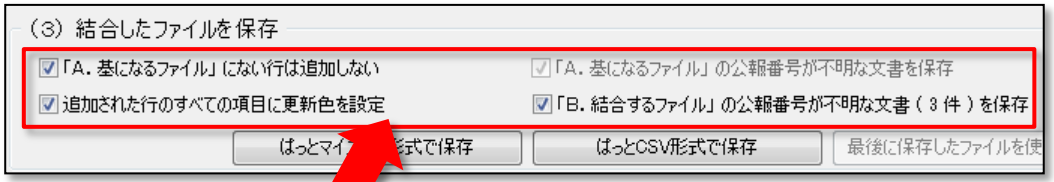


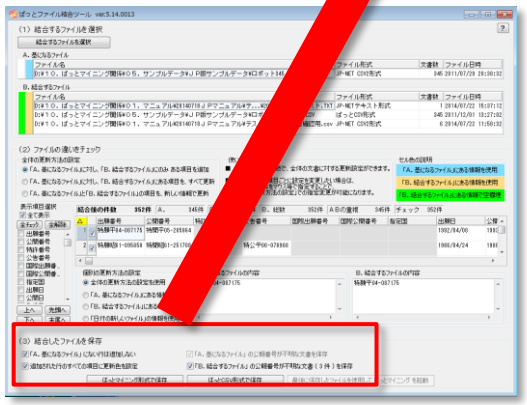
・グラフブラウザの「軸項目の設定」内で、ソートを行う際の速度を改善しました。
項目数の多い軸項目の場合の速度が劇的に早くなりました。

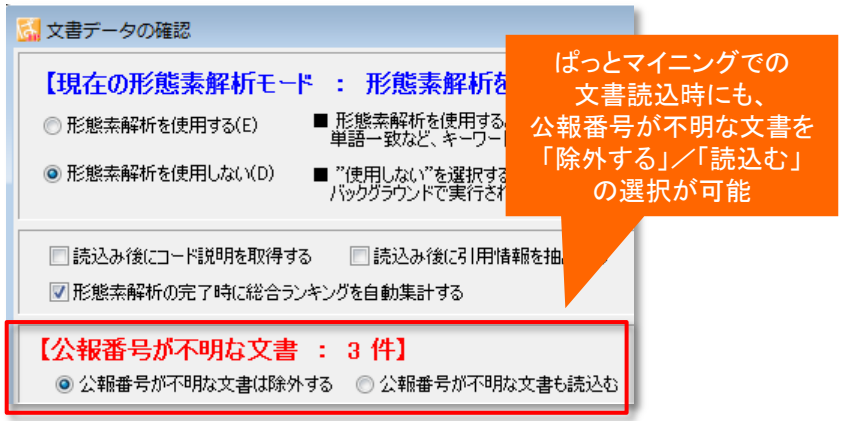
バージョンアップにおける　主な新機能　（11）

2014(Ver.5.14.0009) → 2014(Ver.5.14.0013)

ぱっとファイル結合ツールに新機能搭載！







※　公報番号が不明な文書は、重複判定対象外となります。

基になるファイルにない行は追加しない

・ぱっとファイル結合ツールにおいて、
重複しないファイルを保存しない機能が追加されました。

・「A. 基になるファイル」にない行は追加しない
「B. 結合するファイル」にある文書のうち、
結合先が見つからない文書の扱いを選択できます。

■　チェックを入れた場合
結合先が見つからないBの文書は保存されません。

■　チェックを外した場合
結合先が見つからないBの文書は、
Aのファイルの末尾に追加して保存されます。

・「A. 基になるファイル」の公報番号が不明な文書を保存
「A. 基になるファイル」の中に、公報番号が不明な文書がある場合、その文書数が表示され、チェックを外しておくと、公報番号が不明な文書は結合・保存されません。

・「B. 結合するファイル」の公報番号が不明な文書を保存
「B. 結合するファイル」の中に、公報番号が不明な文書がある場合、その文書数が表示され、チェックを外しておくと、公報番号が不明な文書は結合・保存されません。

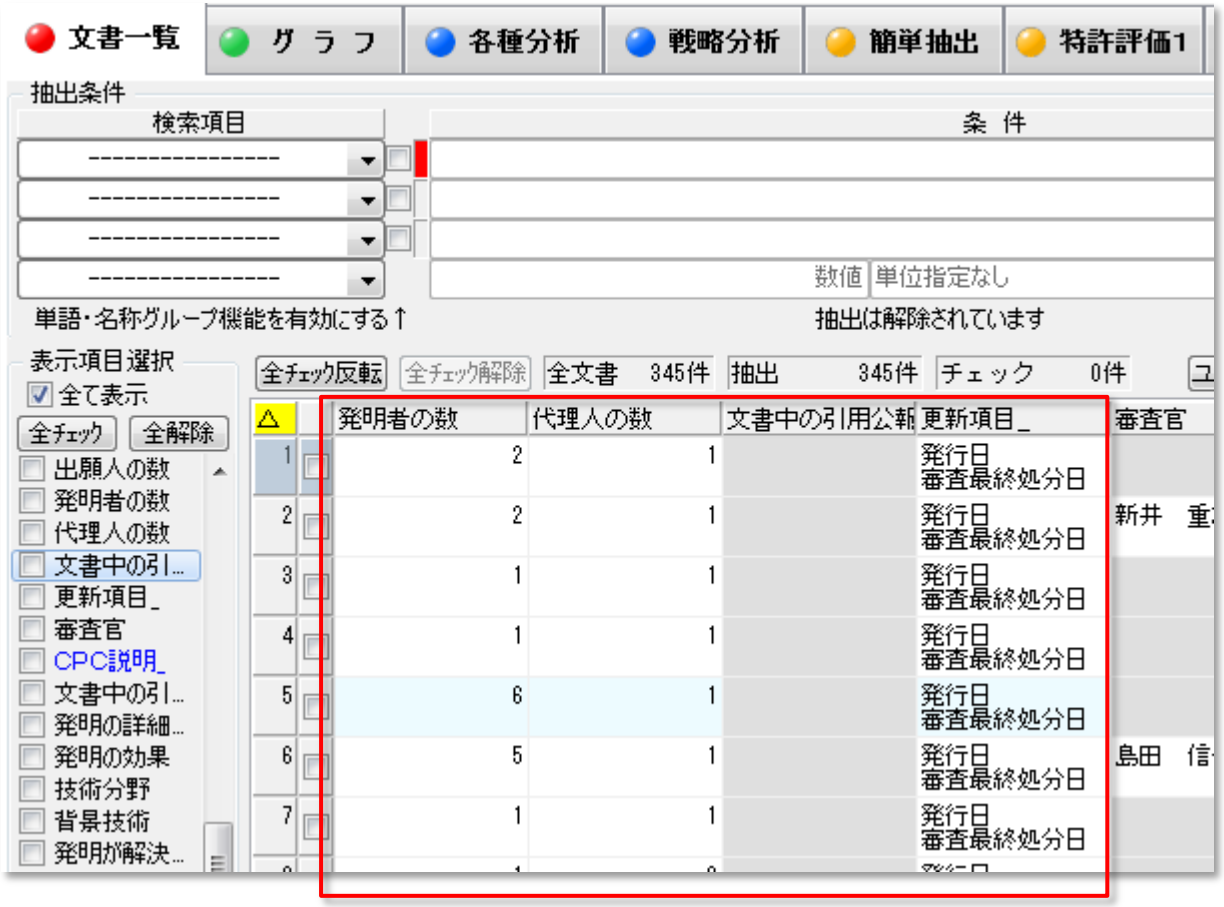
・ぱっとマイニングでの文書読込時にも、
公報番号が不明な文書を、
「除外する」／「読込む」の選択が可能です。

バージョンアップにおける　主な新機能　（12）

2014(Ver.5.14.0009) → 2014(Ver.5.14.0013)

ファイルにぱっとマイニングの独自項目を追加

更新項目が抽出可能！！



文書の項目に、以下の項目を追加しました。
抽出、ソートや、特許評価2の採点条件に利用できます。

【出願人の数】・・・【出願人】の数

【発明者の数】・・・【発明者】の数

【代理人の数】・・・【代理人】の数

【文書中の引用公報数】
・・・【文書中の引用公報】に含まれる、
重複のない公報番号数

【更新項目_】
・・・ぱっとファイル結合ツールで
更新された項目

【更新項目_】は、総合ランキングに表示することができます。

※　ぱっとファイル結合ツールによる結合で
新たに増えた公報は、
【更新項目_】に
「新規公報」と記載されます。

バージョンアップにおける　主な新機能（13）

新機能紹介

2014(Ver.5.14.0009) → 2014(Ver.5.14.0013)

特許評価分析2の条件の保存機能

・特許評価2の点数条件が、保存・読込できるようになりました。

・特許評価2の項目名を、わかりやすく整理しなおしました。

・「文書中の引用公報の数」を追加しました。
　文中に記載された公報番号の数を評価対象にすることができます。

「文書中の引用公報の数」を追加

【ご注意事項】 注目したい項目に、チェックおよび点数設定をおこなっても、実際にその項目、データがない場合、点数は入りません。詳細に分析したい場合には、JP－NETであれば、CSV2形式でデータを取得してください。テキストデータと結合することで、より詳細な公報の状態で分析できます。

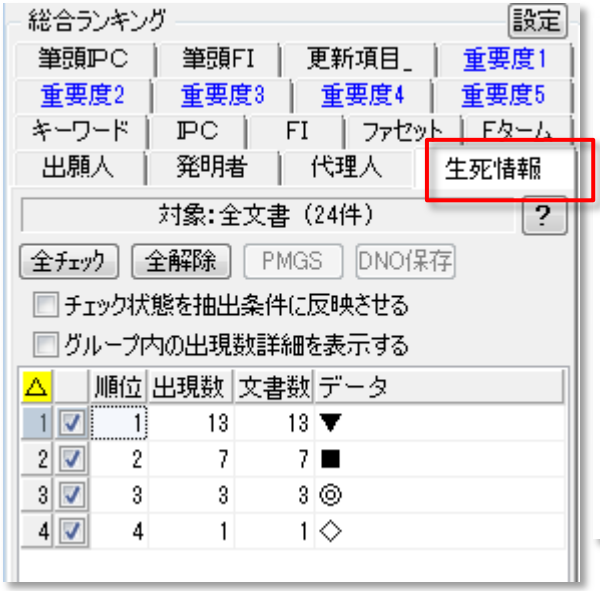
※　JP－NETのデータのダウンロード形式には、「テキスト形式」「CSV形式」「CSV2形式」「エクセル形式」の4種類の形式があります。ぱっとマイニングで読み込み可能な形式は、「テキスト形式」と「CSV2形式」です。
【審査経過項目】をご利用になる場合は、「CSV2形式」で、作成モードを『タイプ3』に設定してデータをダウンロードし、テキスト形式のデータと結合してご使用ください。

バージョンアップにおける　主な新機能　（14）

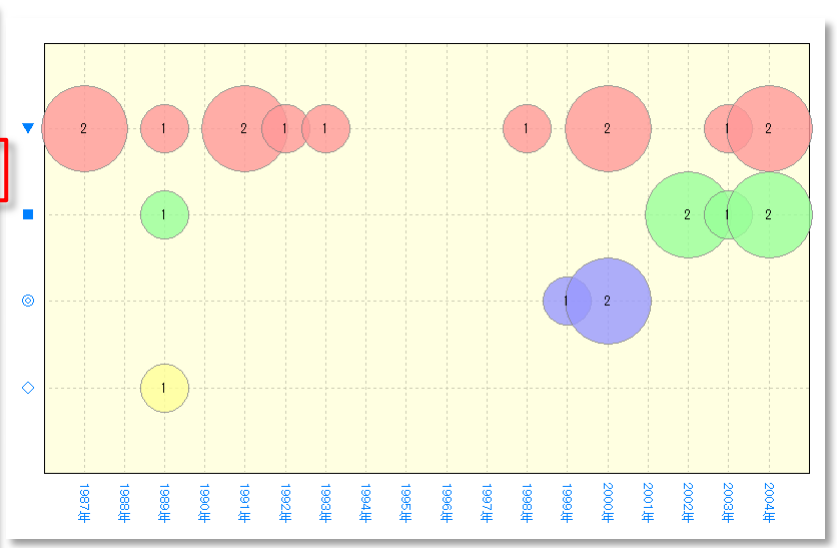
新機能紹介

2014(Ver.5.14.0009) → 2014(Ver.5.14.0013)

NRI2の【生死情報】に対応



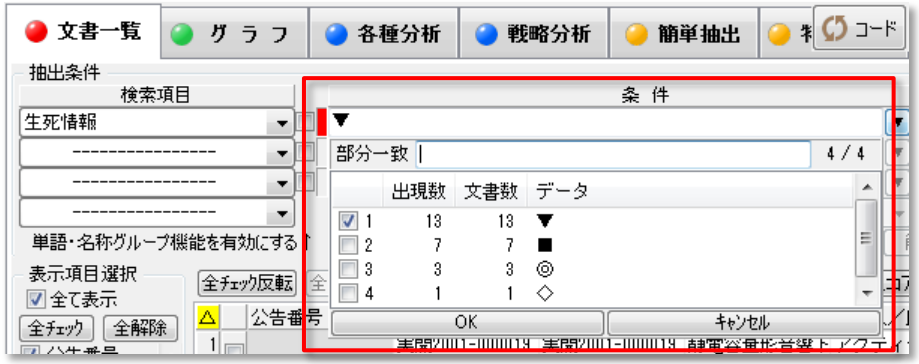
生死情報をグラフ軸に選択可能！！



・NRI2の【生死情報】を
『総合ランキング』に
表示することができるように
なりました。

・これにより、
【生死情報】を軸にした
グラフが作成できます。

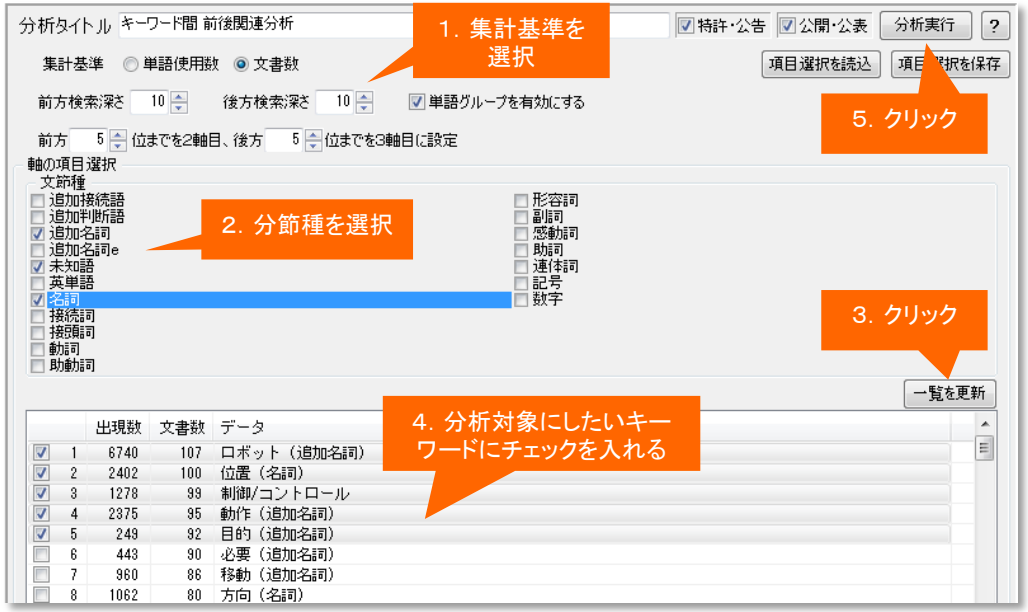
・『文書一覧』の抽出条件、
『シンプルスコア』の
入力条件にも選択できます。



バージョンアップにおける　主な新機能　（15）

2014(Ver.5.14.0009) → 2014(Ver.5.14.0013)

戦略分析に新機能を搭載！！



1. 集計基準を選択します。
2. 前方キー、メインキー、後方キーで使用する文節種を選択します。
3. ［一覧を更新］をクリックします。
4. 分析対象としたいキーワードを選択し、チェックを入れます。
5. ［分析実行］をクリックします。

メイン　・・・メインキーワード（1軸目）は青色で表示され、環状に配置されます。

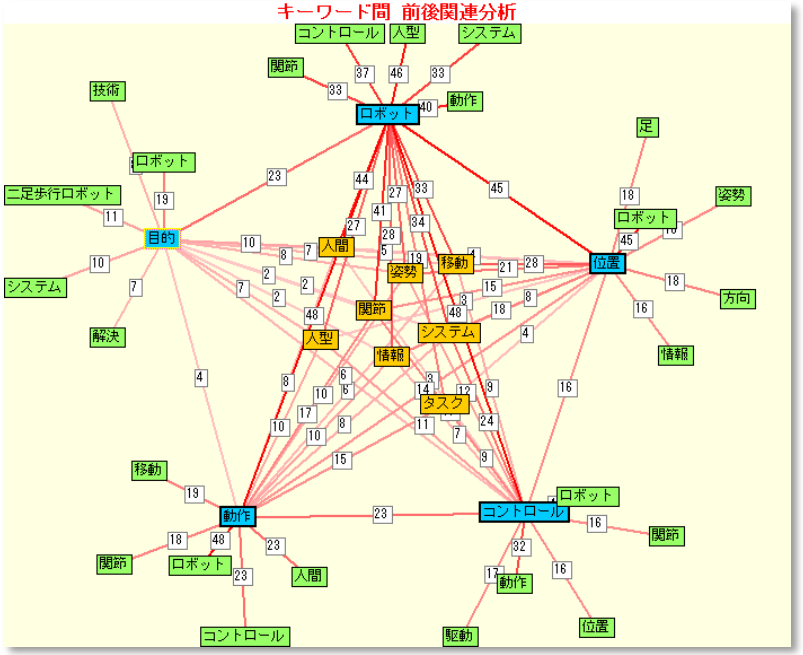
前 方　・・・前方キーワード（2軸目）は黄色く表示され、メインキーワードの内側に配置されます。

後 方　・・・後方キーワード（3軸目）は緑色で表示され、メインキーワードごとに展開されます。

【戦略分析】に、『キーワード間 前後関連分析』 を追加

・メインキーワードの前後によく出てくるキーワードと、その出現頻度をビジュアル化することができます。

・気になるワードの前後によく登場するワードを把握することで、どのような文脈がありそうかを理解する助けになります。



関連図（ツリー）と関連図（コンビ）が選択できます。

バージョンアップにおける　主な新機能（16）

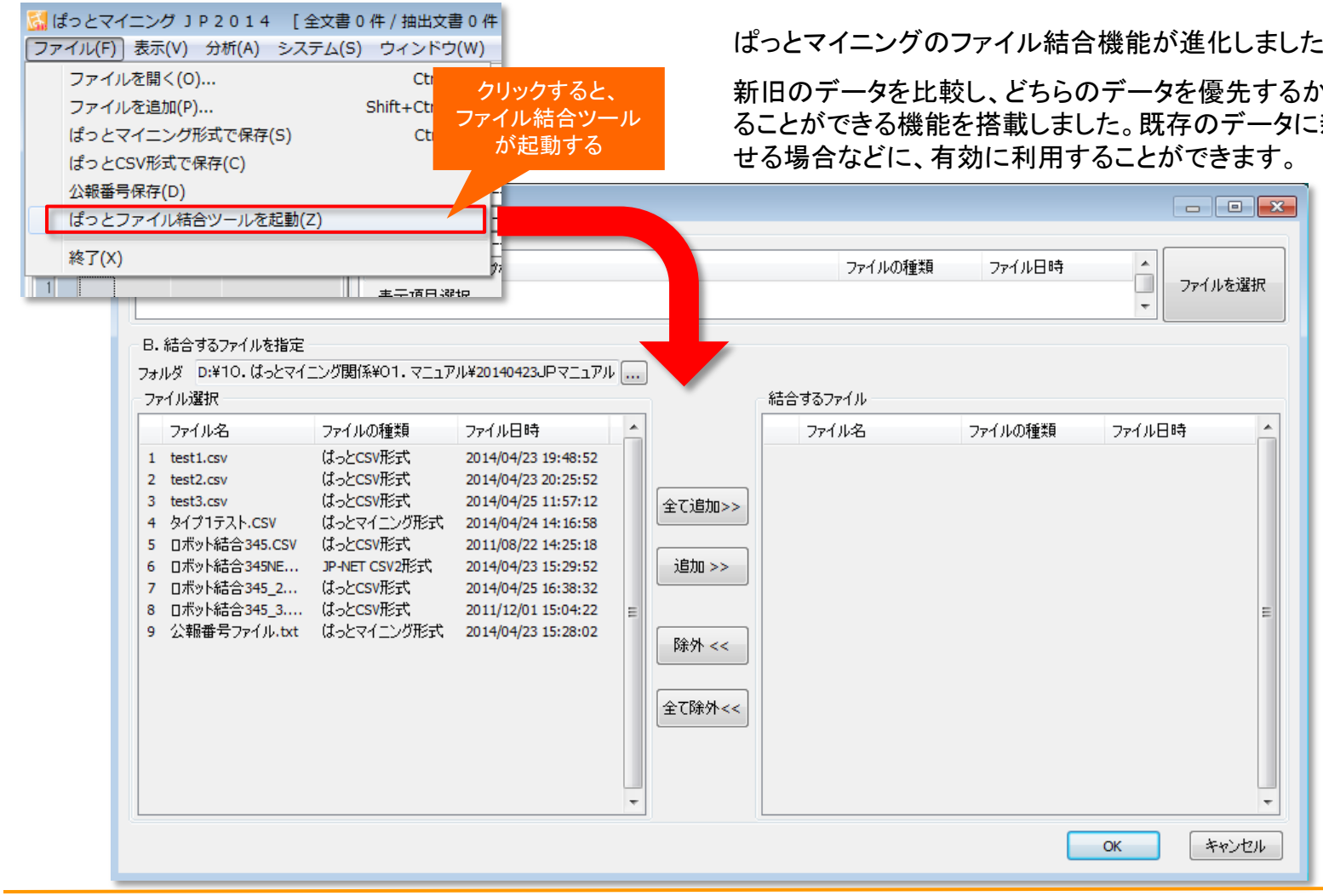
2014(Ver.5.14.0007) → 2014(Ver.5.14.0009)

【ぱっとファイル結合ツールの使い方】－１

ファイル結合機能をパワーアップ！

ぱっとマイニングのファイル結合機能が進化しました！

新旧のデータを比較し、どちらのデータを優先するかを選択しながら結合させることができる機能を搭載しました。既存のデータに新しい経過情報を結合させる場合などに、有効に利用することができます。



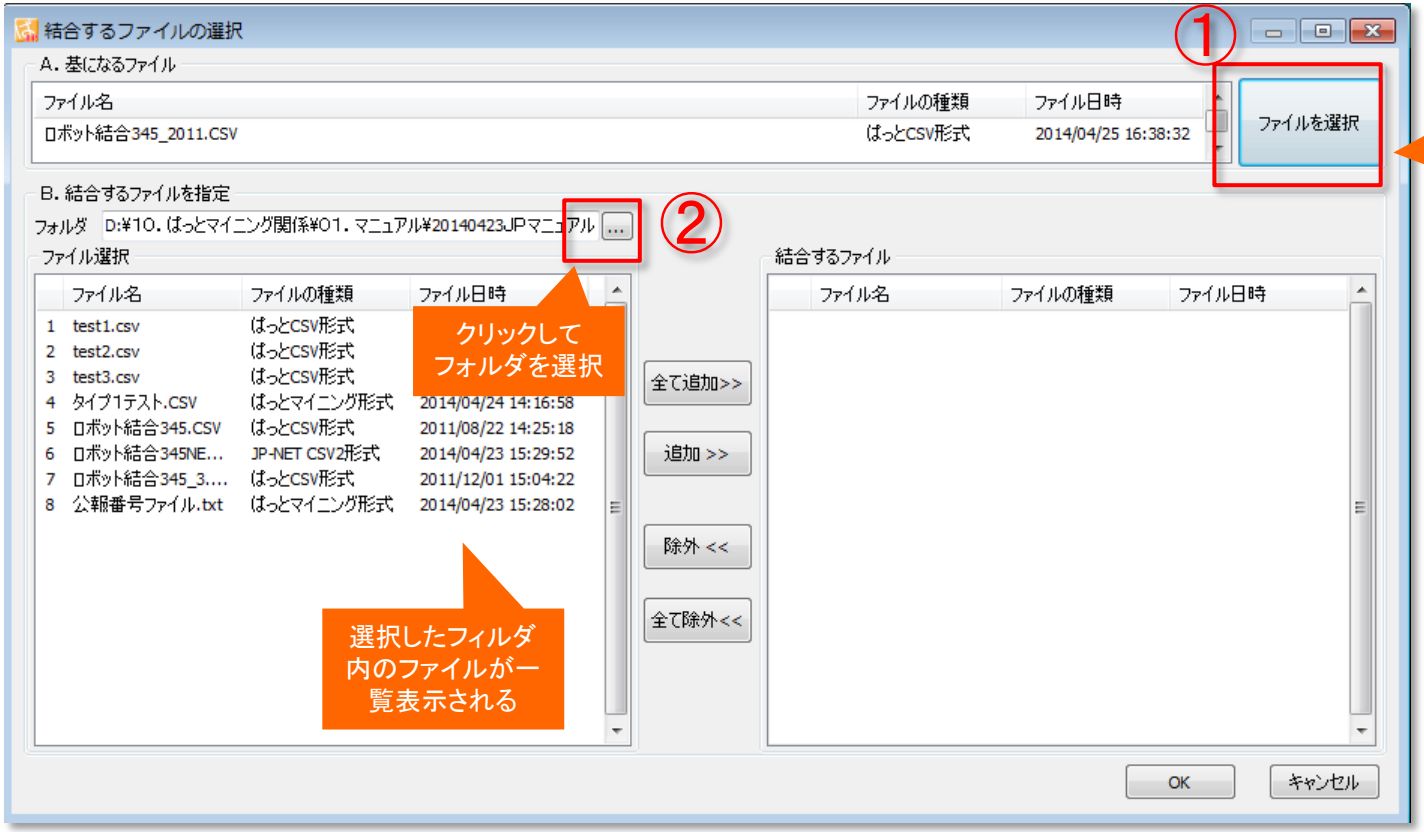
[ファイル]→[ぱっとファイル結合ツールを起動]をクリックして、ファイル結合ツールを起動します。

デスクトップのアイコンをクリックしてファイル結合ツールを起動させることもできる

バージョンアップにおける　主な新機能（17）

2014(Ver.5.14.0007) → 2014(Ver.5.14.0009)

【ぱっとファイル結合ツールの使い方】－2



『ファイル結合ツール』が起動したら、以下の手順でファイルを結合します。

1. 基になるファイルを選択します。

※基になるファイルは1ファイルのみが選択できます。

2. 結合するファイルのあるフォルダを選択します。

※結合するファイルは、複数ファイルが選択できます。

フォルダを選択すると、フォルダ内のファイルが一覧表示されます。

※JP－NETのデータのダウンロード形式には、

（1）「テキスト形式」※ぱっとマイニングで利用可能。

（2）「CSV形式」

（3）「CSV2形式」 ※ぱっとマイニングで利用可能。 ※作成モードを『タイプ3』に指定してください。

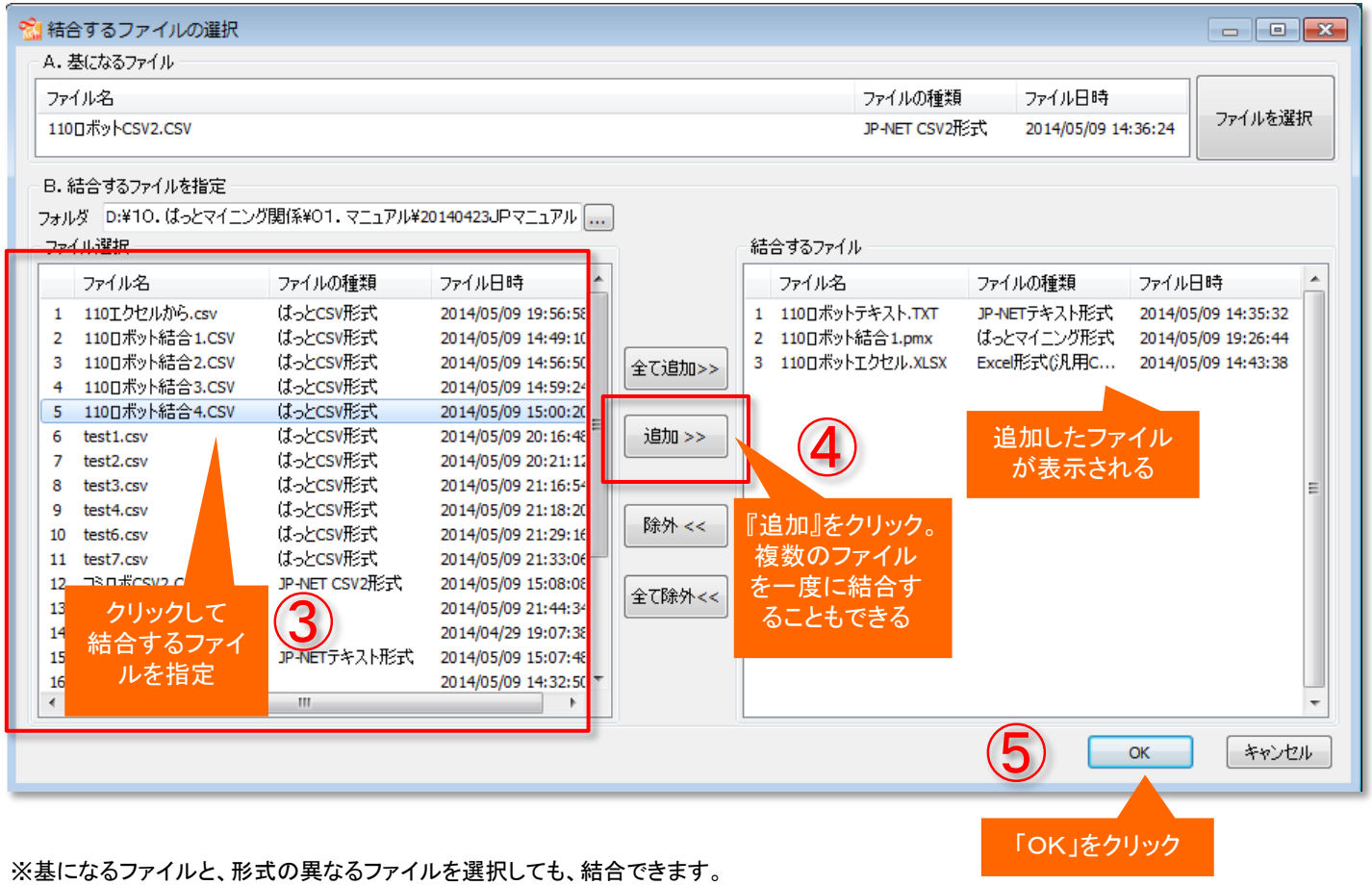
（4）「エクセル形式」・・・の4種類があります。

【審査経過項目】をご利用の場合は、「CSV2形式」『タイプ3』でダウンロードしたデータをご使用ください。

バージョンアップにおける　主な新機能（18）

2014(Ver.5.14.0007) → 2014(Ver.5.14.0009)

【ぱっとファイル結合ツールの使い方】－3



3. ファイルの一覧の中から、結合するファイルをクリックし、

4.『追加』ボタンをクリック。

※　ファイル名をダブルクリックしても、『追加』ボタンをクリックした場合と同じ効果があります。

※　一度に複数のファイルを結合することが可能です。

※『全て追加』ボタンをクリックすると、表示されたファイルがすべて追加されます。

※　結合するファイルの一覧からファイルを選択し、『除外』ボタンをクリックすると、選択したファイルを除外することができます。

※『全て除外』ボタンをクリックすると、ファイルがすべて除外されます。

5.「OK」をクリックすると、ファイルの読み込みが始まります。

※基になるファイルと、形式の異なるファイルを選択しても、結合できます。

※結合するファイルに、複数のファイルを選択する際、ファイル形式の一致を意識する必要はありません。異なる形式のファイルでも、結合できます。

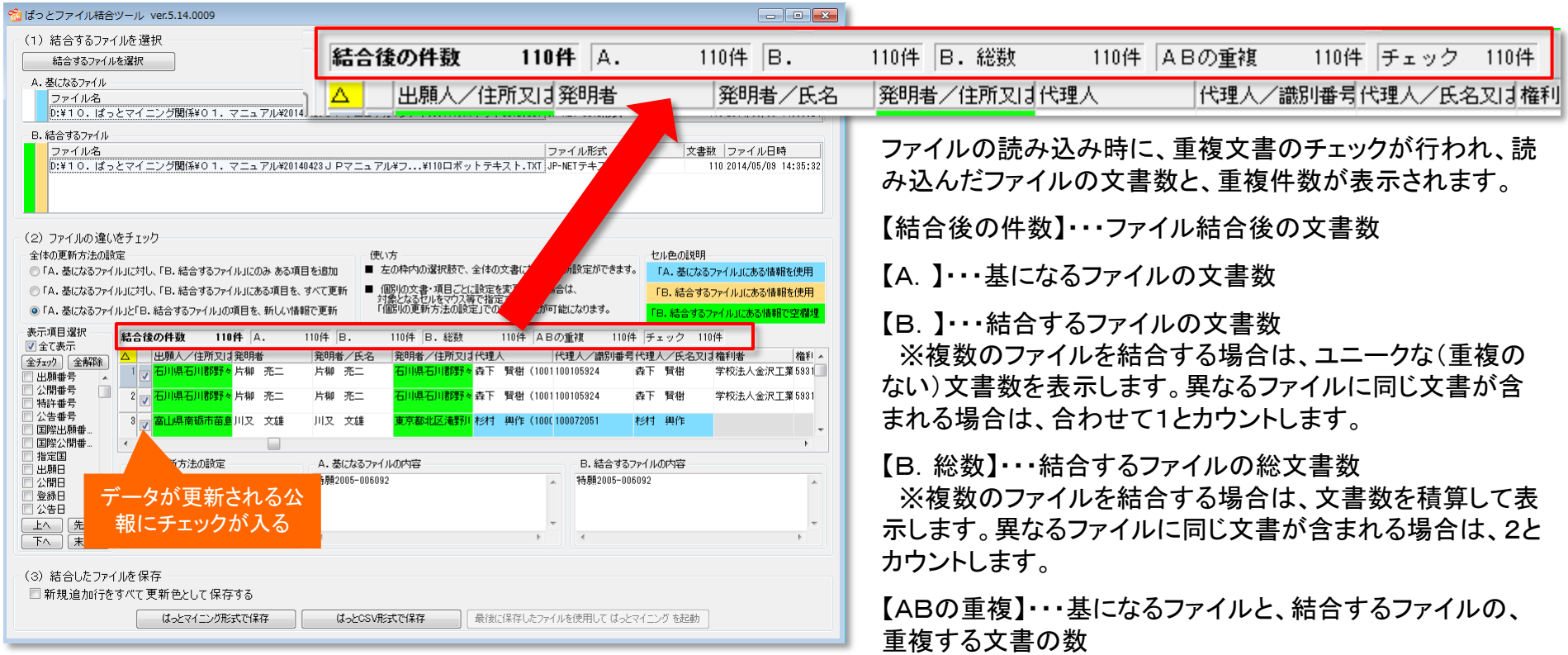
※エクセル形式（.xls）（.xlsx）のファイルを結合することもできます。ただし、PCにマイクロソフトのエクセルがインストールされている必要があります。

バージョンアップにおける　主な新機能　（19）

新機能紹介

2014(Ver.5.14.0007) → 2014(Ver.5.14.0009)

【ぱっとファイル結合ツールの使い方】－4



ファイルの読み込み時に、重複文書のチェックが行われ、読み込んだファイルの文書数と、重複件数が表示されます。

【結合後の件数】・・・ファイル結合後の文書数

【A. 】・・・基になるファイルの文書数

【B. 】・・・結合するファイルの文書数
※複数のファイルを結合する場合は、ユニークな（重複のない）文書数を表示します。異なるファイルに同じ文書が含まれる場合は、合わせて1とカウントします。

【B. 総数】・・・結合するファイルの総文書数
※複数のファイルを結合する場合は、文書数を積算して表示します。異なるファイルに同じ文書が含まれる場合は、2とカウントします。

【ABの重複】・・・基になるファイルと、結合するファイルの、重複する文書の数

【チェック】・・・チェックが付いた文書の数。

※基になるファイルと結合するファイルの両方に同じ公報番号があり、少しでもデータが異なる場合に、チェックボックスにチェックが入ります。

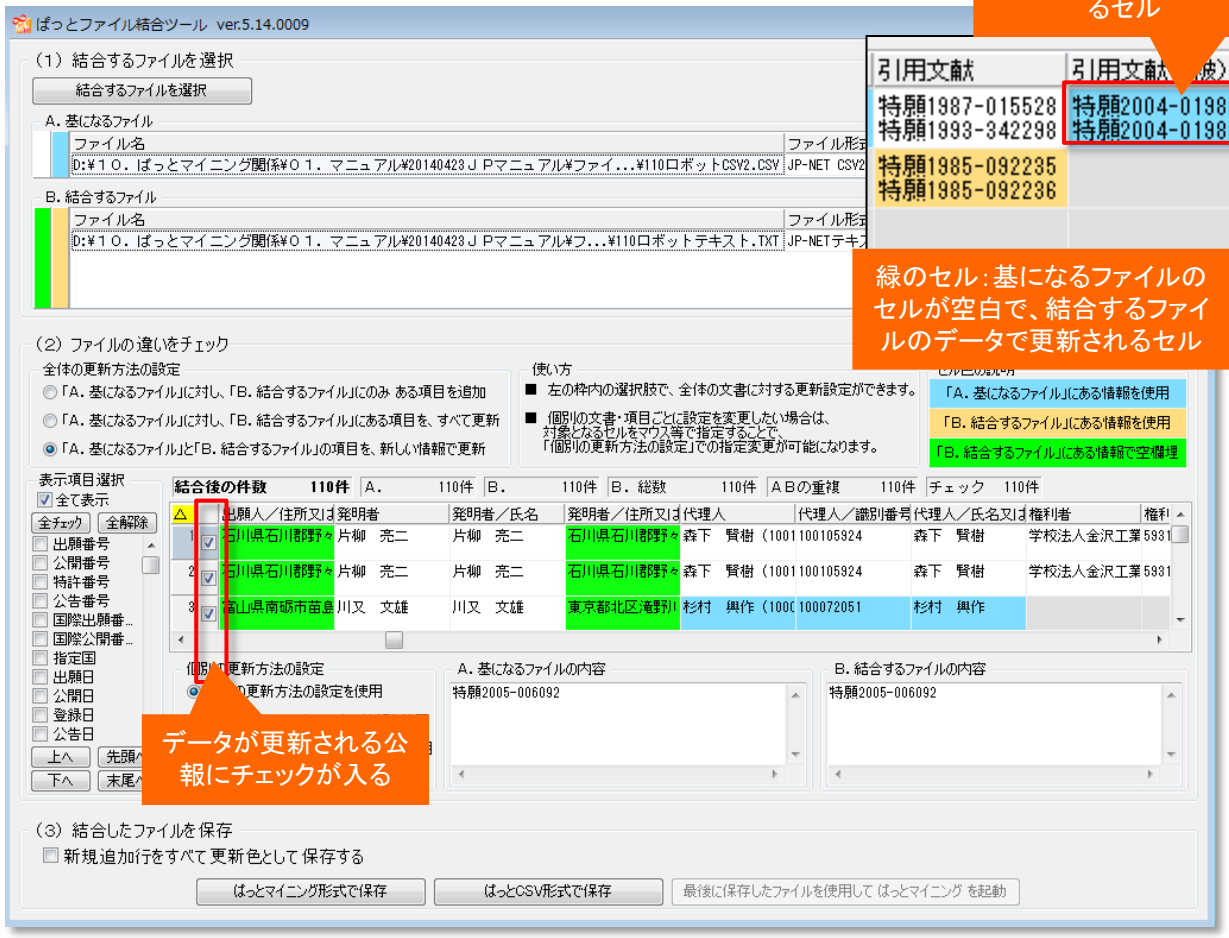
※　JP－NETのデータのダウンロード形式には、「テキスト形式」「CSV形式」「CSV2形式」「エクセル形式」の4種類の形式があります。そのうち、ぱっとマイニングで読み込み可能な形式は、「テキスト形式」と「CSV2形式」です。
【審査経過項目】をご利用になる場合は、「CSV2形式」で、作成モードを『タイプ3』に設定してデータをダウンロードし、テキスト形式のデータと結合してご使用ください。

バージョンアップにおける　主な新機能　（20）

新機能紹介

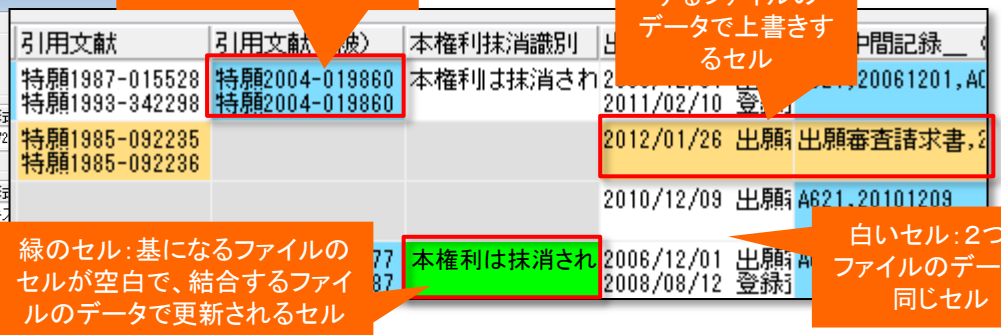
2014(Ver.5.14.0007) → 2014(Ver.5.14.0009)

【ぱっとファイル結合ツールの使い方】－5



青いセル：基になるファイルのデータを使用するセル

黄色いセル：結合するファイルのデータで上書きするセル



緑のセル：基になるファイルのセルが空白で、結合するファイルのデータで更新されるセル

白いセル：2つのファイルのデータが同じセル

データが更新される公報にチェックが入る

※結合するファイルが複数ある場合は、日付（ファイル日時）が最も新しいファイルのデータを優先します。

- 青いセル：　基になるファイルと、結合するファイルとで、異なるデータが記載されていて、基になるファイルのデータを使用する。
- 黄色いセル：結合するファイルのデータで上書きする。
- 緑のセル：基になるファイルのセルが空白で、結合するファイルのデータで上書きする。
- 白いセル：基になるファイルと、結合するファイルのデータが同じ場合。または、基になるファイルにデータがあり、結合するファイルにデータがない場合。

ファイルの読み込みが終わると、セルごとに色分けされた一覧表が表示されます。

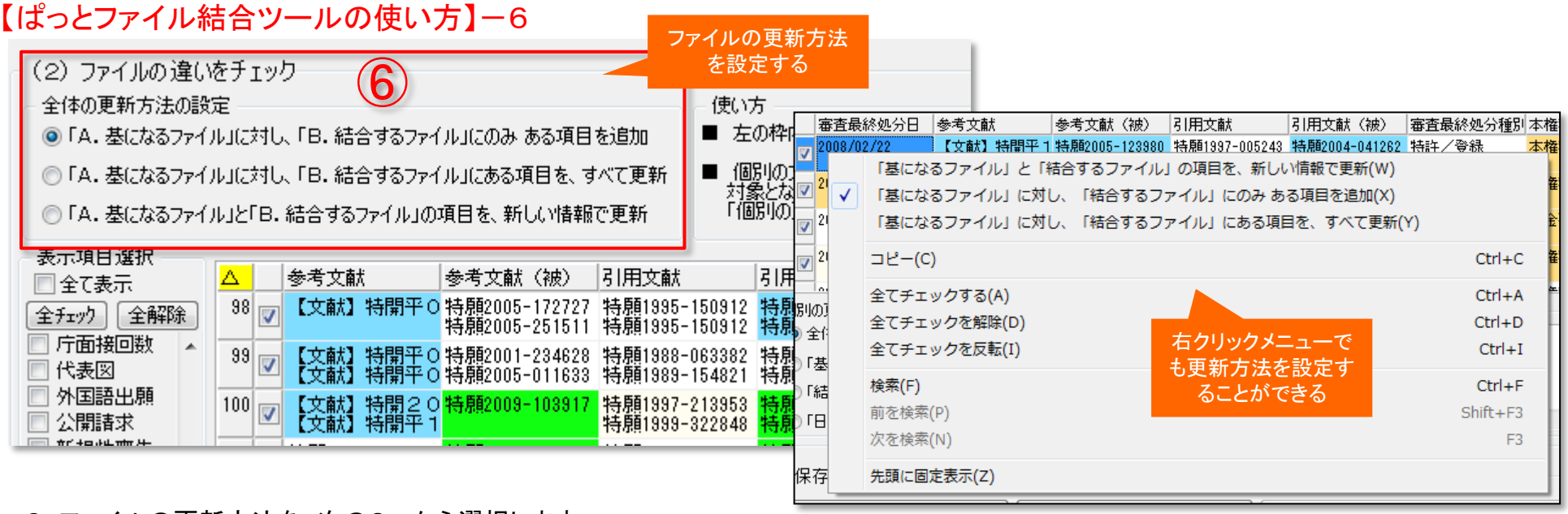
基になるファイルと結合するファイルの両方に同じ公報番号があり、少しでもデータが異なる場合に、チェックボックスにチェックが入ります。

※チェックをオン／オフしても結合動作に変化はありません。

バージョンアップにおける　主な新機能（21）

2014(Ver.5.14.0007) → 2014(Ver.5.14.0009)

【ぱっとファイル結合ツールの使い方】－6



6. ファイルの更新方法を、次の3つから選択します。

・「A. 基になるファイル」に対し、「B. 結合するファイル」にのみある項目を追加
　・・・基になるファイルと、結合するファイルの同じセルにデータがある場合、基になるファイルのデータを残します。基になるファイルのセルが空白で、結合するファイルのセルにデータがある場合は、結合するファイルのデータが残されます。

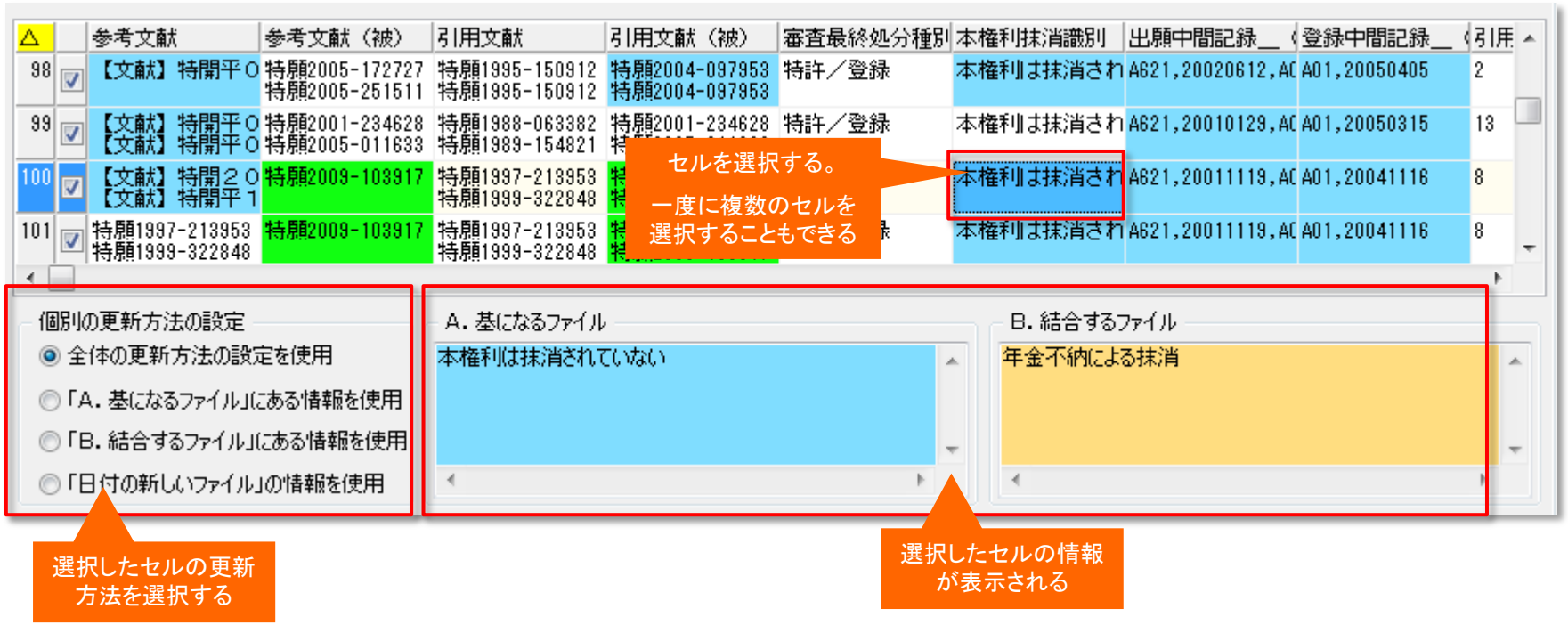
・「A. 基になるファイル」に対し、「B. 結合するファイル」にある項目を、すべて更新
　・・・結合するファイルのデータがあるセルのデータを残します。結合するファイルのセルが空白で、基になるファイルのセルにデータがある場合は、基になるファイルのデータが残されます。

・「A. 基になるファイル」と「B. 結合するファイル」の項目を、新しい情報で更新
　・・・基になるファイルと、結合するファイルの同じセルにデータがある場合、日付（ファイル日時）の新しい方のファイルのデータを残します。どちらか一方のファイルのセルが空白の場合は、データがある方のファイルのデータを残します。

バージョンアップにおける　主な新機能　（22）

2014(Ver.5.14.0007) → 2014(Ver.5.14.0009)

【ぱっとファイル結合ツールの使い方】－7



更新の方法を、文書内のセル毎に個別に設定する場合は、設定したいセルを選択してから、左下にある「個別の更新方法の設定」の、4つの設定のいずれかを選択します。

・全体の更新設定を使用・・・全体の更新方法の設定で選択した更新方法を適用します。

・「A. 基になるファイル」にある情報を使用・・・基になるファイルのデータを残します。

・「B. 結合するファイル」にある情報を使用・・・結合するファイルのデータを残します。

・「日付の新しいファイル」の情報を使用・・・日付（ファイル日時）が新しい方のファイルのデータを残します。

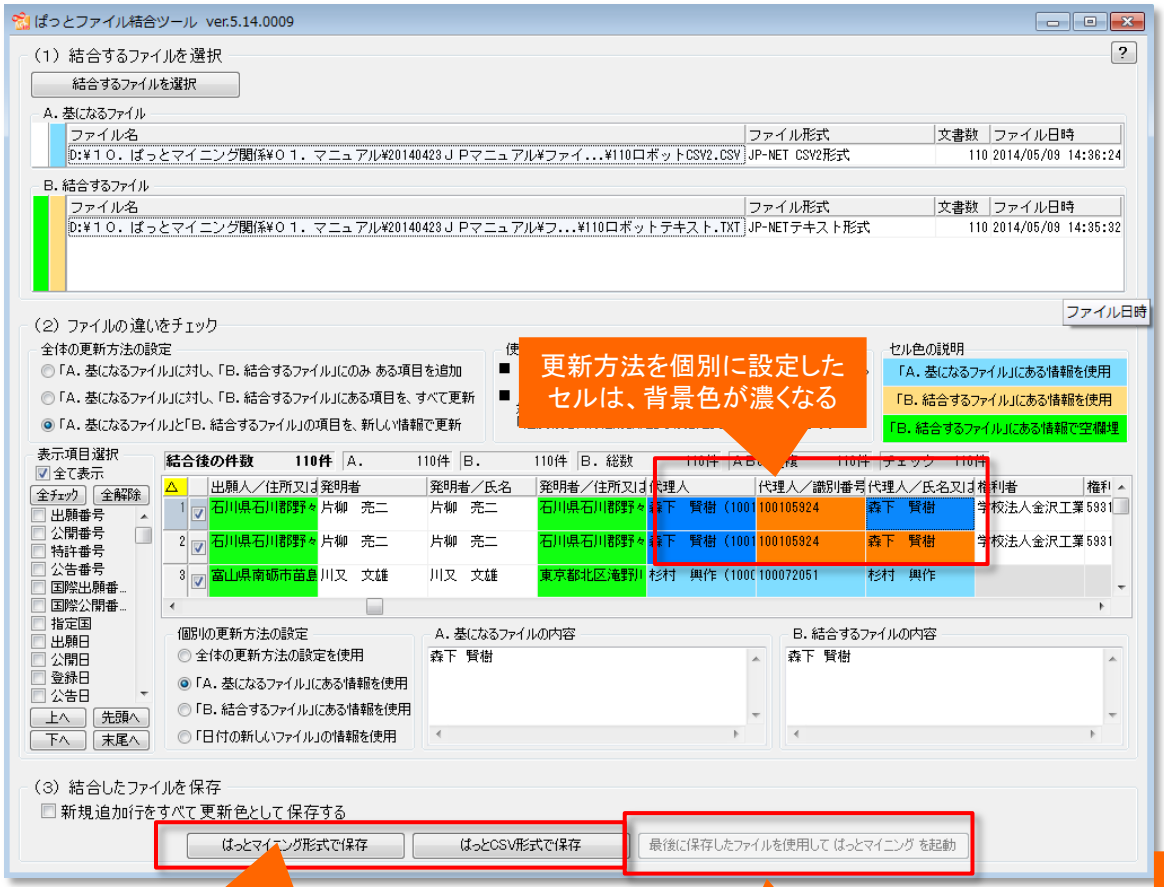
※更新方法を個別に設定したセルは、背景色が濃く表示されます。

バージョンアップにおける　主な新機能　（23）

新機能紹介

2014(Ver.5.14.0007) → 2014(Ver.5.14.0009)

【ぱっとファイル結合ツールの使い方】－８



7. ファイルの設定が終了したら、『ぱっとマイニング形式で保存』、または『ぱっとCSV形式で保存』をクリックし、任意のファイル名をつけて保存します。

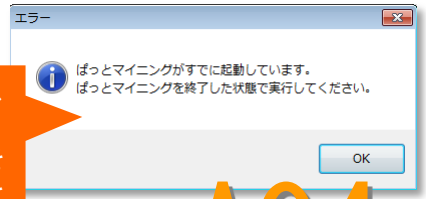
8. ぱっとマイニングが起動している場合は、ぱっとマイニングを終了します。

9. 『最後に保存したファイルを使用してぱっとマイニングを起動』をクリックすると、ぱっとマイニングが起動し、保存したファイルを読み込みます。

「新規追加行をすべて更新色として保存する」
　・・・チェックを入れておくと、「基になるファイル」にはない文書を追加した場合、ぱっとマイニングに読み込んだ際に、該当文書のセルがすべて背景色付きとなるため、追加文書が見分けやすくなります。

『ぱっとマイニング形式で保存』
　・・・ぱっとマイニングのオリジナル形式（pmx形式）で保存します。

『ぱっとCSV形式で保存』
　・・・CSV形式で保存します。



⑧

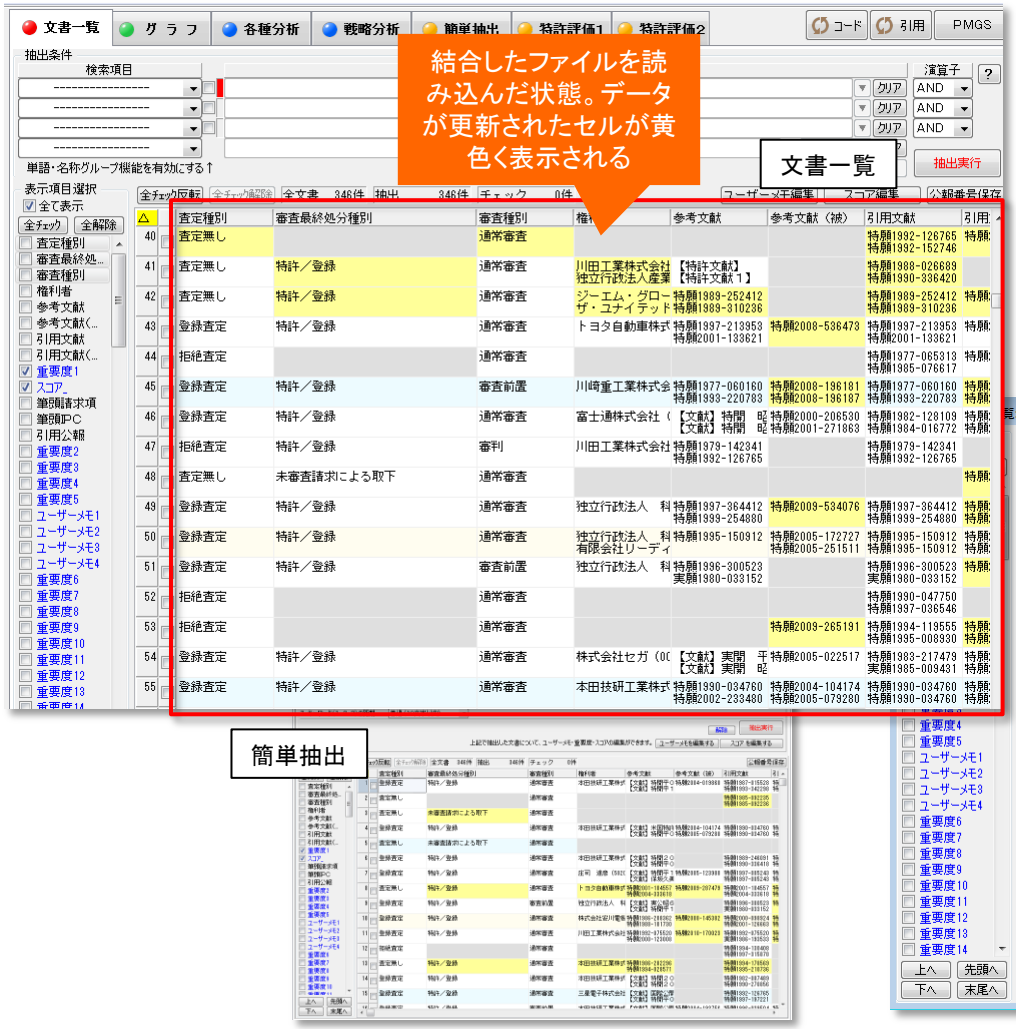
ぱっとマイニングが起動している場合は、終了してから、『保存したファイルをぱっとマイニングで開く』をクリックする

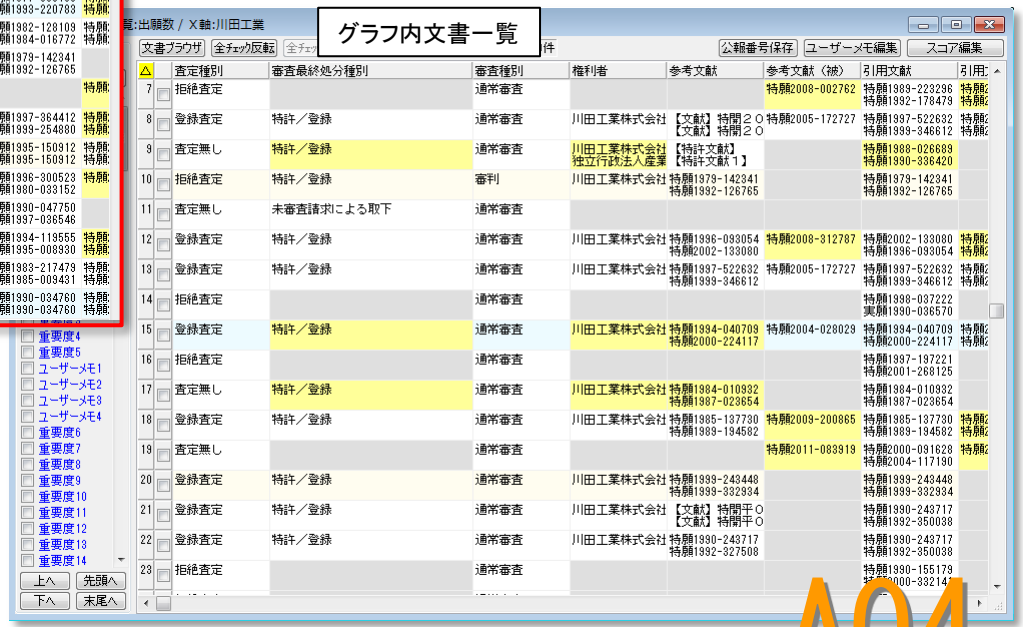
バージョンアップにおける　主な新機能　（24）

新機能紹介

2014(Ver.5.14.0007) → 2014(Ver.5.14.0009)

【ぱっとファイル結合ツールの使い方】－９





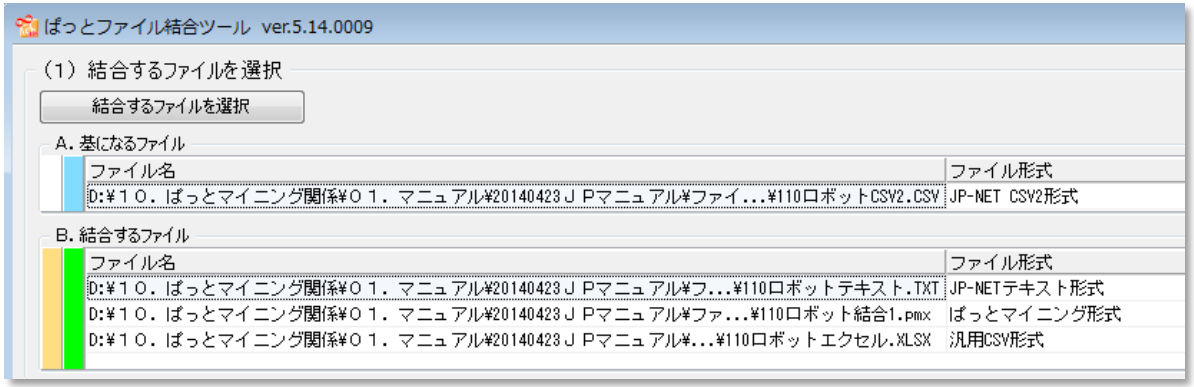
保存したファイルをぱっとマイニングで読み込むと、ファイルの結合時にデータが更新されたセルが、黄色い背景色で表示されます。

※　ぱっとマイニングでファイルを保存すると、次回の読み込み以降は黄色い背景色が表示されなくなります。

バージョンアップにおける　主な新機能　（25）

2014(Ver.5.14.0007) → 2014(Ver.5.14.0009)

【ぱっとファイル結合ツールの使い方】－10　　【結合ツール利用上の注意点】



→

1. ダウンロード形式の違いによるデータの差異

同じ公報で、内容に変更がない場合あっても、ダウンロード形式が異なると、データが差異が生じる場合があります。
たとえば、JP－NETの場合、テキスト形式でダウンロードすると、段落の先頭にスペースが入りますが、CSV2形式でダウンロードすると、スペースが入りません。
この違いをなるべく吸収するために、ファイル結合ツールで読み込む際（ぱっとマイニング本体で読み込む場合も同様）に、文章の先頭と末尾に入る不要なスペースを削除するようにしていますが、その他にも差異が出る場合があります。

2. 結合したファイルのデータサイズについて

ファイル結合ツールによる結合後のデータは、結合時に「変更した項目名」のデータを持っているため、以前のバージョンのぱっとマイニング本体で結合した場合よりもデータサイズが大きくなります。
※　ぱっとマイニングで読み込んで保存すると、「変更した項目名」のデータを保存しないため、データサイズが保存前よりも小さくなる場合があります。

3. エクセルファイルの結合について

ぱっとファイル結合ツールでは、エクセル形式（.xls）（.xlsx）のファイルを結合することもできます。
ただし、PCにMicrosoft Exel（マイクロソフト・エクセル）（バージョン2007以降）がインストールされている必要があります。
また、一行目がタイトル行となっており、公報種別、公報番号、出願番号が入っていなければなりません。
エクセル形式のデータは、汎用CSVデータとして取り扱います。

バージョンアップにおける　主な新機能　（26）

新機能紹介

2014(Ver.5.14.0007) → 2014(Ver.5.14.0009)

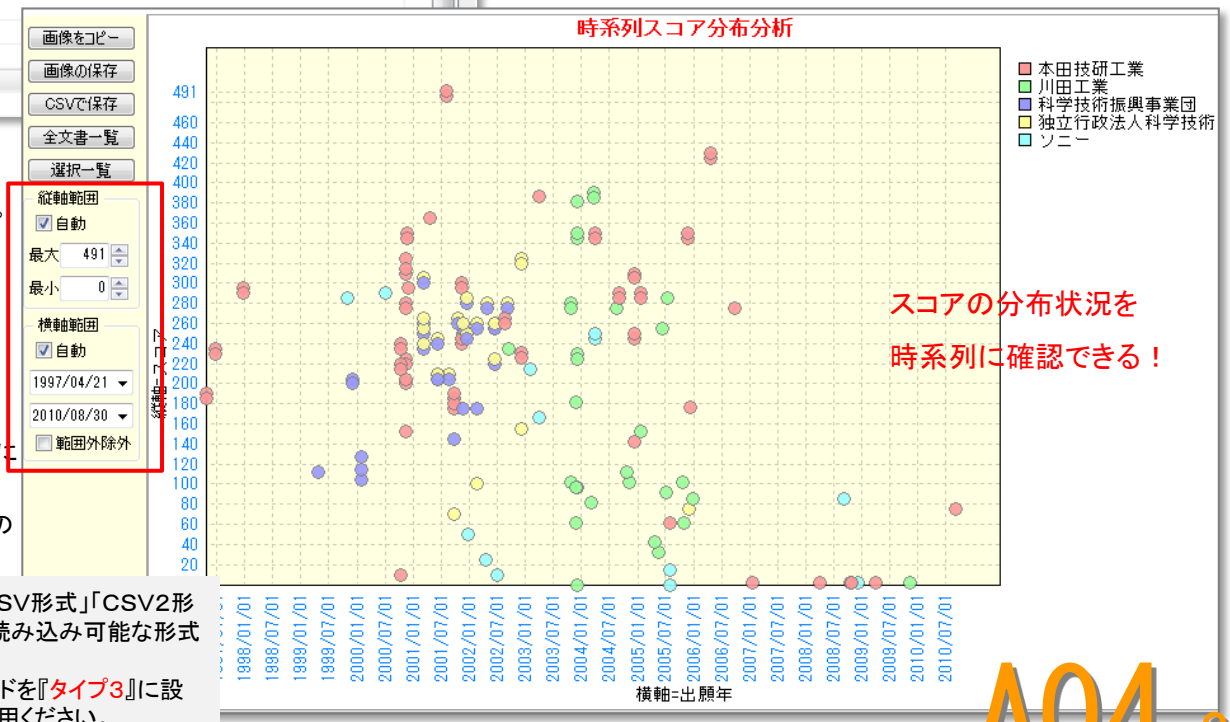
戦略分析に新機能を搭載！！

【戦略分析】に、『時系列スコア分布分析』 を追加

・スコアの【合計】に基づいた、時系列のスコア分布図が作成できます。

・どれぐらいのスコアを持つ公報が、いつ頃に分布しているかがすぐに分かります。

・ひとつのバブルがひとつの公報を意味します。



スコアの分布状況を

時系列に確認できる！

1. 横軸項目（出願年・公開年・登録年）を選択します。
2. 対象項目（キーワード・出願人・分類コードなど）を選択します。
3. ［一覧を更新］をクリックします。
4. 分析対象としたい項目を選択し、チェックを入れます。
5. ［分析実行］をクリックします。

「縦軸範囲」「横軸範囲」を手動で選択することができます。

範囲を縮小した際にバブルが枠からはみ出す場合は、
「範囲外除外」にチェックを入れると、はみ出したバブルを非表示にします。

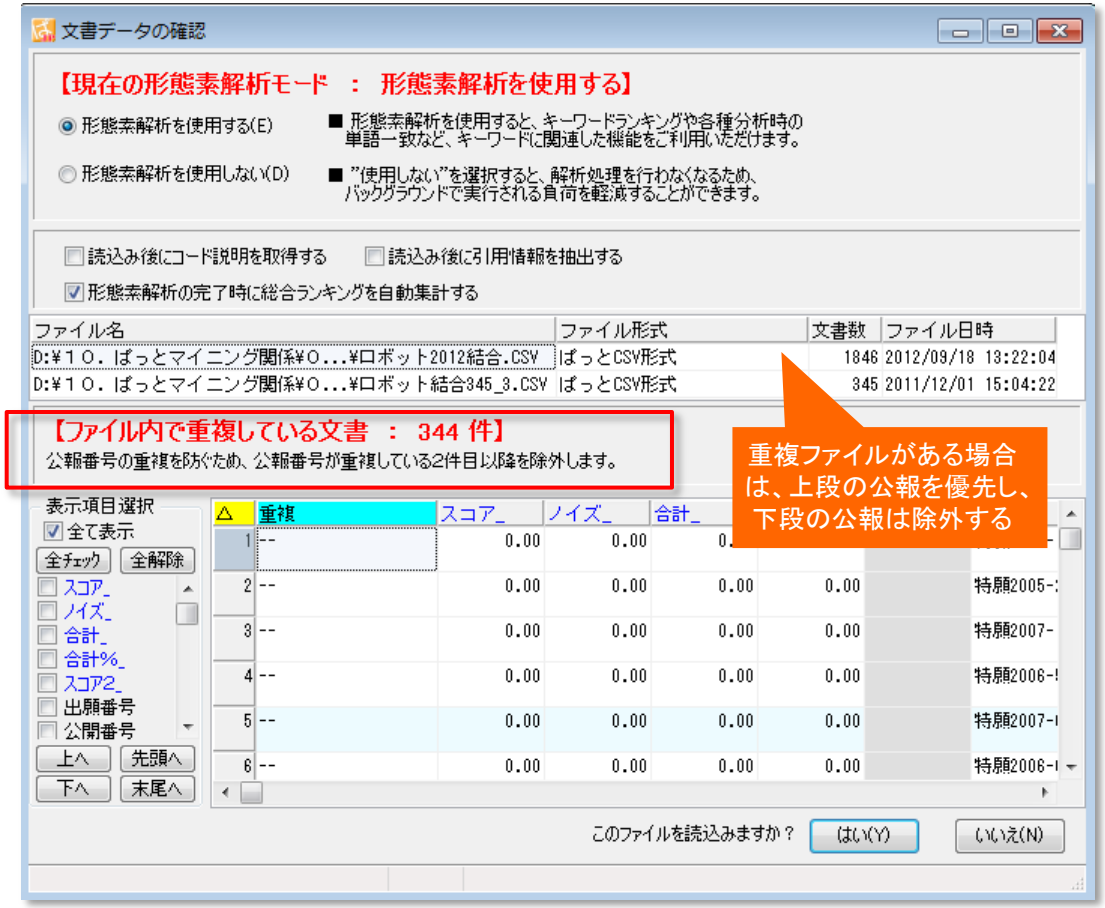
※　年月日に基づいてバブルが描画されるため、横軸の項目名の推薦状にバブルが位置するとは限りません。

※　JP－NETのデータのダウンロード形式には、「テキスト形式」「CSV形式」「CSV2形式」「エクセル形式」の4種類の形式があります。ぱっとマイニングで読み込み可能な形式は、「テキスト形式」と「CSV2形式」です。
【審査経過項目】をご利用になる場合は、「CSV2形式」で、作成モードを『タイプ3』に設定してデータをダウンロードし、テキスト形式のデータと結合してご使用ください。

バージョンアップにおける　主な新機能　（27）

2014(Ver.5.14.0007) → 2014(Ver.5.14.0009)

複数ファイルの同時読み込み時に、文書の重複をチェックします！



利用中の辞書ファイルなどの設定が確認できる

・ぱっとマイニングで複数のファイルを読み込む場合、従来は重複文書のチェックを行っておりませんでしたが、今回から、文書の重複をチェックして表示するようになりました。

・文書が重複している場合は、先に読み込んだファイルを優先し、あとに読み込んだファイルの文書は除外します。

『文書重複表示の種類』

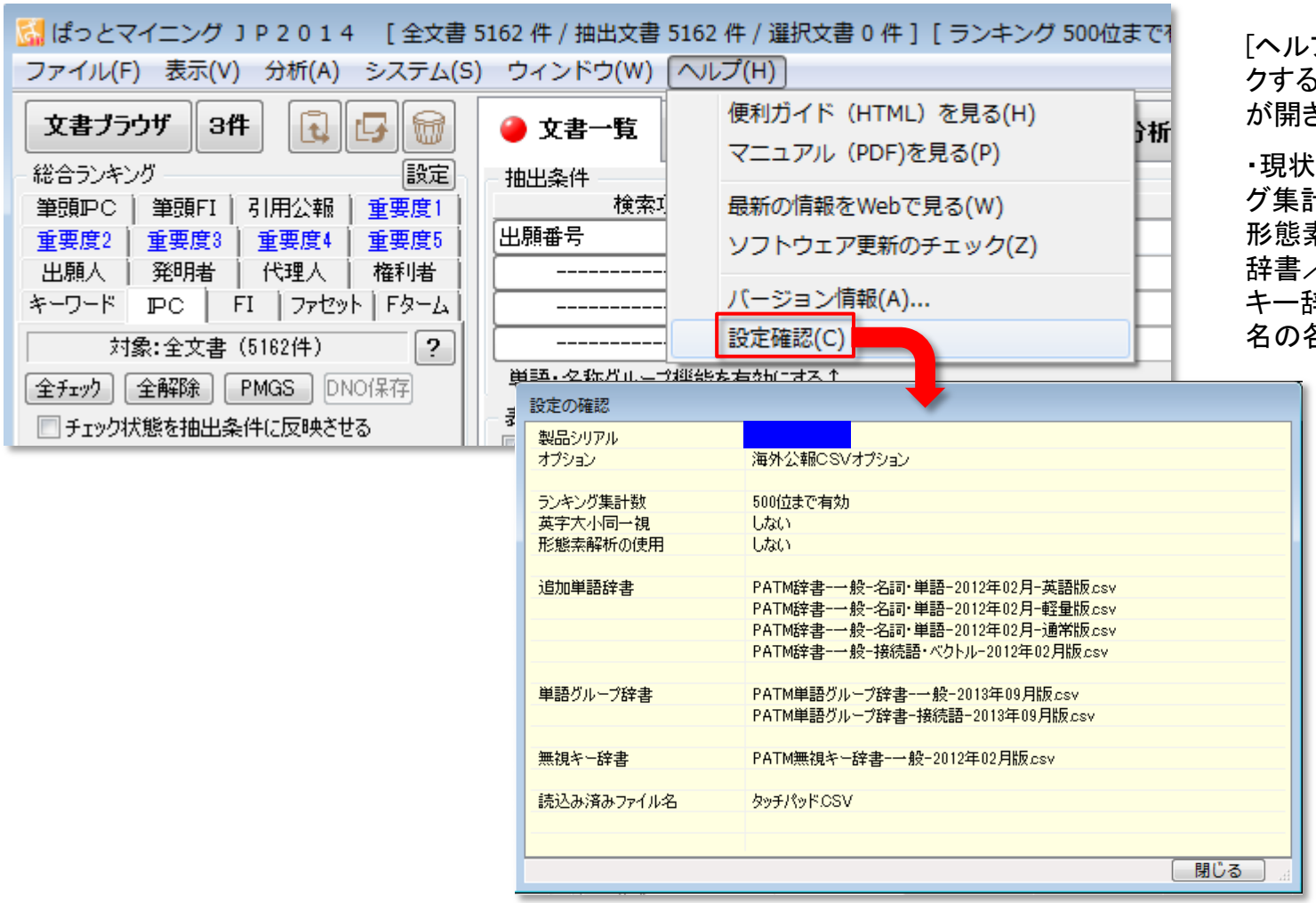
1. 既存ファイルとの重複
   …追加読込で先に読込まれている文書との重複
2. ファイル内で重複
   …今回読み込もうとしているファイル内での重複
3. 公報番号不明
   …公報番号が特定できないイレギュラーな文書

バージョンアップにおける　主な新機能　（28）

2014(Ver.5.14.0007) → 2014(Ver.5.14.0009)

設定確認をヘルプメニュー内に移動しました！

利用中の辞書ファイルなどの設定が確認できる



[ヘルプ]　→　[設定確認]をクリックすると、設定の確認ウィンドウが開きます。

・現状の製品シリアル／ランキング集計数／英字大小同一視／形態素解析の使用／追加単語辞書／単語グループ辞書／無視キー辞書／読込み済みファイル名の各設定が確認できます。

バージョンアップにおける　主な新機能　（29）

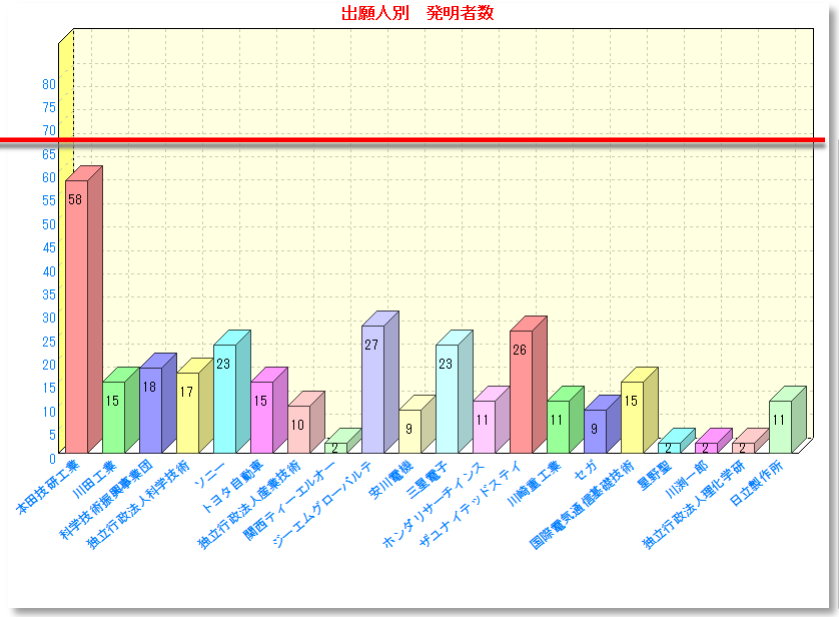
新機能紹介

2014(Ver.5.14.0005) → 2014(Ver.5.14.0007)

グラフのスケールを任意に調整できる！！

グラフのスケールの最大値と最小値を設定できる

複数のグラフを比較するときに、スケールを揃えることができる！



範囲の設定は以下のグラフの縦軸 で使用可能です。

- 「棒グラフ」
- 「折れ線グラフ」
- 「フロート」
- 「複数_棒」
- 「複数_折線」
- 「複数_フロート」

・数値軸をもつグラフでは、縦軸に表示する範囲を手動で設定できるようになりました。

・複数のグラフを作成した時、同じスケールでグラフを比較することができます。

・デフォルトでは、「自動」にチェックが入っています。最大、最小の値を変更すると、「自動」のチェックがはずれ、任意のスケールに変更することができます。

・グラフごと（タブごと）にスケールを変更することができます。グラフを閉じる（タブを閉じる）と、設定は消え、 新しいグラフを作成する際には、「自動」にチェックが入ります。

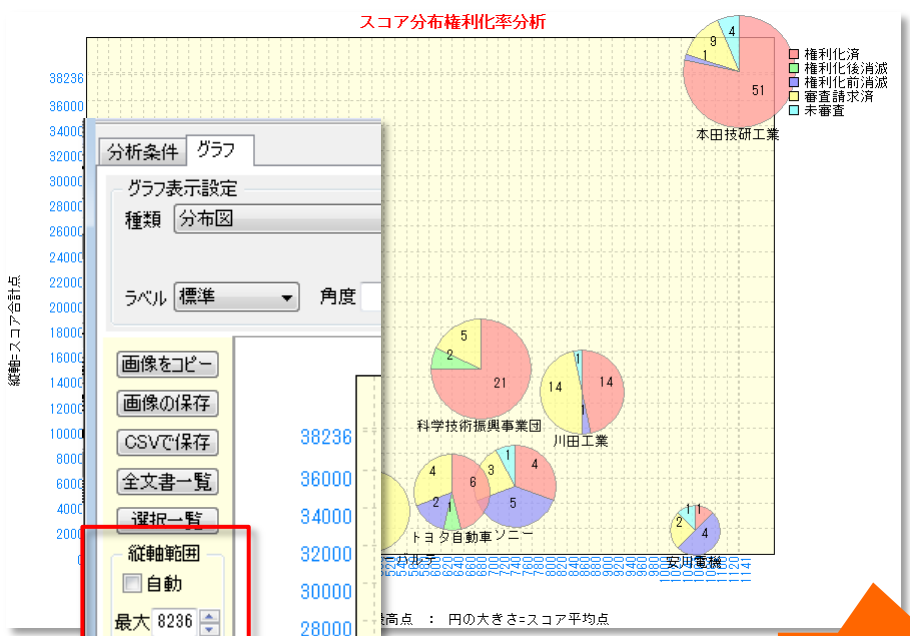
バージョンアップにおける　主な新機能　（30）

新機能紹介

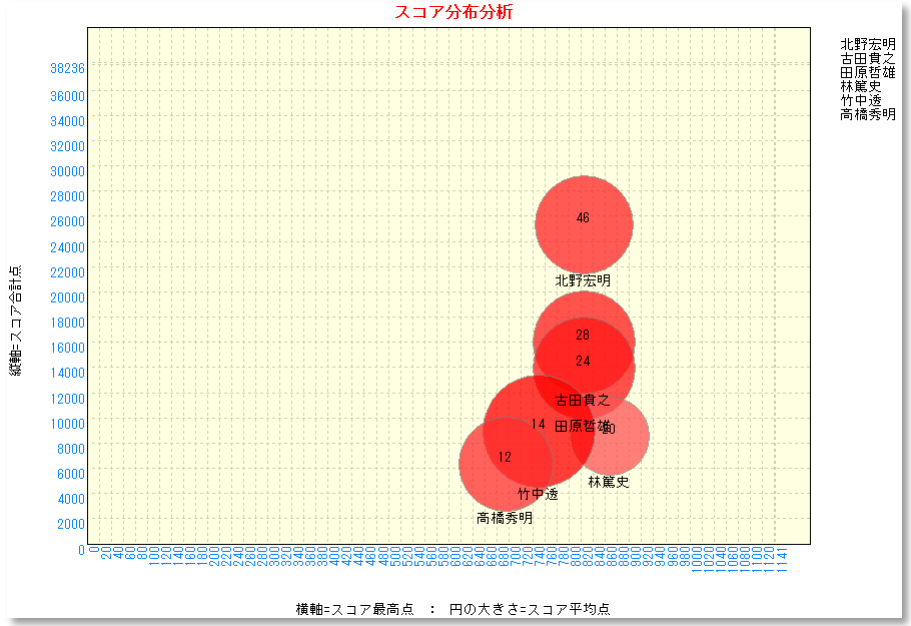
2014(Ver.5.14.0005) → 2014(Ver.5.14.0007)

【戦略分析】縦軸、横軸のスケールが調整可能に！！

スケールを合わせて精度の高い比較分析を！



縦軸と横軸のスケールの最大値と最小値を設定できる



複数のグラフを、同じスケールで比較することができる

・「戦略分析」の【スコア分布分析】【スコア分布権利化率分析】では、縦軸範囲、横軸範囲を手動設定できるようになりました。

・デフォルトでは、「自動」にチェックが入っています。最大、最小の値を変更すると、「自動」のチェックがはずれ、任意のスケールに変更することができます。

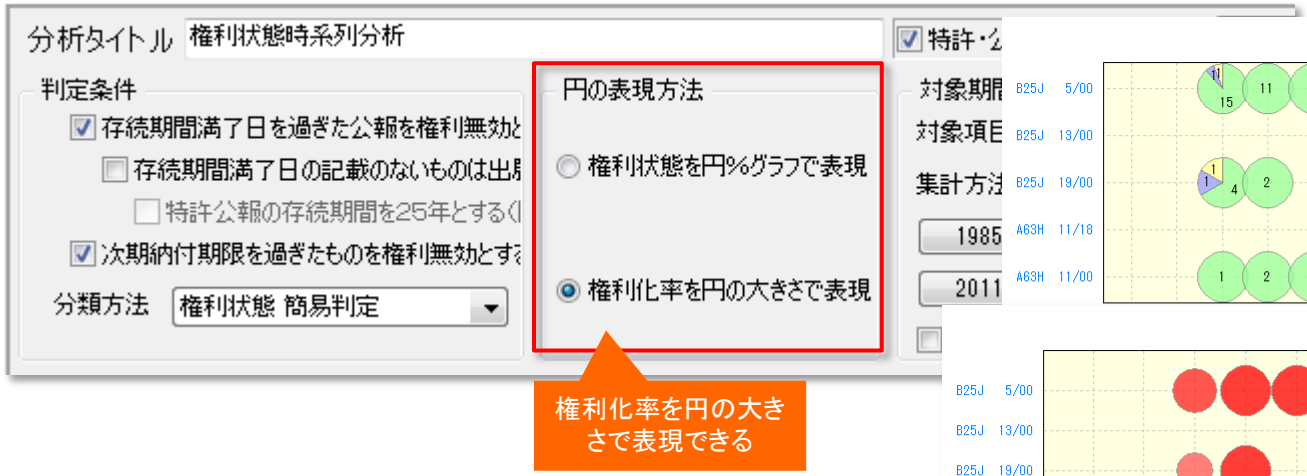
バージョンアップにおける　主な新機能　（31）

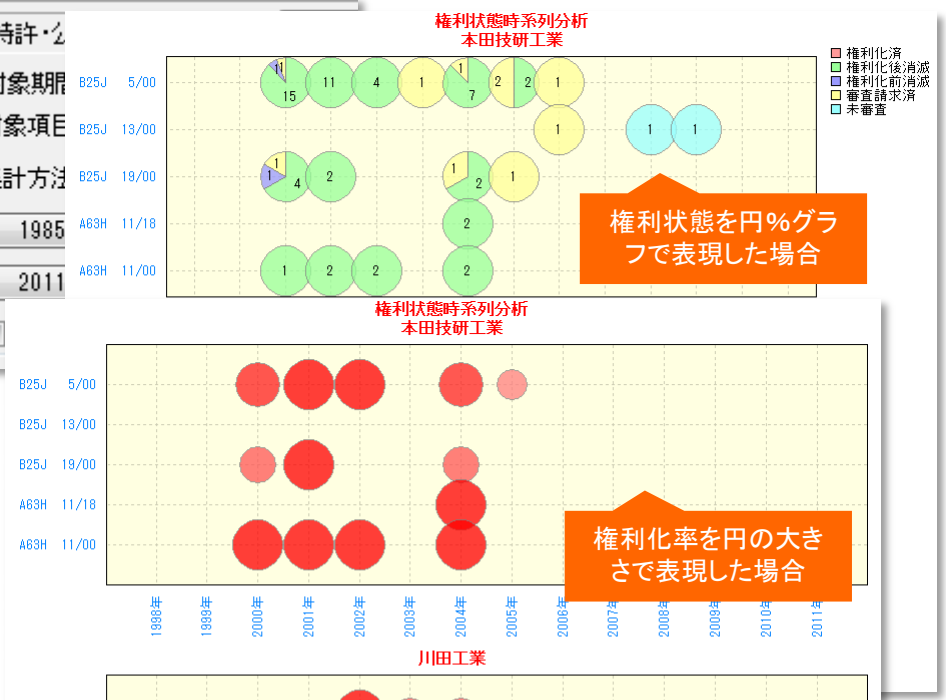
新機能紹介

2014(Ver.5.14.0005) → 2014(Ver.5.14.0007)

【戦略分析】円%グラフに加えて、バブルチャートでの表現も可能に！！

円の表現方法を2種類から選択！





「戦略分析」の【権利状態時系列分析】【権利状態項目分析】において、「円の表現方法」が選択できるようになりました。

・「権利状態を円%グラフで表現」（従来と同じ表現方法です）と、「権利化率を円の大きさで表現」とを選択することができます。

・「権利化率を円の大きさで表現」を選択すると、円の大きさが変化するとともに、権利化の%を数字で表現します。

※　JP－NETのデータのダウンロード形式には、「テキスト形式」「CSV形式」「CSV2形式」「エクセル形式」の4種類の形式があります。ぱっとマイニングで読み込み可能な形式は、「テキスト形式」と「CSV2形式」です。
【審査経過項目】をご利用になる場合は、「CSV2形式」で、作成モードを『タイプ3』に設定してデータをダウンロードし、テキスト形式のデータと結合してご使用ください。

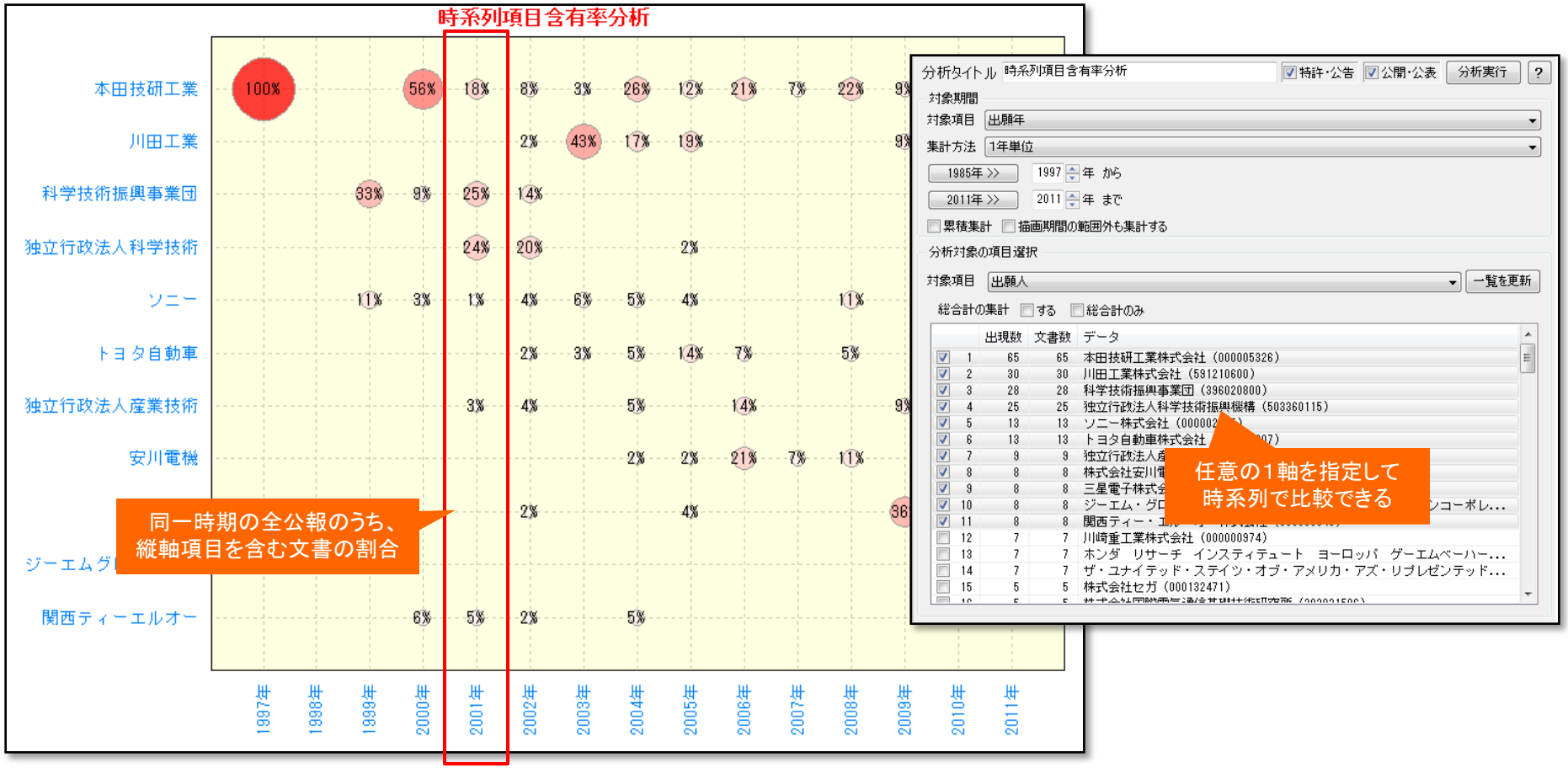
バージョンアップにおける　主な新機能　（32）

新機能紹介

2014(Ver.5.14.0003) → 2014(Ver.5.14.0005)

戦略分析【時系列項目含有率分析】搭載！！

時間の経過とともに推移していく割合を比較する！



時系列＋任意の1軸

例：ある出願年に含まれる全公報のうち、ある出願人の公報の占める数を割合（%）で表示できます。

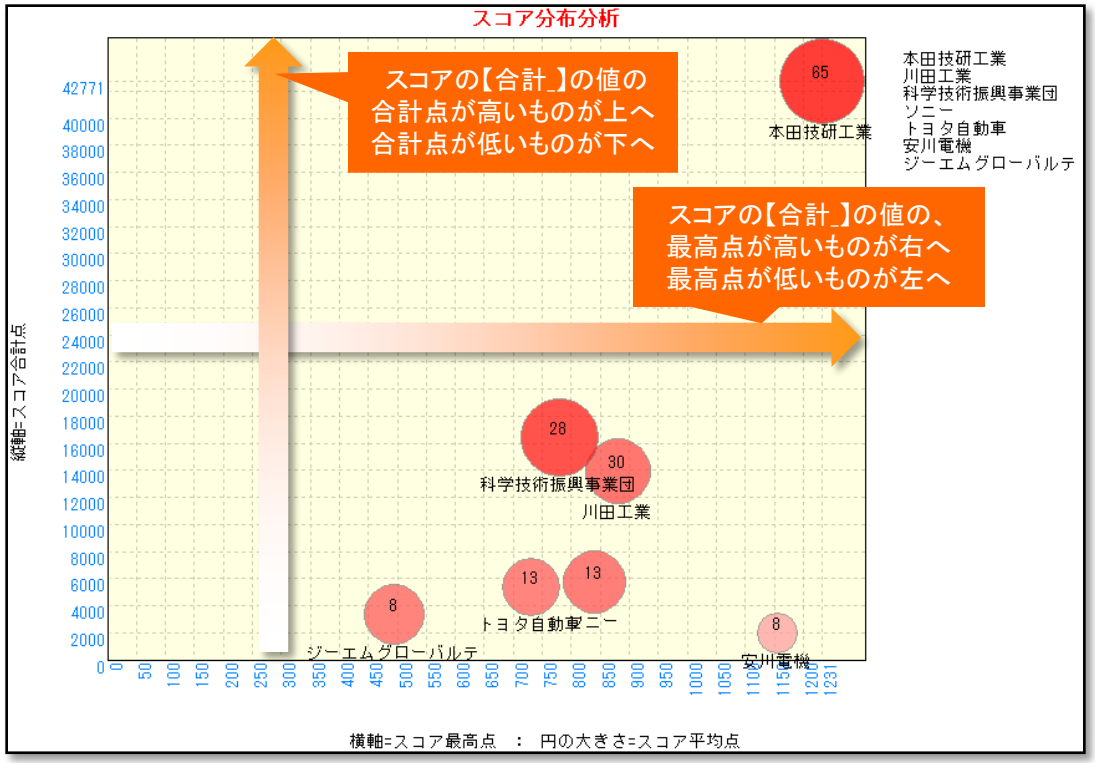
バージョンアップにおける　主な新機能　（33）

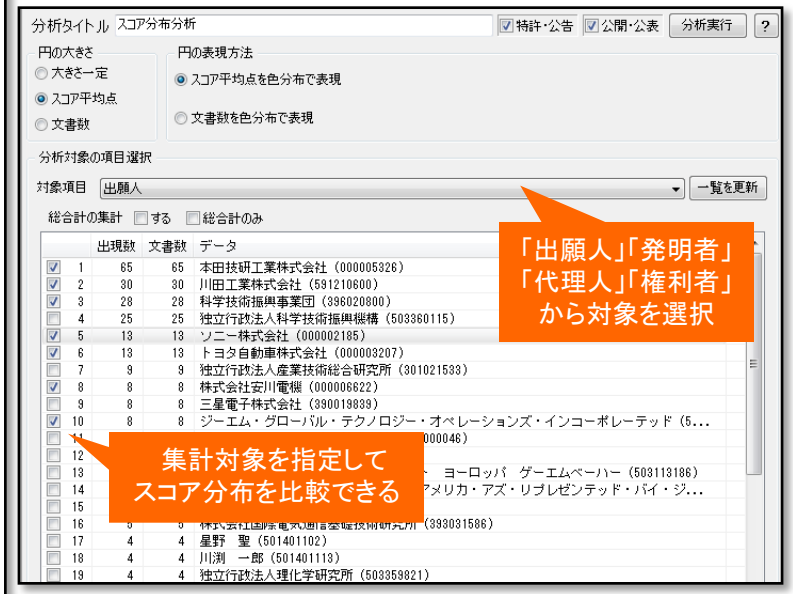
新機能紹介

2014(Ver.5.14.0003) → 2014(Ver.5.14.0005)

戦略分析【スコア分布分析】搭載！！

文書スコアの傾向が一目瞭然！





この分析のグラフ表現は分布図となっており、スコア値に基づいて縦横の位置が変化するため、似たスコアのものが複数ある場合には円が重なって描画されます。

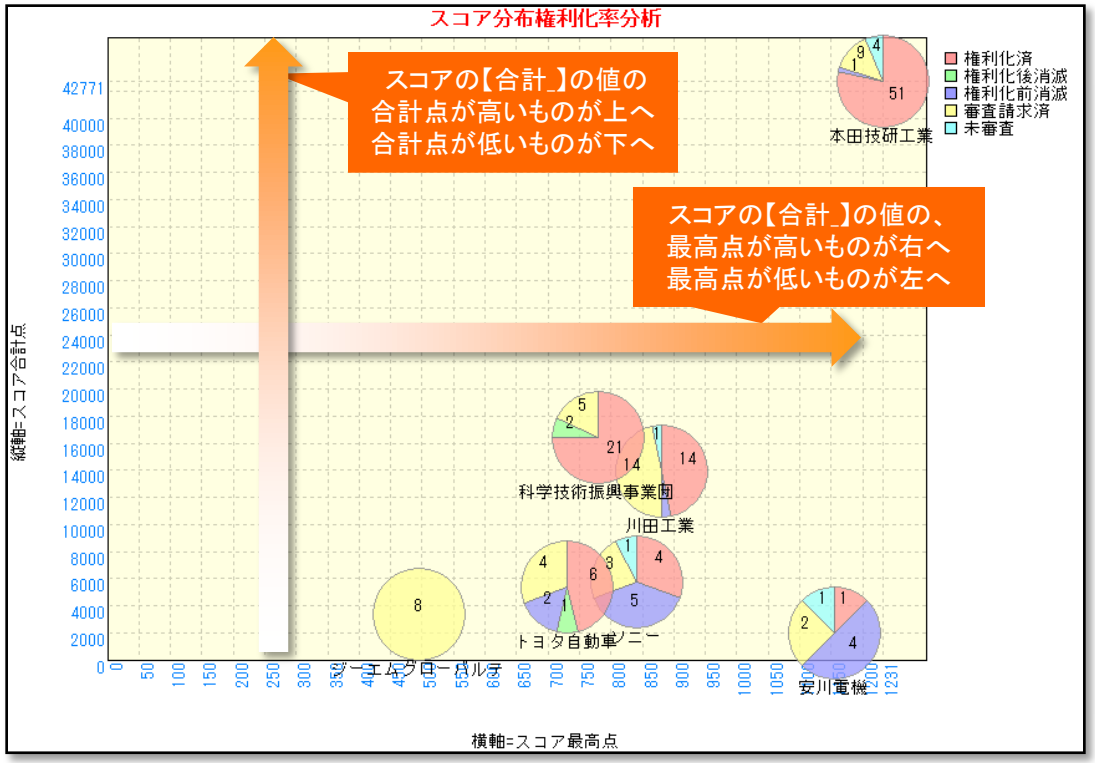
任意の1軸
例：出願人ごとの全公報トータルでのスコア合計の分布を表示できます。

バージョンアップにおける　主な新機能　（34）

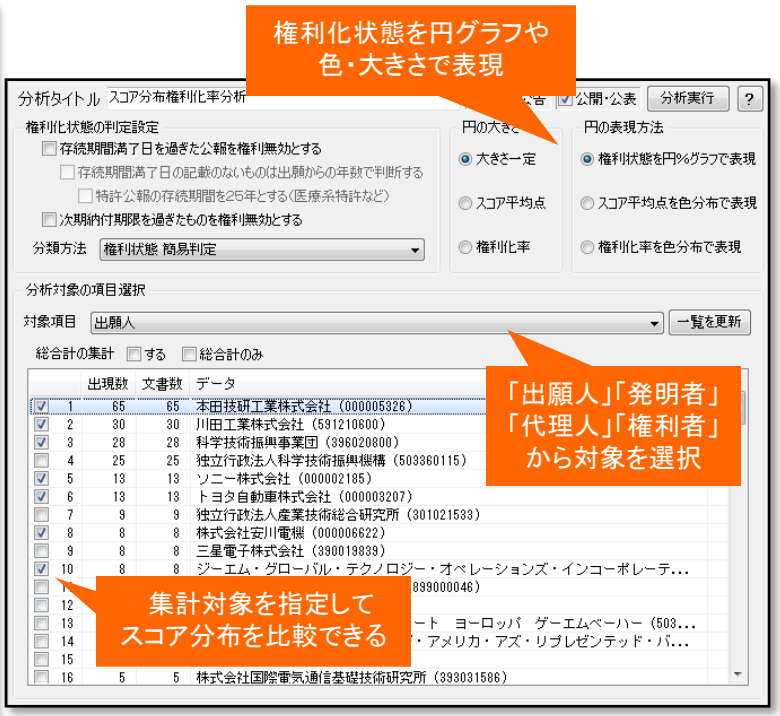
新機能紹介

2014(Ver.5.14.0003) → 2014(Ver.5.14.0005)

戦略分析【スコア分布権利化率分析】搭載！！



文書スコアの傾向に加えて、権利化の状況も把握できる！



この分析のグラフ表現は分布図となっており、スコア値に基づいて縦横の位置が変化するため、似たスコアのものが複数ある場合には円が重なって描画されます。

任意の1軸＋権利化状態
例：出願人ごとの全公報トータルでのスコア合計の分布と共に、権利化状態を円グラフで表示できます。

バージョンアップにおける　主な新機能　（35）

新機能紹介

2014(Ver.5.14.0003) → 2014(Ver.5.14.0005)

【簡単抽出】簡単抽出（2）

キーワードと数値単位の組み合わせ近傍検索が実現！

【キーワードと数値単位の近傍条件による抽出】

探したいキーワードの前後に数値単位が記述されているものを抽出することができます。

文書中の離れた場所にあるキーワードに偶然一致してしまうことがなく、目的の文章を素早く見つけられます。

OR条件で複数の条件を記述することができます。

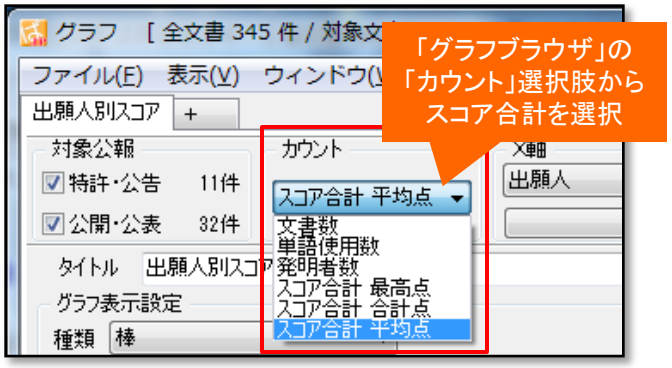
バージョンアップにおける　主な新機能　（36）

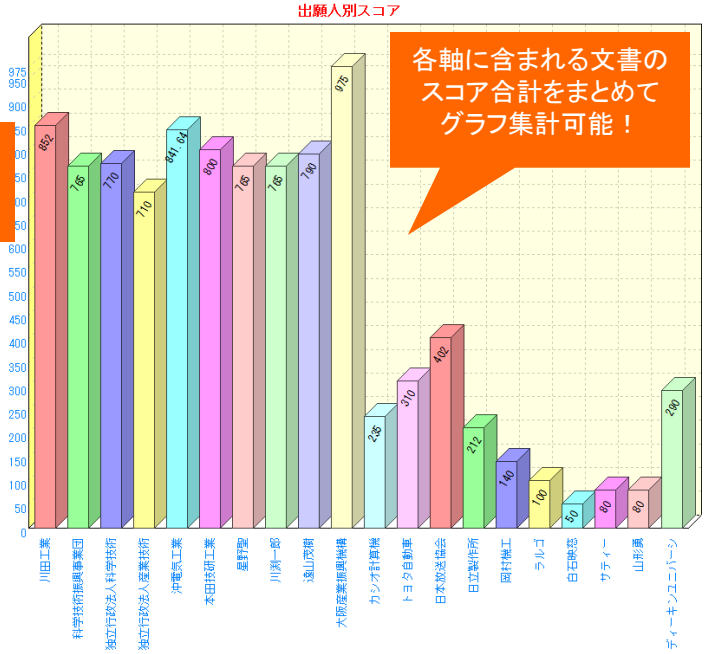
新機能紹介

2014(Ver.5.14.0003) → 2014(Ver.5.14.0005)

【グラフブラウザ】スコアのカウント

文書のスコアをグラフに反映して傾向を把握！





□　集計方法について

スコア合計カウントの集計方法は
以下の3種類から選択できます。

・スコア合計 最高点

　該当する文書の中での最高点

・スコア合計 合計点

　該当する文書すべての合算

・スコア合計 平均点

　該当する文書すべての平均点

【スコア合計の集計について】

各文書には「スコア」に関する項目は【スコア_】+【スコア2_】−【ノイズ_】=【合計_】の式で合計が自動計算されています。
（※ 「特許評価1」で【スコア_】【ノイズ_】を、「特許評価2」で【スコア2_】を付与できます）

グラフブラウザのスコア合計は、この【合計_】を対象として集計を行います。

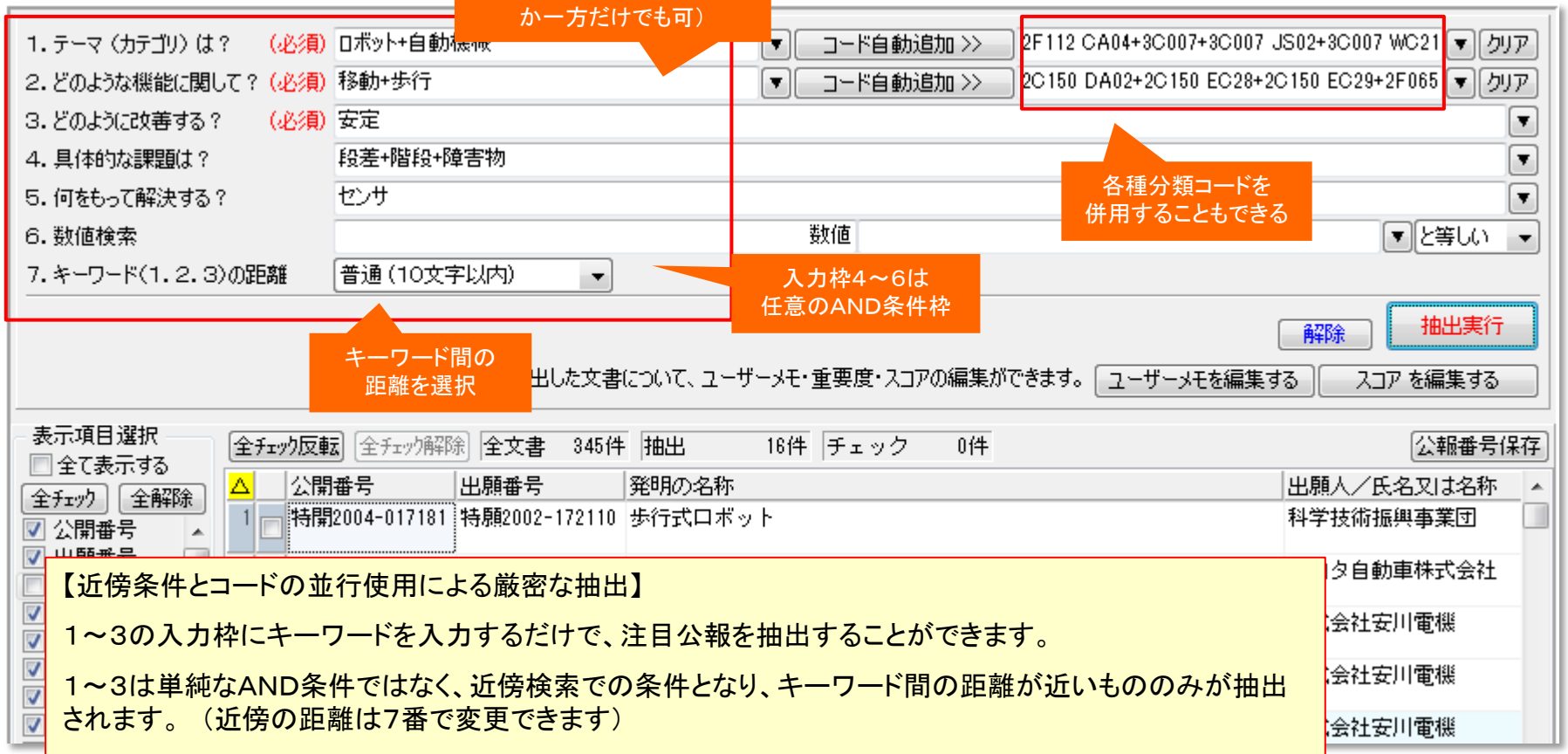
バージョンアップにおける　主な新機能（37）

新機能紹介

2014(Ver.5.14.0001) → 2014(Ver.5.14.0003)

【簡単抽出】機能搭載！！－1

Q&A形式で、より直感的に注目すべき公報を抽出することができます。



【近傍条件とコードの並行使用による厳密な抽出】

1～3の入力枠にキーワードを入力するだけで、注目公報を抽出することができます。

1～3は単純なAND条件ではなく、近傍検索での条件となり、キーワード間の距離が近いもののみが抽出されます。（近傍の距離は7番で変更できます）

1～2にコードを入力した場合、キーワード＆コードのAND条件による抽出も並行して行われます。

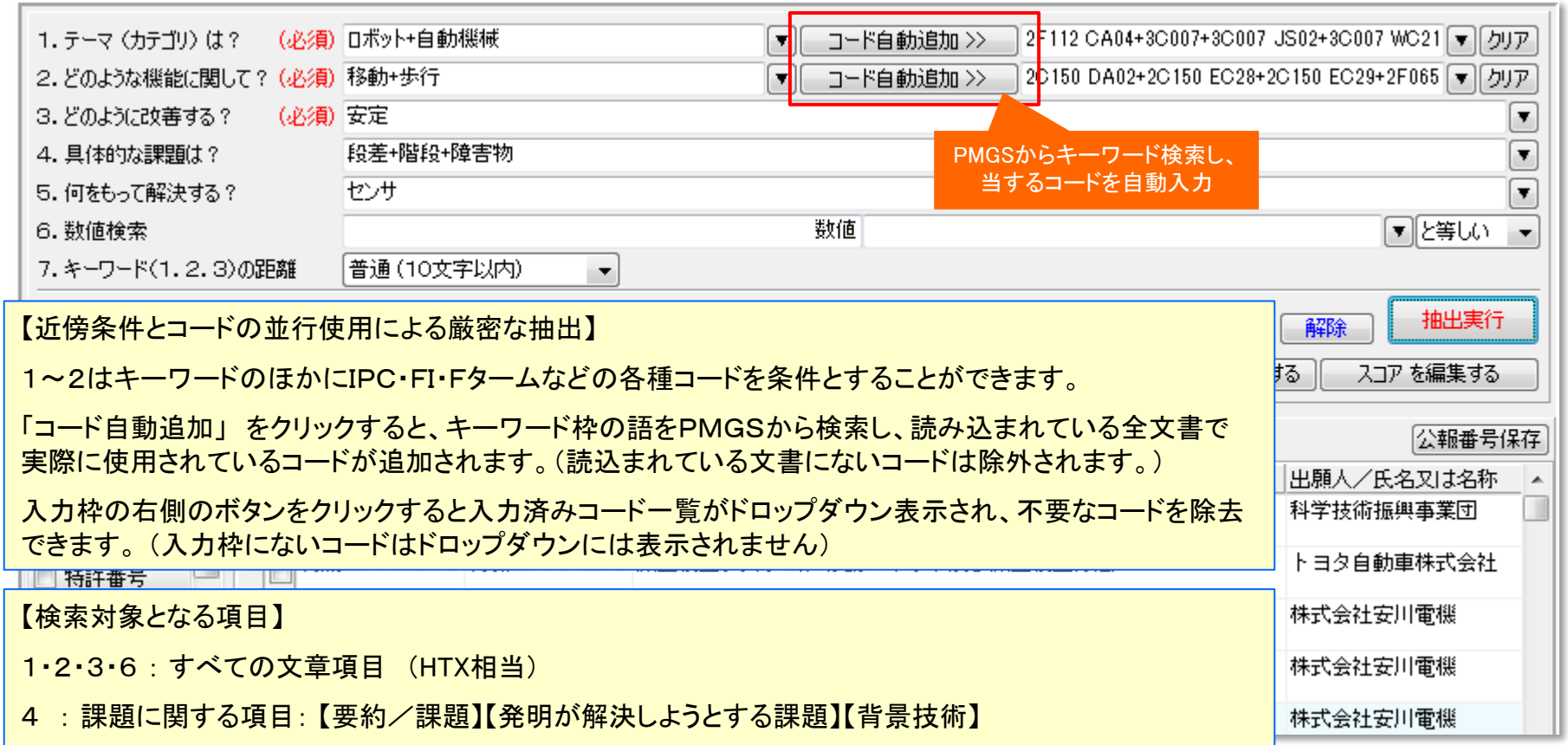
バージョンアップにおける　主な新機能　（38）

新機能紹介

2014(Ver.5.14.0001) → 2014(Ver.5.14.0003)

【簡単抽出】機能搭載！！－2

分類コードを自動で探し出してくれる！！



【近傍条件とコードの並行使用による厳密な抽出】

1～2はキーワードのほかにIPC・FI・Fタームなどの各種コードを条件とすることができます。

「コード自動追加」 をクリックすると、キーワード枠の語をPMGSから検索し、読み込まれている全文書で実際に使用されているコードが追加されます。（読込まれている文書にないコードは除外されます。）

入力枠の右側のボタンをクリックすると入力済みコード一覧がドロップダウン表示され、不要なコードを除去できます。（入力枠にないコードはドロップダウンには表示されません）

【検索対象となる項目】

1・2・3・6 ： すべての文章項目 （HTX相当）

4 ： 課題に関する項目：【要約／課題】【発明が解決しようとする課題】【背景技術】

5 ： 解決手段に関する項目：【要約／解決手段】【課題を解決するための手段】【特許請求の範囲】

※ 「簡単抽出」で抽出を行っても、他の機能へは抽出の影響を与えません。

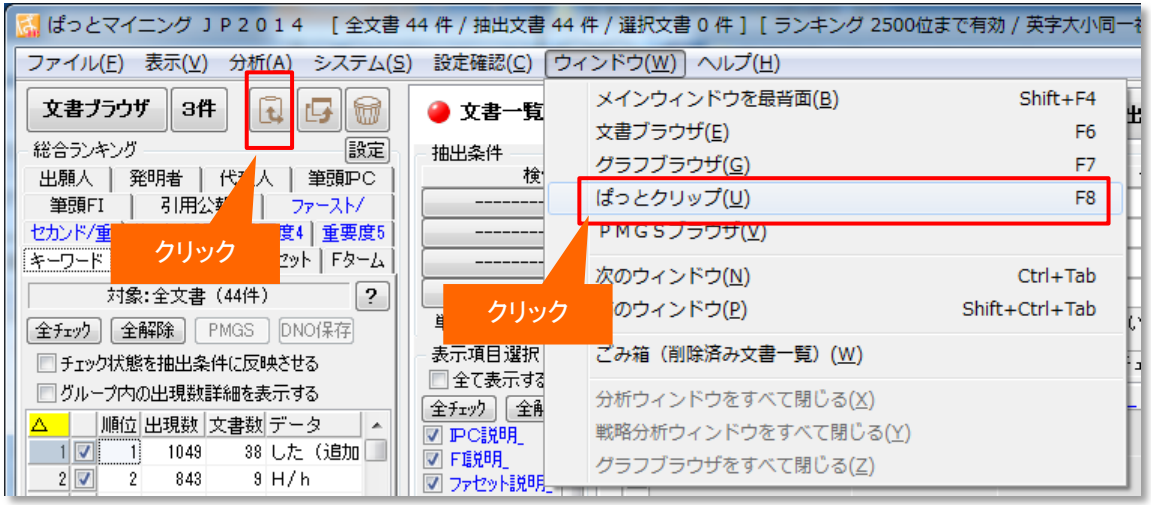
※ 文書一覧の画面にて文書抽出を行っている場合、抽出状態からさらに「簡単抽出」の条件で抽出が行われます。

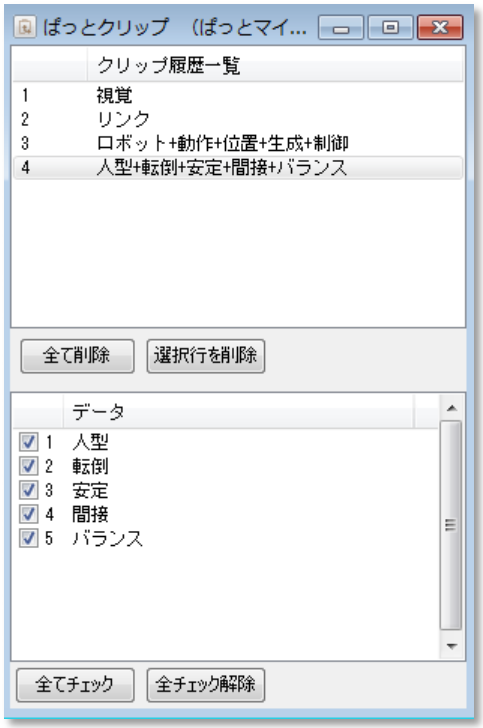
バージョンアップにおける　主な新機能　（39）

2014(Ver.5.14.0001) → 2014(Ver.5.14.0003)

【ぱっとクリップ】－１

ぱっとマイニングの中で利用できるクリップボード！





各種のキーワード入力枠や選択チェックで一度利用した ”キーワード群”を、
別の分析でも、そのまま利用したい、といったニーズにお応えする、
ぱっとマイニングの中で利用できるクリップボード「ぱっとクリップ」を搭載。

□　記憶したキーワードは終了しても維持

キーワードの履歴を、最大10パターンまで記憶できます。
ぱっとマイングを終了しても記憶しており、次回の分析にご利用いただけます。

□　ぱっとクリップを開く

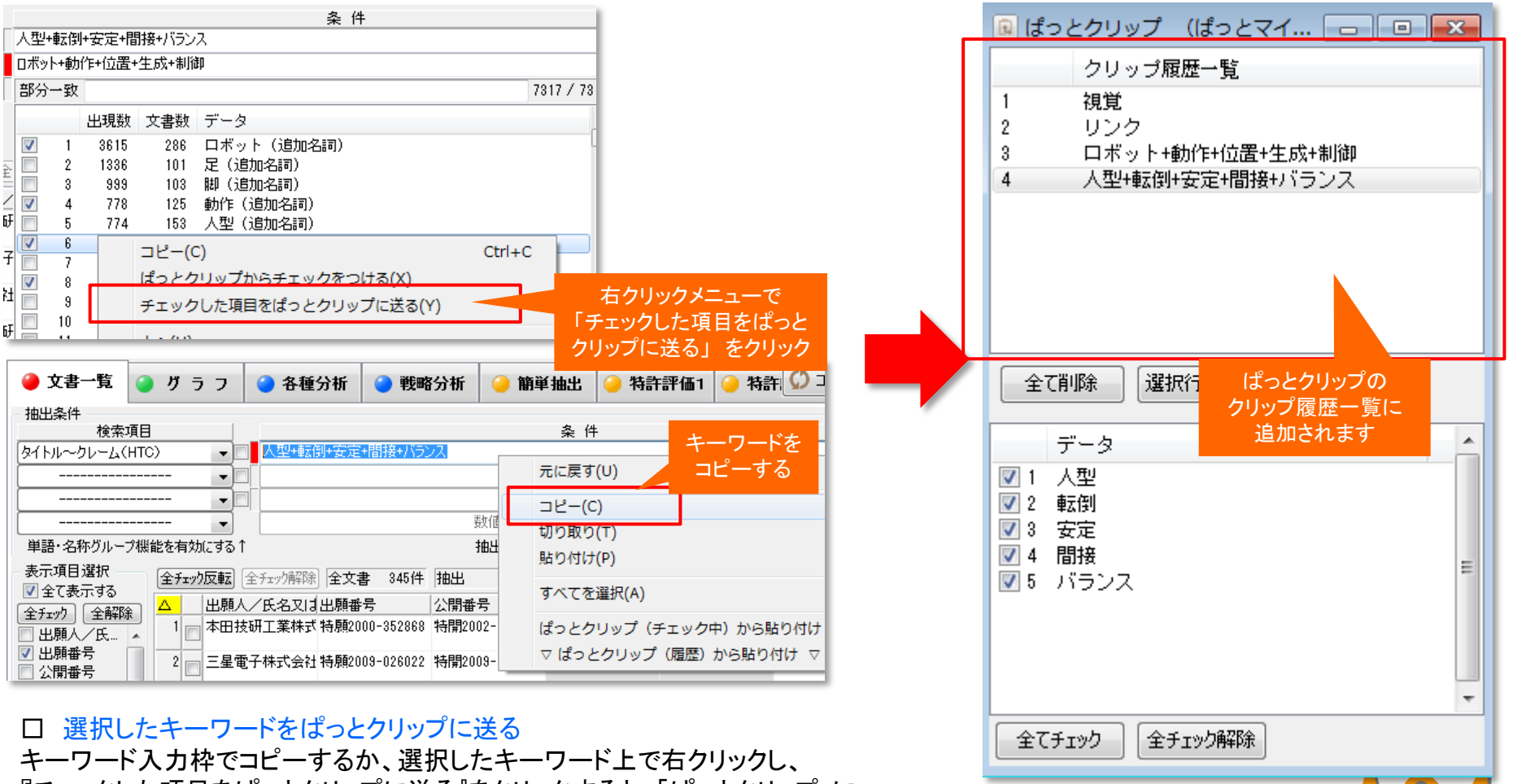
「文書一覧」画面の左上のアイコンをクリックするか、右クリックメニューの『ぱっとクリップ』をクリックすると
「ぱっとクリップ」ウィンドウが開きます。

バージョンアップにおける　主な新機能（40）

2014(Ver.5.14.0001) → 2014(Ver.5.14.0003)

【ぱっとクリップ】－２

入力枠のキーワードをクリップに保存！



☐ 選択したキーワードをぱっとクリップに送る

キーワード入力枠でコピーするか、選択したキーワード上で右クリックし、
『チェックした項目をぱっとクリップに送る』をクリックすると、「ぱっとクリップ」に、
選択したキーワードが送られます。

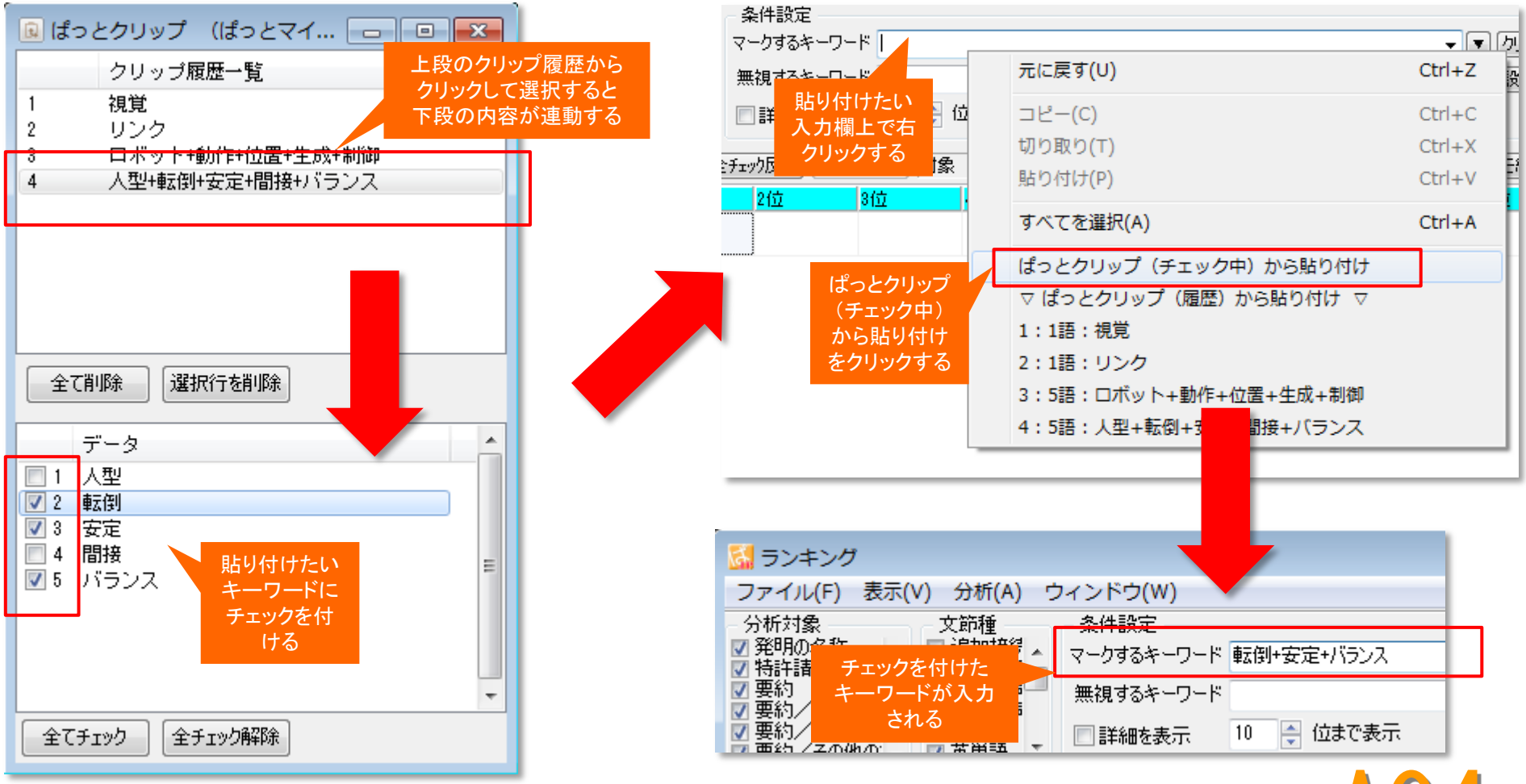
バージョンアップにおける　主な新機能（41）

新機能紹介

2014(Ver.5.14.0001) → 2014(Ver.5.14.0003)

【ぱっとクリップ】－3

ぱっとクリップのキーワードを入力枠に送る！

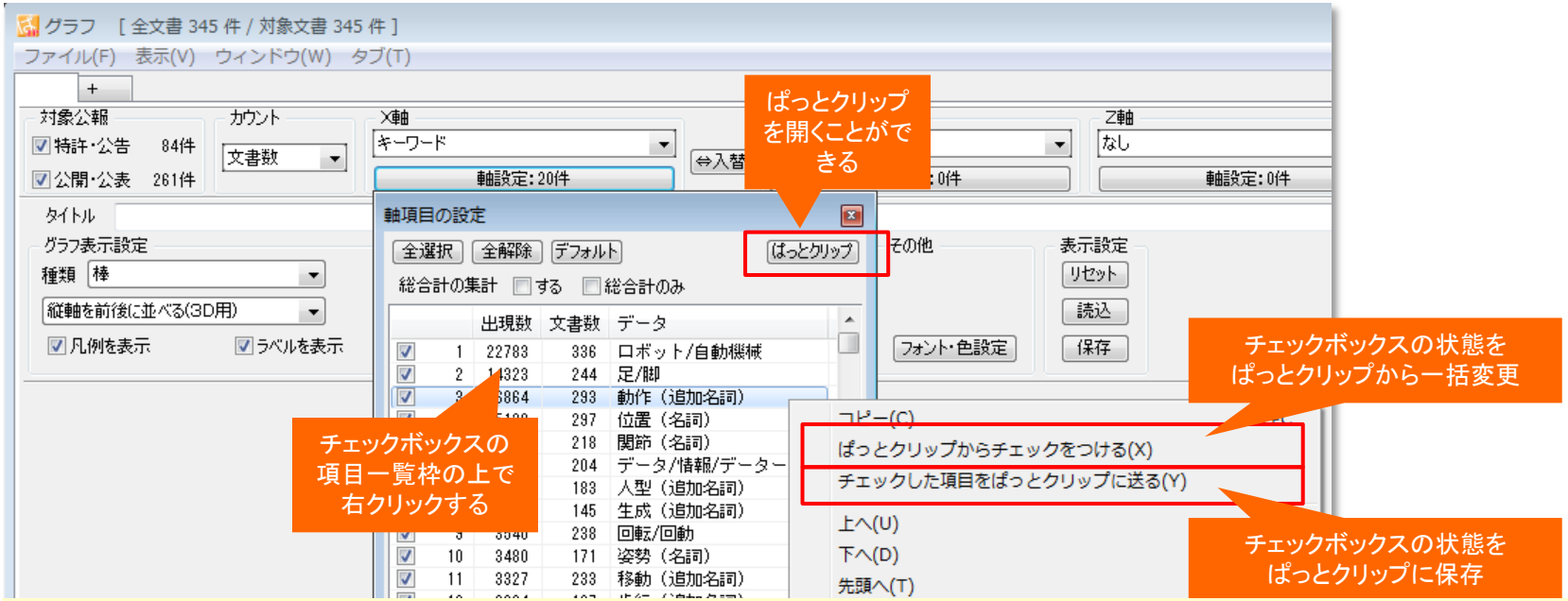


バージョンアップにおける　主な新機能　（42）

2014(Ver.5.14.0001) → 2014(Ver.5.14.0003)

【ぱっとクリップ】－4

グラフ作成時にも、ぱっとクリップが大活躍！！



グラフブラウザ等のチェックボックス式の項目選択においても「ぱっとクリップ」を活用することができます。

□　ぱっとクリップからチェックを付ける

軸項目の設定画面など、チェックボックスからキーワードを選ぶタイプの一覧枠で右クリックして、『ぱっとクリップからチェックを付ける』を選択すると、「ぱっとクリップ」で選択しておいたキーワードのチェックボックスの状態と同じものだけにチェックをつけた状態にすることができます。

□　チェックした項目をぱっとクリップに送る

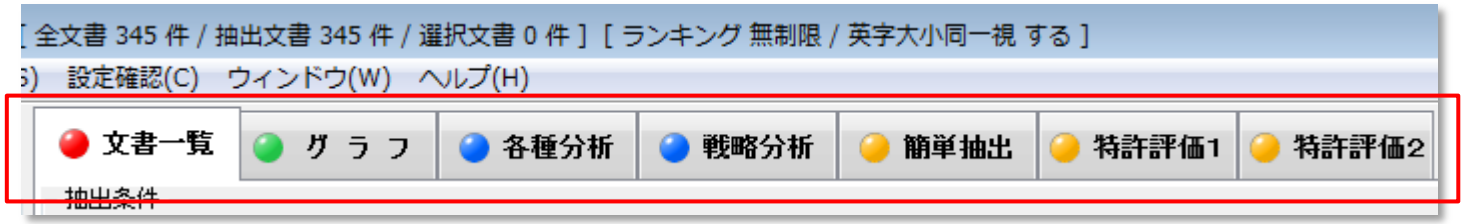
右クリックメニューの『チェックした項目をぱっとクリップに送る』を選択すると、『軸項目の設定』ウィンドウ上で選択したキーワードを、ぱっとクリップに保存することができます。

バージョンアップにおける　主な新機能　（43）

2014(Ver.5.14.0001) → 2014(Ver.5.14.0003)

メインウィンドウのタブの変更！

作業フローがわかりやすいように、タブの配置を変更しました！



☐ タブ配置を変更

「 グラフ 」タブを、「 文書一覧 」タブの次に移動しました。

「文書一覧」で文書を抽出し、グラフを作成、その結果を見て、文書を抽出する、という、利用頻度の高い作業フローを容易にするために、「文書一覧」タブの隣に「グラフ」タブを移動しました。

☐ 「オートスコア」タブ名称の変更

名称を「 オートスコア 」→「 特許評価１ 」と改め、タブ順の最後に移動しました。

☐ 「特許評価2」タブの新設

従来、「 オートスコア 」内の機能のひとつ「 特許評価 」となっていたものを、今後　特許特有の評価条件をより拡充していくため、メインのタブ「 特許評価2 」として独立した機能として位置づけ、タブ順の最後に新設しました。

また、「 特許評価2 」の評価結果は、従来の項目「 スコア__ 」ではなく、「 スコア2__ 」を使用するようになり、従来の評価値と共存できるようにしました。

☐ 「簡単抽出」タブの新設

条件に合う文書を抽出する新機能「 簡単抽出 」タブを新設しました。

バージョンアップにおける　主な新機能　（44）

新機能紹介

2014(Ver.5.14.0001) → 2014(Ver.5.14.0003)

【特許評価2】

特許評価分析が精度を上げて、単独タブになりました！

※　JP－NETのデータのダウンロード形式には、「テキスト形式」「CSV形式」「CSV2形式」「エクセル形式」の4種類の形式があります。ぱっとマイニングで読み込み可能な形式は、「テキスト形式」と「CSV2形式」です。
【審査経過項目】をご利用になる場合は、「CSV2形式」で、作成モードを『タイプ3』に設定してデータをダウンロードし、テキスト形式のデータと結合してご使用ください。

□　経過情報の各種項目に対応

従来、オートスコアの一機能としていた「特許評価分析」を独立させ、経過情報の各種項目に対応しました。

得点を入れたい（注目したい）設定項目に、チェックを付けるとともに、加点したい点数、減点したい点数を設定してください。

「集計実行」もしくは「集計実行（加算）」ボタンを押すことで、文書一覧の「スコア2」という項目に点数が入ります。

【ご注意事項】 注目したい項目に、チェックおよび点数設定をおこなっても、実際にその項目、データがない場合、点数は入りません。詳細に分析したい場合には、JP－NETであれば、CSV2形式でデータを取得してください。テキストデータと結合することで、より詳細な公報の状態で分析できます。

※　各項目の判定条件は、次のページをご参照ください。

バージョンアップにおける　主な新機能　（45）

2014(Ver.5.14.0001) → 2014(Ver.5.14.0003)

【特許評価2】—判定条件一覧－1

項目	該当条件

		【査定種別】	【審査最終処分種別】	【本権利抹消識別】	【出願中間記録】	その他の条件
A01	取下・放棄		″取下″を含むもの		″出願取下″を含むもの	
A02	審査請求	″登録″を含むもの ″拒絶″を含むもの	″登録″を含むもの ″拒絶″を含むもの	何か記述があるもの （※　審査請求がないものはこの項目は空欄であるため）	″出願審査請求″を含むもの ″早期審査″を含むもの	【公報種別】が登録系のもの 【審査請求】があるもの 【早期審査】があるもの
A03	早期審査請求				″早期審査″を含むもの	【早期審査】があるもの
A04	拒絶理由通知	″拒絶″を含むもの	″拒絶″を含むもの		″拒絶理由通知″を含むもの	
A05	意見申立書		″拒絶″を含むもの		“意見”を含むもの	

		【査定種別】	【審査最終処分種別】	【本権利抹消識別】	【出願中間記録】	その他の条件
B01	特許査定・登録査定	″登録″を含むもの	″登録″を含むもの	登録された形跡のあるもの （年金不納や期間満了 等）		【公報種別】が登録系のもの
B02	登録料不納			″登録料不納″を含むもの		
B03	存続期間満了			″存続期間満了″を含むもの		
B04	年金不納			″年金不納″を含むもの		
B05	放棄			″放棄″を含むもの		【登録中間記録】に″権利放棄″を含むもの
B06	抹消			登録後に抹消された形跡のあるもの		【登録中間記録】に″本権抹消登録申請書″を含むもの
B07	異議申立書			″異議″を含むもの		【登録中間記録】に″異議″を含むもの

【特許評価2】―判定条件一覧－2

項目	該当条件

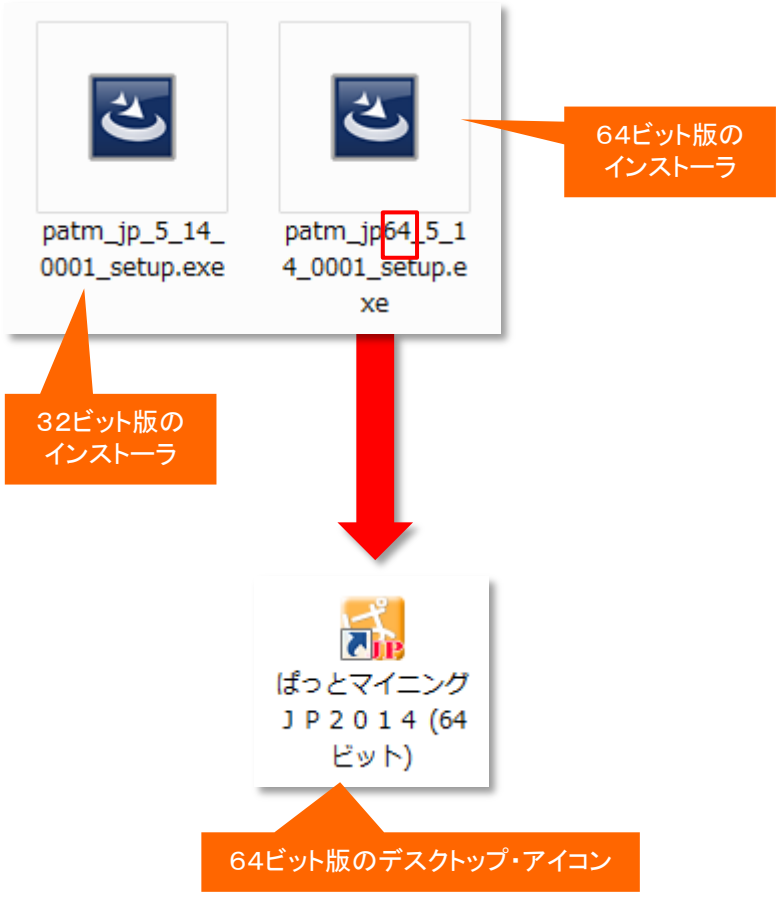
		【査定種別】	【審査最終処分種別】	【本権利抹消識別】	【出願中間記録】	その他の条件
C01	優先権主張の表記あり					【優先権主張番号】があるもの
C02	存続期間満了の残り年数 ×					【存続期間満了日】と本日の差で残り年数を算出 ※ただし権利が消滅しているものは除外する
C03	請求項の件数 ×					【請求項数・登録（審）】 【請求項数・出願（審）】 【請求項の数】 【請求項】の件数
C04	引用文献の件数 ×					【引用文献数】
C05	被引用文献の件数 ×					【被引用文献数】
C06	分割出願の親					【関連出願（子）】に"分割"を含むもの
C07	分割出願の子					【関連出願（親）】に"分割"を含むもの
C08	国内広報かつ国際表記あり					【出願番号】があり、以下の条件のどれかを含むもの ・【国際出願番号】【国際公開番号】のいずれかを含む ・公報種別が公表・再公表系のもの
C09	国外出願					【国際出願番号】【国際公開番号】のいずれかを含むもの 公報種別が公表・再公表系のもの 海外DBの公報
C10	代理人の数 ×					【代理人】の件数
C11	発明者の数 ×					【発明者】の件数
C12	共同出願人の数 ×					【出願人】の件数

バージョンアップにおける　主な新機能　（47）

2014(Ver.5.14.0001) → 2014(Ver.5.14.0003)

64ビット版完成！――　10万件の公報全文データが分析可能に！！

OSに合わせて64ビット版と32ビット版の
2種類が選べます！



64ビットOSに対応した『ぱっとマイニングJP64ビット版』をご利用いただくことができます。

□　お使いのOSが64ビットの場合、ぱっとマイニングも64ビット版をご利用頂く事で、大容量の分析を行うことが可能になりました。

64ビット版をご利用いただくと、

JP－NET全文テキストデータ　100，000件

CSVデータ　250，000件

の大量文書が分析可能になります。

※　上記はメモリ8GB搭載時です。
　分析可能な文書量は搭載メモリの容量により増減します。

□　OSが64ビットの場合・・・
　32ビット版、64ビット版いずれも利用可能です。

□　OSが32ビットの場合・・・
　32ビット版のみ利用可能です。

※　現在お使いのOSのビット数は「コントロールパネル」→「システム」からご確認ください。

※　インストール先および設定の保存先は、64ビット版と32ビット版とで別フォルダになりますので、一方で設定した内容が他方に影響することはありません。これまでに利用された辞書や重要度などの設定は、それぞれ個別に設定してください。

※設定・辞書ファイルの保存先は、「システム」⇒「設定・辞書ファイルの保存フォルダを開く」でご確認ください。

バージョンアップにおける　主な新機能　（48）

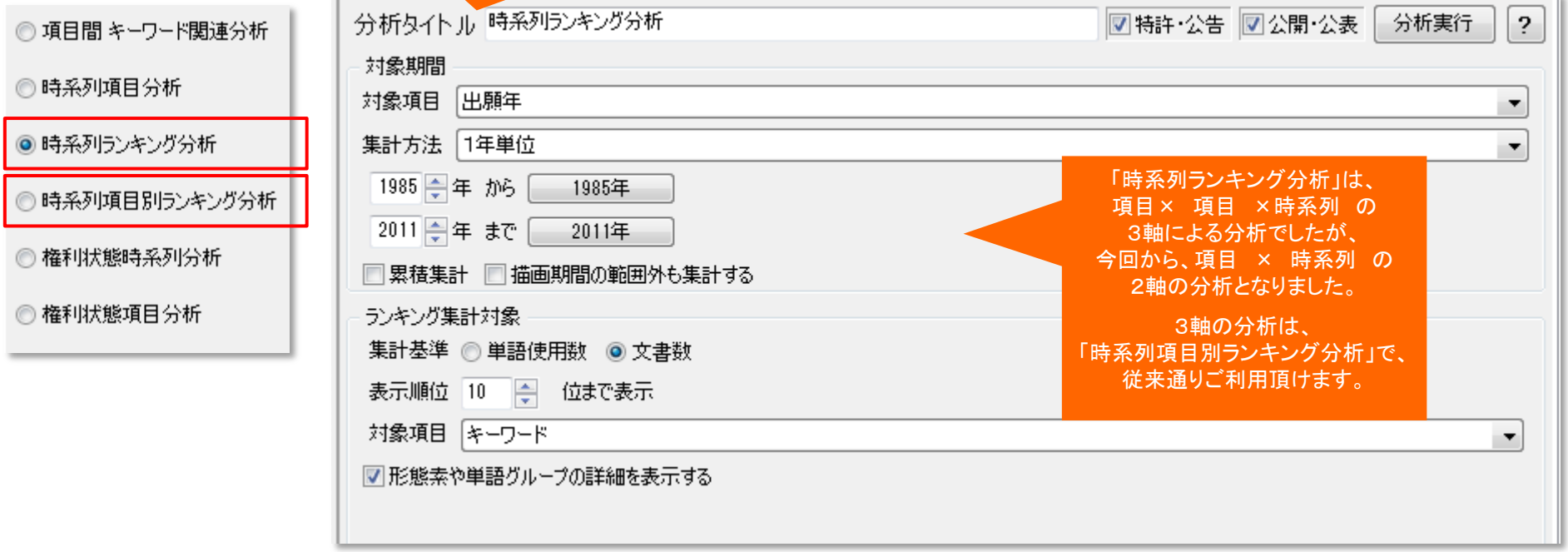
新機能紹介

2014(Ver.5.14.0001) → 2014(Ver.5.14.0003)

【時系列ランキング分析】

「時系列ランキング分析」が新しくなりました

2軸の分析ができるようになりました！



☐ 時系列ランキング分析

従来は、分析対象の項目からチェックで個別に選ぶ必要のある、3軸のグラフでしたが、対象の期間と、対象の項目を選ぶだけの簡単な条件指定で、 2軸のグラフが描けるように変更しました。

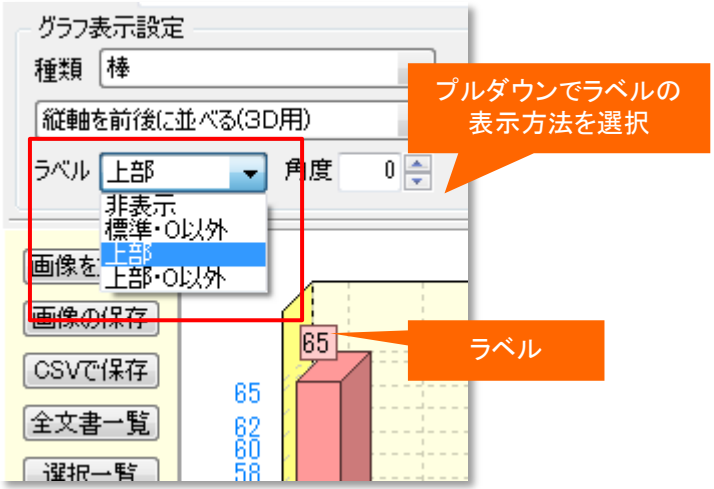
☐ 時系列項目別ランキング分析

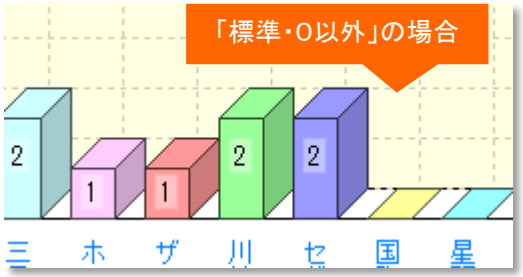
こちらは　従来の「　時系列ランキング分析　」と同じものになります。

バージョンアップにおける　主な新機能　（49）

2014(Ver.5.14.0001) → 2014(Ver.5.14.0003)

グラフのラベル表示の選択がプルダウン形式になりました！





ラベルの表示位置が選択できます！

グラフ作成時に、件数を示すラベルの表示位置をプルダウンで選択できるようになりました。

「棒」「複数_棒」は、
・非表示
・標準・0以外
・上部
・上部・0以外
から選択できます。

「バブル」「フロート」「バブル3D」「バブル円」「複数_バブル」「複数_フロート」は、
・非表示
・標準
・標準・0以外
・右側
・右側・0以外
から選択できます。

「折線」「複数_折線」は、
・非表示
・上部
・上部・0以外
が選択できます。

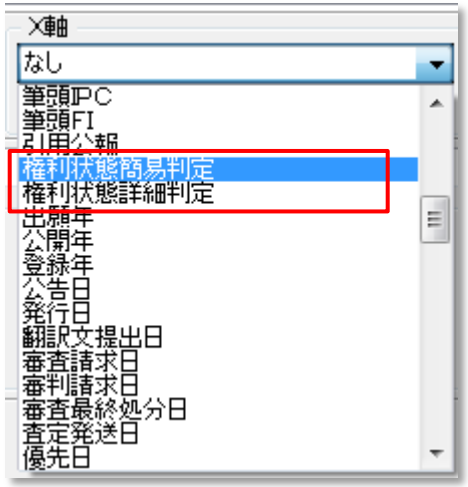
バージョンアップにおける　主な新機能　（50）

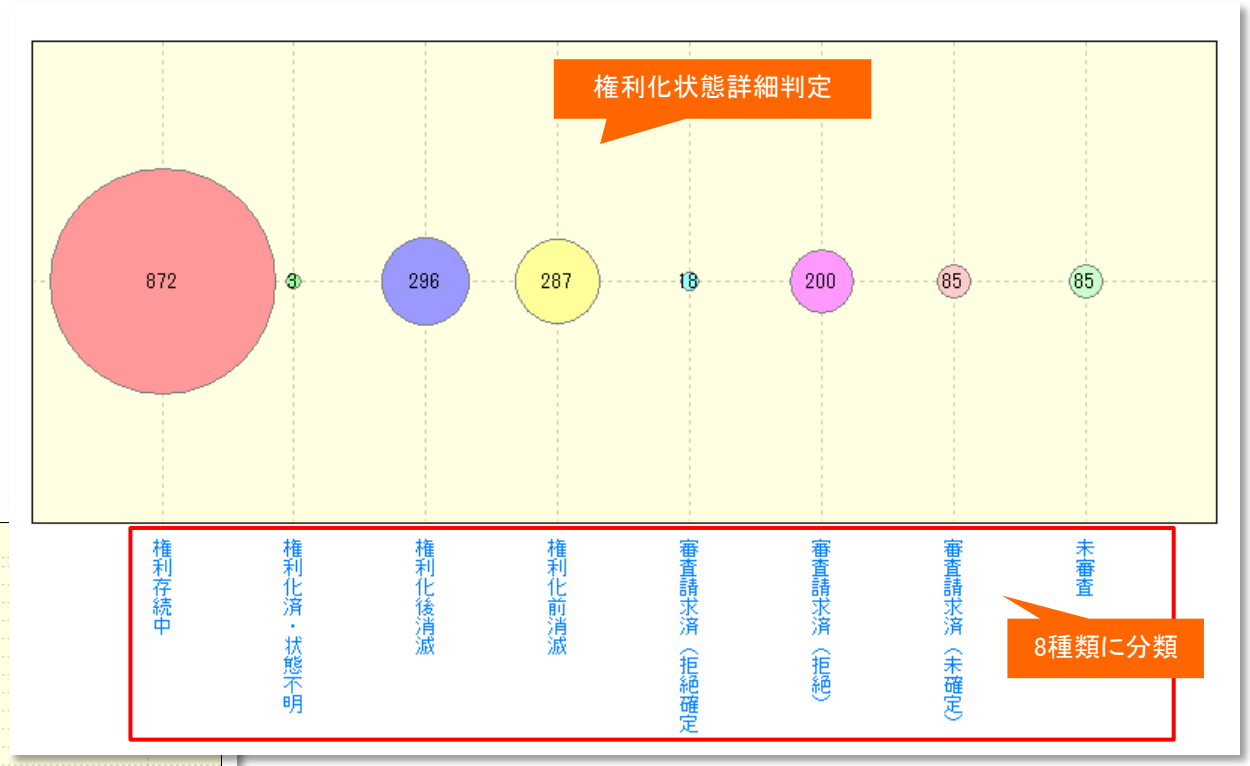
新機能紹介

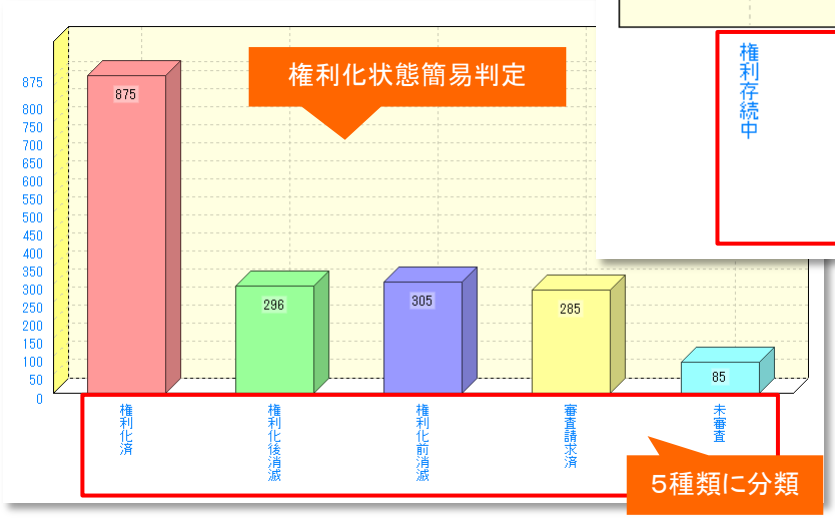
2013(Ver.5.13.0005) → 2013(Ver.5.13.0006)

グラフの権利状態判定がより詳細になった！！

詳細判定と簡易判定の2種類が選べます！







グラフ作成時の軸項目に、『権利状態詳細判定』と『権利状態簡易判定』が選択できるようになりました。

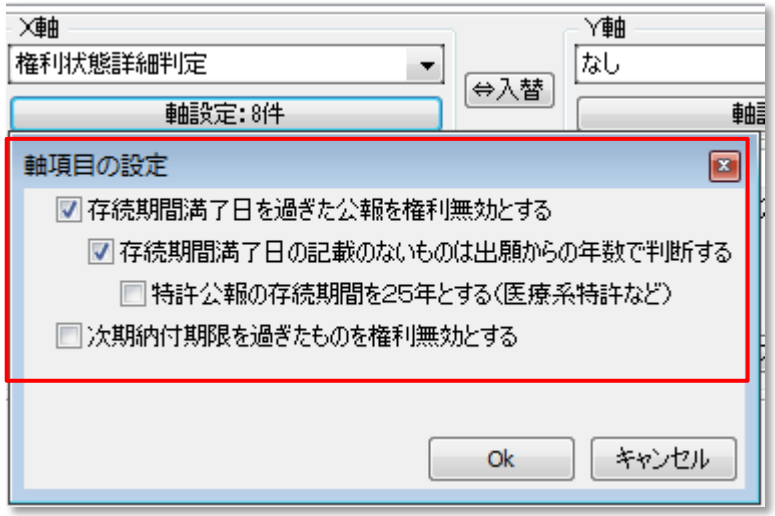
『権利状態詳細判定』は8種類、『権利状態簡易判定』は4種類に権利状態を分類します。

※権利状態判定の詳細は次々々ページをご参照ください。

バージョンアップにおける　主な新機能　（51）

2013(Ver.5.13.0005) → 2013(Ver.5.13.0006)

グラフの権利状態判定の「軸項目の設定」



※　JP－NETのデータのダウンロード形式には、「テキスト形式」「CSV形式」「CSV2形式」「エクセル形式」の4種類の形式があります。ぱっとマイニングで読み込み可能な形式は、「テキスト形式」と「CSV2形式」です。
【審査経過項目】をご利用になる場合は、「CSV2形式」で、作成モードを『タイプ3』に設定してデータをダウンロードし、テキスト形式のデータと結合してご使用ください。

※権利状態判定の詳細は次々ページをご参照ください。

存続期間完了日から権利消滅を判定！！

グラフの軸項目に、『権利状態詳細判定』か『権利状態簡易判定』を選択した場合、「軸設定」をクリックすると、左のような「軸項目の設定」画面が表示されます。

□　存続期間満了日を過ぎた公報を権利無効とする
・・・グラフ作成時に、経過情報の「存続期間満了日」を過ぎている場合、当該公報を「権利化後消滅」または「権利化前消滅」に分類します。

□　存続期間満了日の記載のないものは出願からの年数で判断する
・・・「存続期間満了日」のデータがない場合は、出願日から20年を経過している場合に、当該公報を「権利化後消滅」または「権利化前消滅」に分類します。

□　特許公報の存続期間を25年とする（医療系特許など）
・・・「存続期間満了日」のデータがない場合は、出願日から25年を経過している場合に、当該公報を「権利化後消滅」または「権利化前消滅」に分類します。

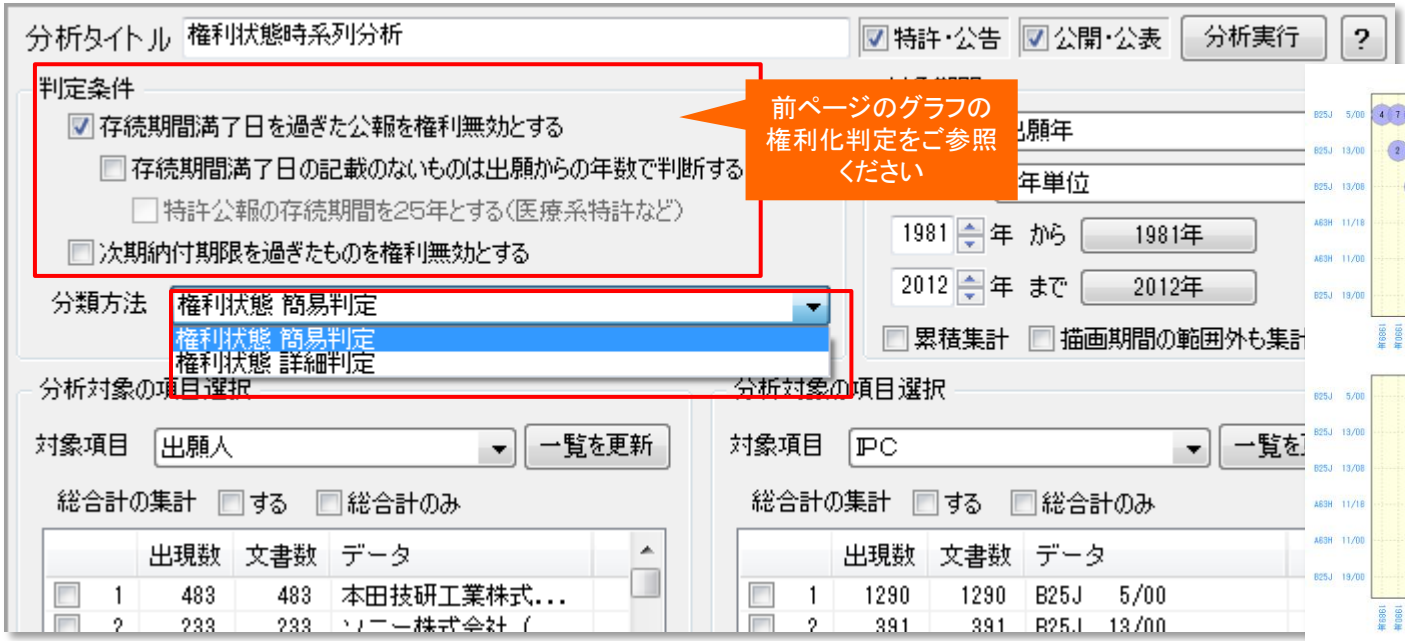
□　次期納付期限を過ぎたものを権利無効とする
・・・グラフ作成時に、経過情報の「次期納付期限」を過ぎている場合、年金不納と判定し、当該公報を「権利化後消滅」または「権利化前消滅」に分類します。
※　経過情報が最新でない場合は、データ取得後に年金が支払われ、権利が抹消されていない場合があるため、注意が必要です。

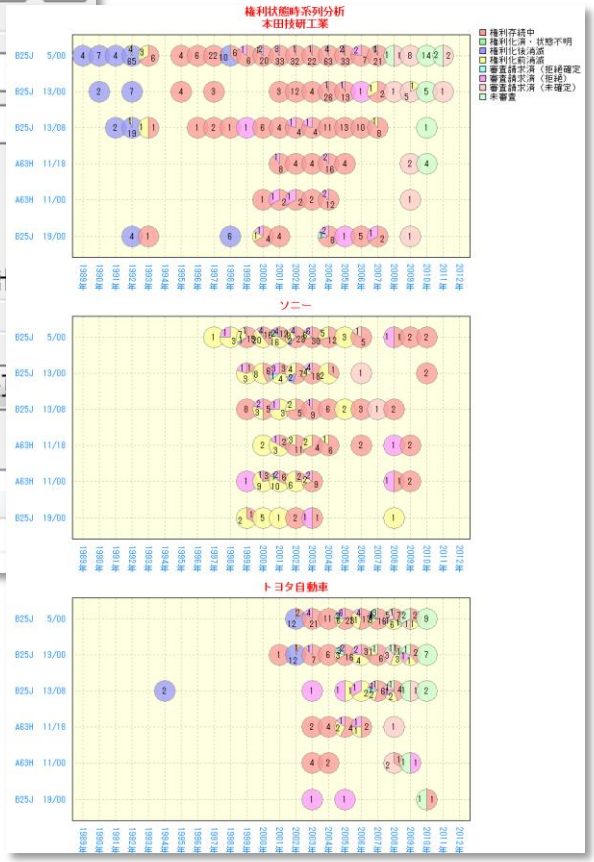
バージョンアップにおける　主な新機能　（52）

2013(Ver.5.13.0005) → 2013(Ver.5.13.0006)

戦略分析の権利状態判定がより詳細になった！！

グラフの権利状態判定と判定方法を共通化しました！





戦略分析の『権利状態時系列分析』、『権利状態項目分析』での権利状態の判定方法を、これまでより詳細にし、グラフ作成時の判定方法と共通化しました。

『権利状態詳細判定』は8種類、『権利状態簡易判定』は4種類に分類します。

※　JP－NETのデータのダウンロード形式には、「テキスト形式」「CSV形式」「CSV2形式」「エクセル形式」の4種類の形式があります。ぱっとマイニングで読み込み可能な形式は、「テキスト形式」と「CSV2形式」です。
【審査経過項目】をご利用になる場合は、「CSV2形式」で、作成モードを『タイプ3』に設定してデータをダウンロードし、テキスト形式のデータと結合してご使用ください。

※権利状態判定の詳細は次ページをご参照ください。

バージョンアップにおける　主な新機能　（53）

2013(Ver.5.13.0005) → 2013(Ver.5.13.0006)

権利状態判定の詳細　1ー詳細判定

権利状態の定方法と読み込むデータの種別の関係は以下のとおりです

「権利状態詳細判定」について				
この判定が利用されている分析機能（画面）			① グラフブラウザ 「権利状態詳細判定」 ② 戦略分析 「権利状態時系列分析」の詳細判定 ③ 戦略分析 「権利状態項目分析」の詳細判定	
No	表示名	状態内容	読み込むデータの種別	
			経過情報を含むCSV	JP-NET全文テキストデータ
1	権利存続中	特許査定され、権利が存続しているもの。	○	ー
2	権利化済・状態不明	特許査定されているが、【本権利抹消識別】の項目の情報がないもの。	○	○ （「公報種別」で判定）
3	権利化後消滅	特許査定されているが、存続期間満了日を過ぎたり、年金不納により抹消となったもの。	○	△ （「出願からの年数で判断する」にチェックを入れた場合のみ）
4	権利化前消滅	未審査請求による取下など、審査請求を行わずに権利が消滅したもの。	○	△ （「出願からの年数で判断する」にチェックを入れた場合のみ）
5	審査請求済（拒絶確定）	審査請求後に取下、放棄などにより、権利化されないことが確定したもの。	○	ー
6	審査請求済（拒絶）	審査請求後に拒絶査定となったもの。（ただし不服審判で覆る可能性がある。）	○	ー
7	審査請求済（未確定）	審査請求後に査定が出ていないもの。	○	○ （「審査請求」「早期審査」で判定）
8	未審査	審査請求されていず、消滅していないもの。	○	○ （「審査請求」「早期審査」で判定）

※権利状態簡易判定の詳細は次ページをご参照ください。

バージョンアップにおける　主な新機能　（54）

2013(Ver.5.13.0005) → 2013(Ver.5.13.0006)

権利状態判定の詳細　2ー簡易判定

権利状態の定方法と読み込むデータの種別の関係は以下のとおりです

「権利状態簡易判定」について	
この判定が利用されている分析機能（画面）	① グラフブラウザ 「権利状態簡易判定」 ② 戦略分析 「権利状態時系列分析」の簡易判定 ③ 戦略分析 「権利状態項目分析」の簡易判定

No	表示名	状態内容	読み込むデータの種別	
			経過情報を含むCSV	JP-NET全文テキストデータ
1	権利化済	特許査定されたもの。	○	○ （「公報種別」で判定）
2	権利化後消滅	特許査定されているが、存続期間満了日を過ぎたり、年金不納により抹消となったもの。	○	△ （「出願からの年数で判断する」にチェックを入れた場合のみ）
3	権利化前消滅	未審査請求による取下など、審査請求を行わずに権利が消滅したもの。 審査請求後に取下、放棄などにより、権利化されないことが確定したもの。	○	△ （「出願からの年数で判断する」にチェックを入れた場合のみ）
4	審査請求済	審査請求されているが、上記「3.権利化前消滅」に該当しないもの。 （審査請求があり、【審査最終処分】が記載されていないもの。）	○	○ （「審査請求」「早期審査」で判定）
5	未審査	審査請求されていず、消滅していないもの。	○	○ （「審査請求」「早期審査」で判定）

※権利状態詳細判定の詳細は前ページをご参照ください。

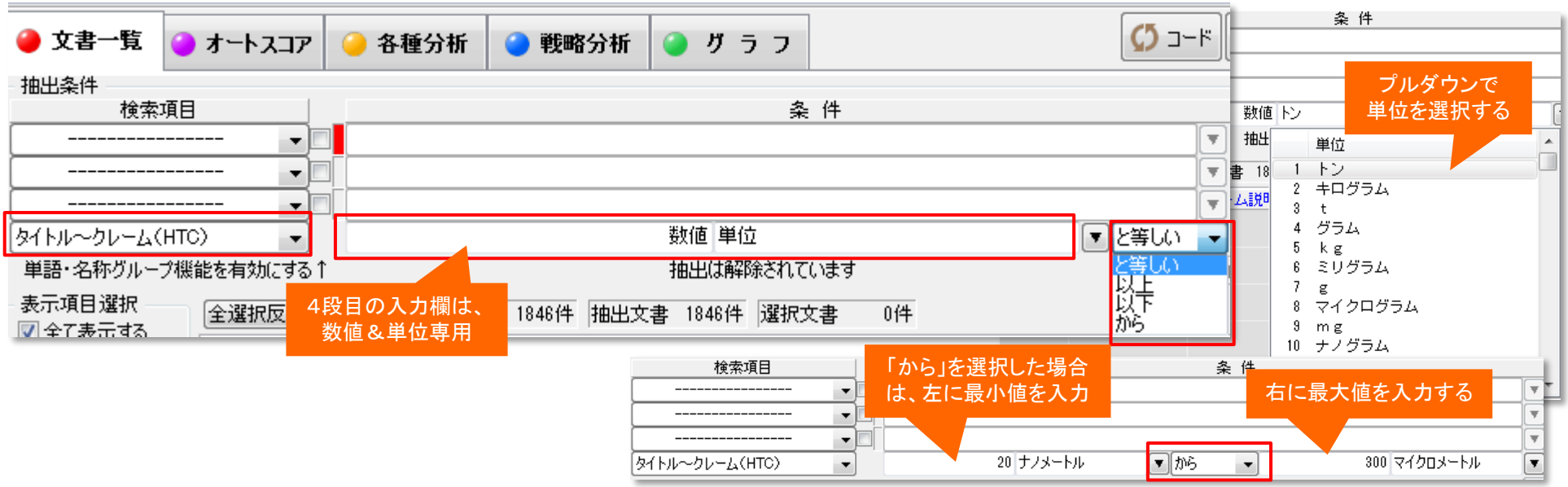
バージョンアップにおける　主な新機能　（55）

新機能紹介

2013(Ver.5.13.0002) → 2013(Ver.5.13.0005)

「数値＆単位」での公報抽出機能搭載！！

長さ・厚み・重量・容量・周波数など、数値と単位で公報を抽出！



4段目の条件入力欄には数値と単位を入力することができます。

①抽出したい数値を入力、②単位を指定、③抽出条件を「と等しい」「以上」「以下」「から」のいずれかから指定します。
　例：「10」を入力し、「ミリメートル」「と等しい」を選択した場合は、「10ミリメートル」「10mm」「1センチ」「1cm」のいずれかを記載した全ての公報が抽出されます。

「以上」または「以下」を選択すると、指定した値以上または以下に含まれる、全ての数値を含む公報が抽出されます。

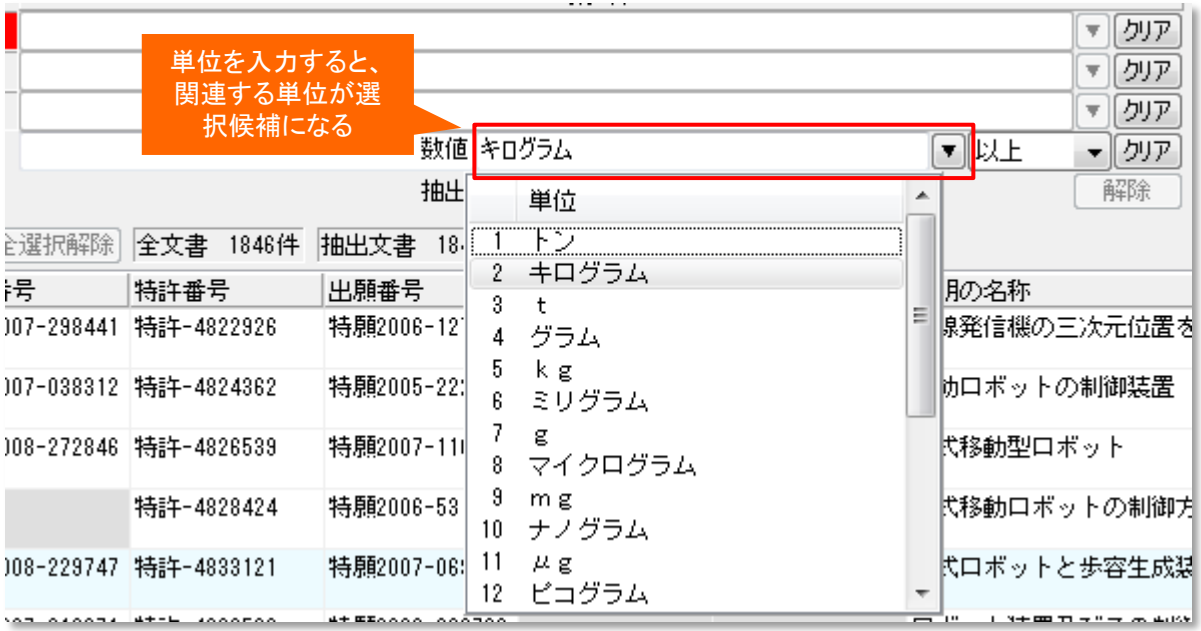
「から」を選択すると、入力枠が2つ表示されます。「から」の左側に最小値を、右側に最大値を入力することで、その範囲における全ての数値を含む公報が抽出されます。

※　単位の設定は、「システム」→「辞書設定（単位設定）」でご確認ください。

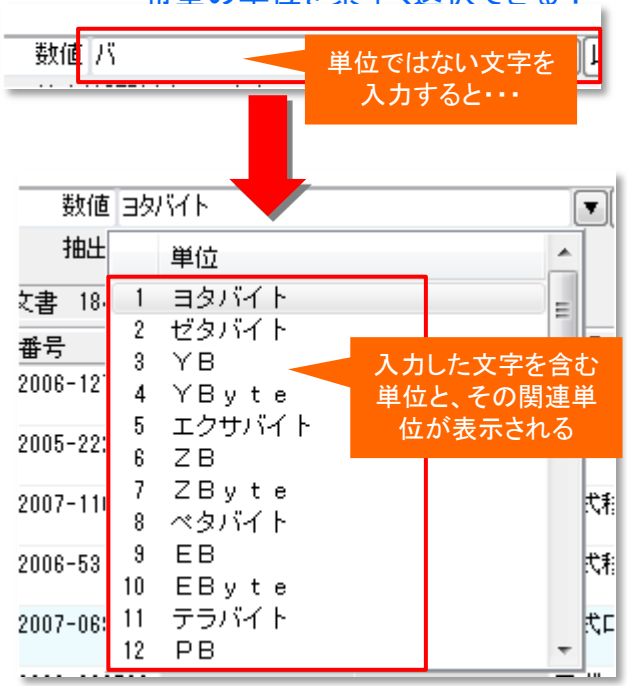
バージョンアップにおける　主な新機能　（56）

2013(Ver.5.13.0002) → 2013(Ver.5.13.0005)

「数値＆単位」での単位検索機能！！



希望の単位を素早く選択できる！



単位の入力欄には、候補となる単位を絞り込んでくれる、単位検索機能が搭載されています。
単位検索機能は、次のような3種類の動作をします。

1. 単位入力欄を空白にしたまま、プルダウンをクリックすると、「辞書設定（単位設定）」に記載されている単位が全て表示されます。
候補の中から選択してクリックすると、選択した単位が入力されます。

2. 単位入力欄に「キログラム」などの単位を入力してからプルダウンをクリックすると、「トン」や「グラム」など、「キログラム」に関連する単位だけが表示されます。

3. 単位入力欄に、たとえば「バ」など、単位ではない文字を入力すると、「バ」という文字を含む単位（部分一致で抽出）と、その単位に関連する単位だけが表示されます。

※ 関連する単位とは、「辞書設定（単位設定）」によって単位変換ができる関係にある単位のことです。

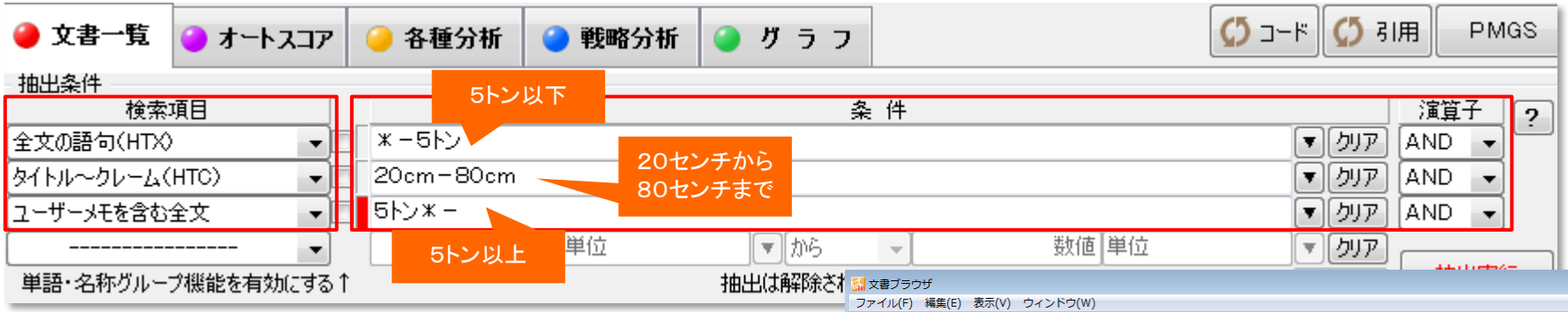
バージョンアップにおける　主な新機能　（57）

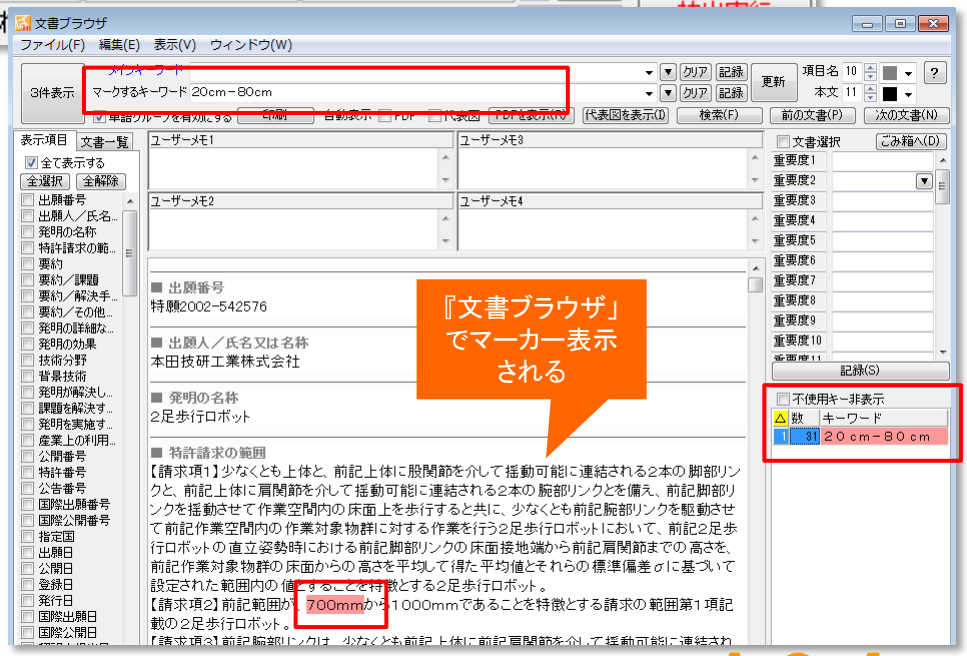
新機能紹介

2013(Ver.5.13.0002) → 2013(Ver.5.13.0005)

従来の入力枠でも「数値＆単位」での公報抽出が可能に！！

数値と単位のかけあわせで公報を抽出！





1～3段目の条件入力欄でも、数値と単位を入力することができます。

「数値と単位」を入力する（例：5トン）と、入力した内容と等しい数値と単位を記載した公報を抽出することができます。

「数値と単位」の前にアスタリスク（＊）とハイフンをつける（例：＊－5トン）と、「以下」となり、後ろにハイフンとアスタリスク（＊）をつける（例：5トン－＊）と、「以上」となります。

「数値と単位」－「数値と単位」と入力する（例：5トン－30トン）と、「から」と同様に範囲を設定することができます。ハイフンの左側に最小値、右側に最大値を入れてください。

※　ハイフンは半角で入力してください。

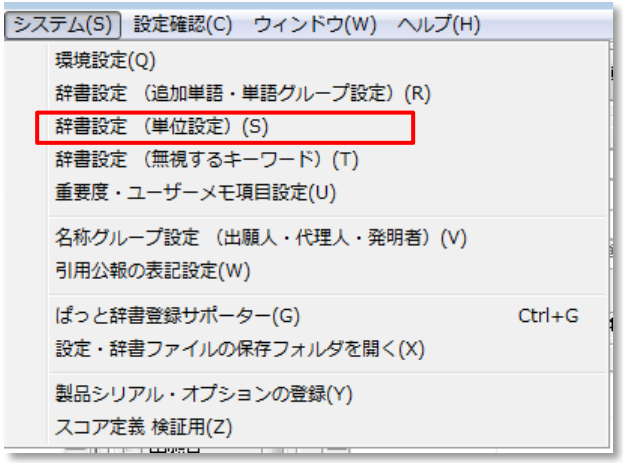
※　単位の設定は、「システム」→「辞書設定（単位設定）」でご確認ください。

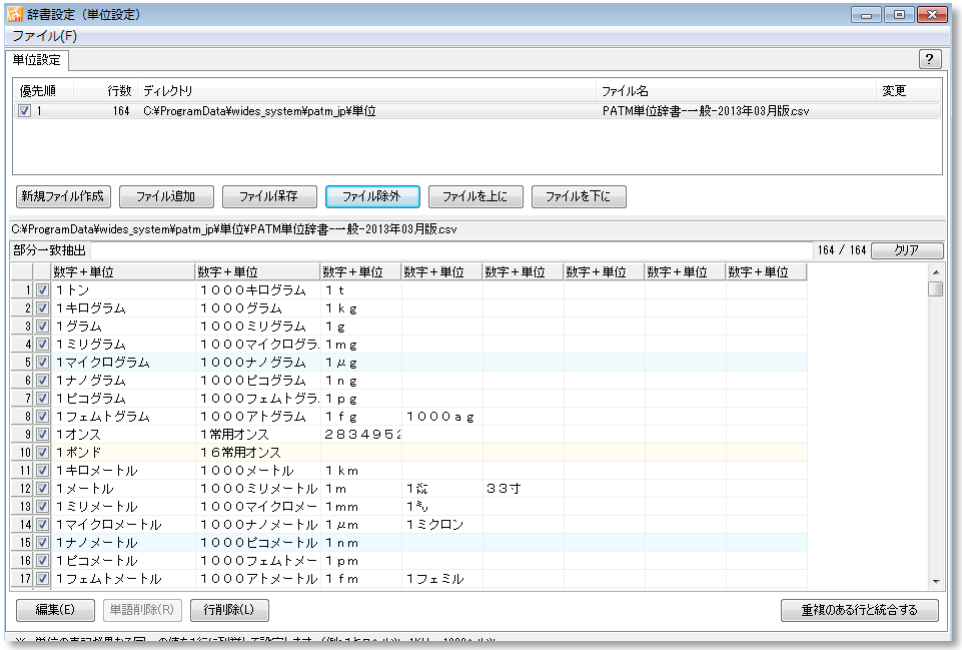
バージョンアップにおける　主な新機能　（58）

2013(Ver.5.13.0002) → 2013(Ver.5.13.0005)

「数値辞書」で単位の読み換えができます！！

100ミリ＝10センチ　といった変換機能を搭載！





この画面で登録した単位が、【文書一覧】の抽出条件のプルダウンに候補として表示されます。

「1トン」と「1000キログラム」のように、単位の表記が異なる同一の値を1行に列記することで、同じ値の同じ単位として取り扱うことができます。

単位だけでなく、必ず数値と単位の組み合わせにして登録してください。

摂氏と華氏のように、0基準が異なる単位は同じ単位として扱うことができません。

ハイフン(－)、アスタリスク(＊)、カンマ(，)、ピリオド(．)は、単位として使用できません。漢数字は数値として使用できませんが、単位としては使用できます。

この設定は、CSV形式のファイルで保存されていますので、CSVファイルを表計算ソフトで編集することも可能です。

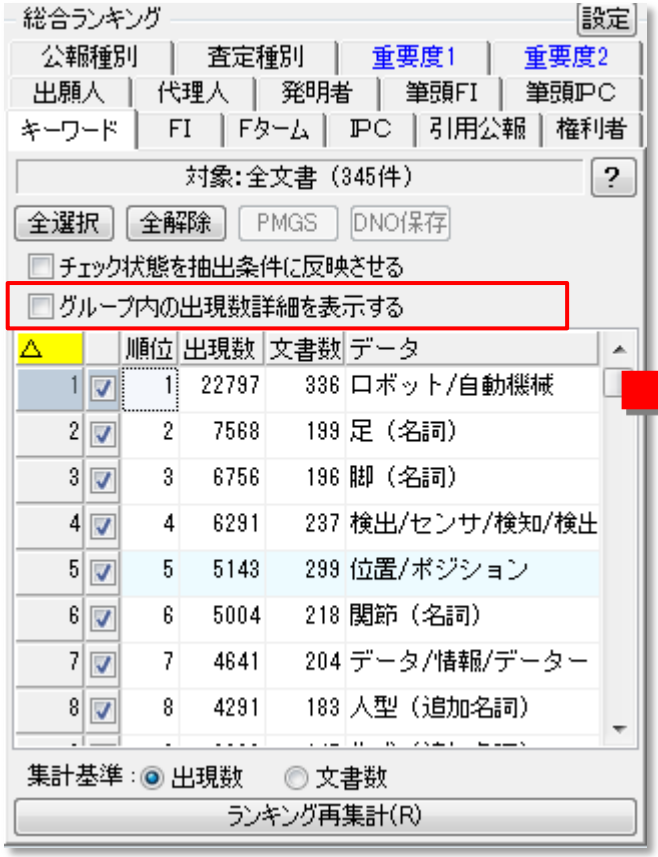
※　単位の設定は、「システム」→「辞書設定（単位設定）」でご確認ください。

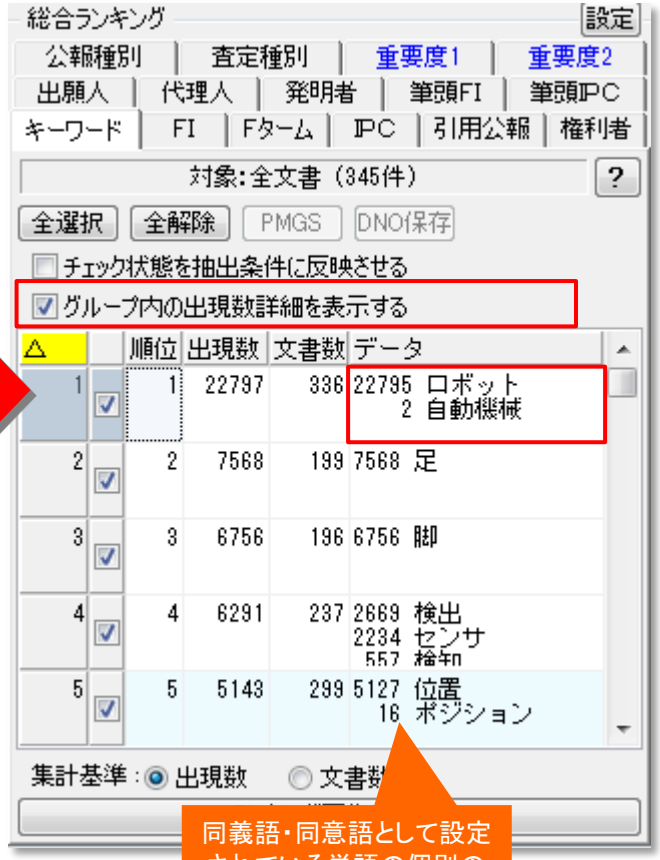
バージョンアップにおける　主な新機能　（59）

2013(Ver.5.13.0001) → 2013(Ver.5.13.0002)

総合ランキングでグループ内の出現数の詳細を表示！！

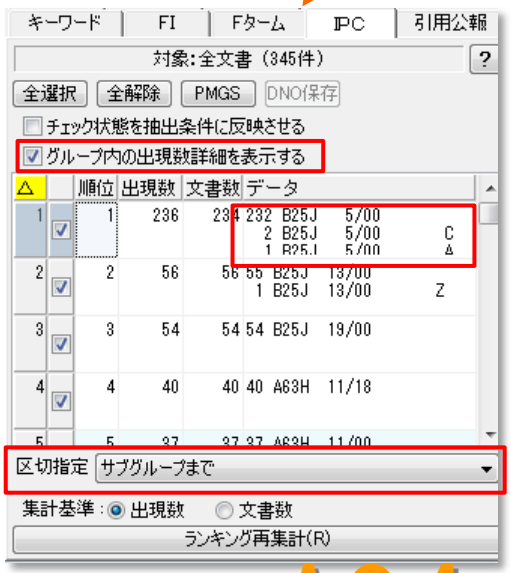
単語グループの個別の出現数を表示することができる！





同義語・同意語として設定されている単語の個別の出現数を表示

分類コードを「区切り指定」して集計した場合にも、階層ごとのコードの出現数が表示される



「グループ内の出現数詳細を表示する」にチェックを入れると、
単語グループに設定されている各単語の個別の出現数を表示することができます。

※　単語グループの設定は、「システム」→「辞書設定（追加単語/単語グループ設定」→「単語グループ設定」でご確認ください）。

バージョンアップにおける　主な新機能　（60）

2012(Ver.5.12.0019) → 2013(Ver.5.13.0001)

メモリ処理の大幅効率化！！

テキストやCSVデータの読み込み処理可能な件数が 従来よりも大幅に増加！

読み込み文書件数と消費メモリ量（参考値）

（単位：MB）

ぱっとマイニングJP2013　メモリ効率化処置後バージョン							
	文書件数	サイズ（MB）	通常版辞書+ベクトル辞書		通常版辞書+ベクトル+英語		いままでの限界件数
			読込直後	ﾗﾝｷﾝｸﾞ集計中	読込直後	ﾗﾝｷﾝｸﾞ集計中	
JP－TEXT（全文）	32000件	492	865	メモリエラー	865	メモリエラー	
	30000件	450	800		800		
	28000件	412	730	1590	730		24000件
	26000件	376	675	1485	675	1570	18000件
	24000件	339	615	1380	615	1455	
	22000件	306	555	1275	555	1355	
	20000件	273	495	1175	495	1255	
	18000件	245	440	1075	440	1160	
	16000件	219	370	885	370	970	
JP-CSV2	65000件	140	1560	メモリエラー	1560	メモリエラー	
	60000件	124	1450	1460	1450		45000件
	58000件	120	1420	1600	1420		
	55000件	115	1340	1525	1340	1578	20000件
	50000件	101	1230	1410	1230	1488	
	45000件	90	1100	1280	1100	1348	
	40000件	81	1000	1170	1000	1234	
	35000件	64	890	1040	890	1109	
	30000件	49	760	905	760	983	
	25000件	35	650	780	650	868	
	20000件	23	540	655	540	705	
	15000件	13	420	530	420	591	

メモリ処理方法の効率化により、テキストやCSVデータの読み込み処理可能な件数が、従来よりも大幅に増加されました。

上記の計測数値はあくまでも目安です。読み込まれた文書の内容やページ数、ご使用のPC環境等によって、消費メモリ量は異なります。

次ページの説明を必ずお読みください！

バージョンアップにおける　主な新機能　（61）

2012(Ver.5.12.0019) → 2013(Ver.5.13.0001)

【必ずお読みください！！】

前ページの消費メモリ量の説明です。

【計測環境】

・前ページの消費メモリ量の計測は、CPU：Core　i7　搭載メモリ：8GB　のPCで行いました。

・OSは　Windows7　Professional　64ビット版を使用しています。

・PC起動後、他のソフトが起動していない状態での計測です。

【より多くのメモリを確保するコツ】

1. 使用しない辞書のチェックをはずしていただくことで、より多くのメモリを確保することができます。辞書の単語数を大幅に増やしておられる場合は、前ページの数値よりも消費メモリ量が増加します。追加単語辞書【英語版】を使用しない場合は、使用設定をはずしていただいたほうが、消費メモリ量が少なくなり、より多くの文書件数を分析していただくことができます。

2. 特許公報の中で、分析等に使用しない項目、たとえば発明者の住所、図面の簡単な説明、符号の説明、審判中間記録、微生物の受託番号、や、空欄の多い項目などを削除していただくと、より多くのメモリを確保することができます。

   不要な項目の削除方法は、以下の手順で行います。

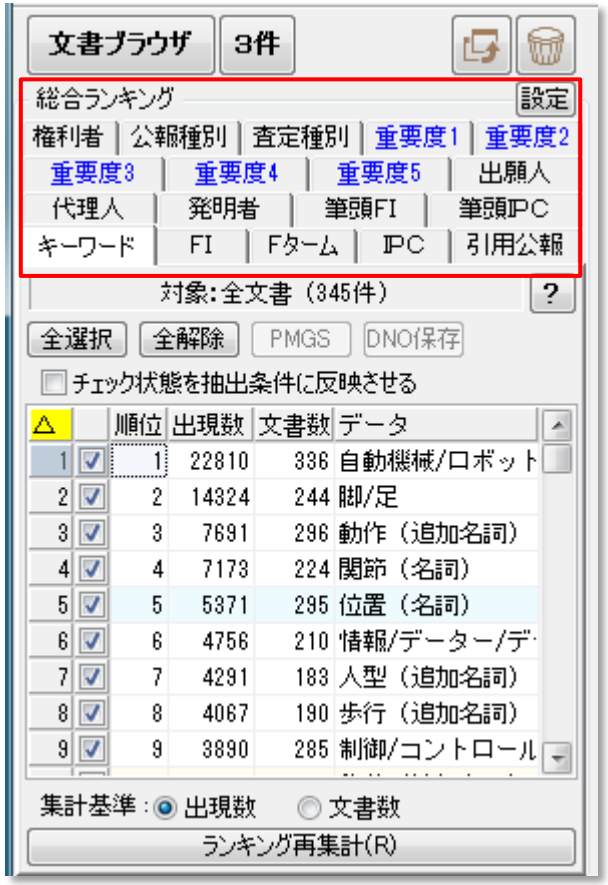
   1. 形態素解析を使用せずに文書を読み込む。
   2. 「文書一覧」画面で、「表示項目選択」の「全て表示する」のチェックをはずす。
   3. 分析に使用したい項目だけにチェックを入れる。
   4. 「ファイル」 → ［CSV形式で保存」をクリックする。
   5. 保存先を選択し、ファイル名を入力して、「保存」をクリックする。
   6. 「保存設定」ウィンドウが表示されるので、「保存する項目」の「表示されている項目のみ保存」を選択し、「保存」をクリックする。

以上の手順で、分析に必要な項目だけのファイルができ上がりますので、保存したファイルを新たに読み込んで、形態素解析、分析を行います。

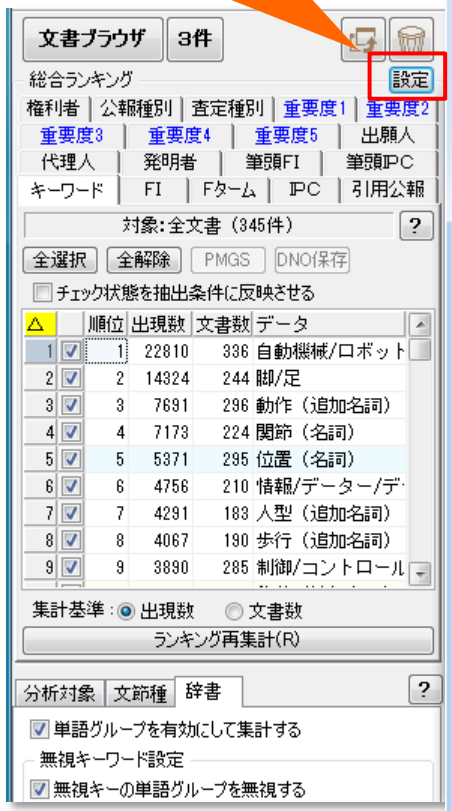
バージョンアップにおける　主な新機能　（62）

2012(Ver.5.12.0018) → 2012(Ver.5.12.0019)

重要度が総合ランキングに！！



「設定」ボタンをクリックすると、総合ランキング項目選択ウインドウが開く



総合ランキングに表示する項目を自由に選択することができる！

総合ランキングに表示する項目を選択することができるようになりました。
重要度をランキングすることもできます。

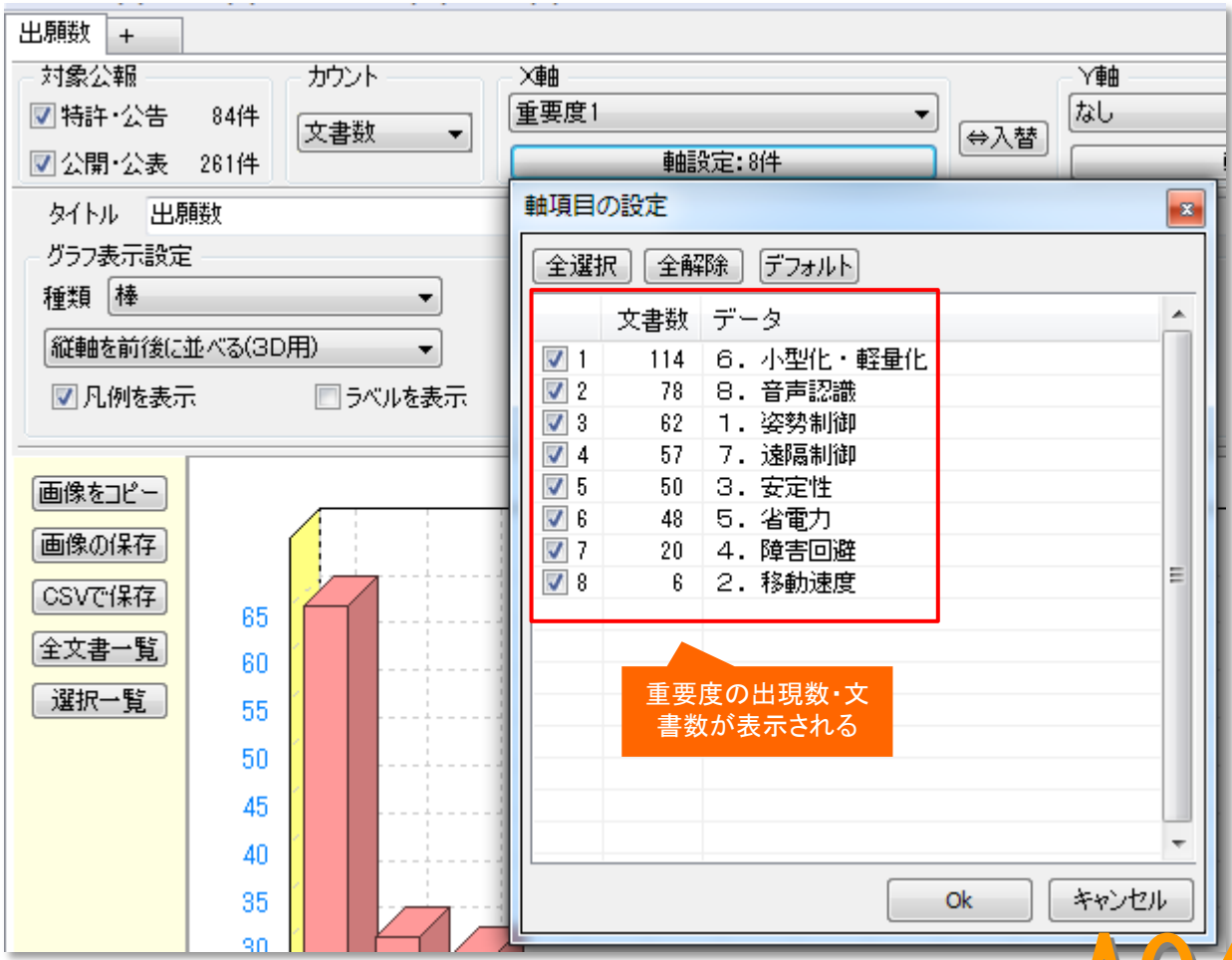
バージョンアップにおける　主な新機能　（63）

新機能紹介

2012(Ver.5.12.0018) → 2012(Ver.5.12.0019)

重要度の文書数が表示される！！

重要度の集計が可能になりました！



各種の項目選択リストにおいて、
重要度の集計数が表示されるようになりました。

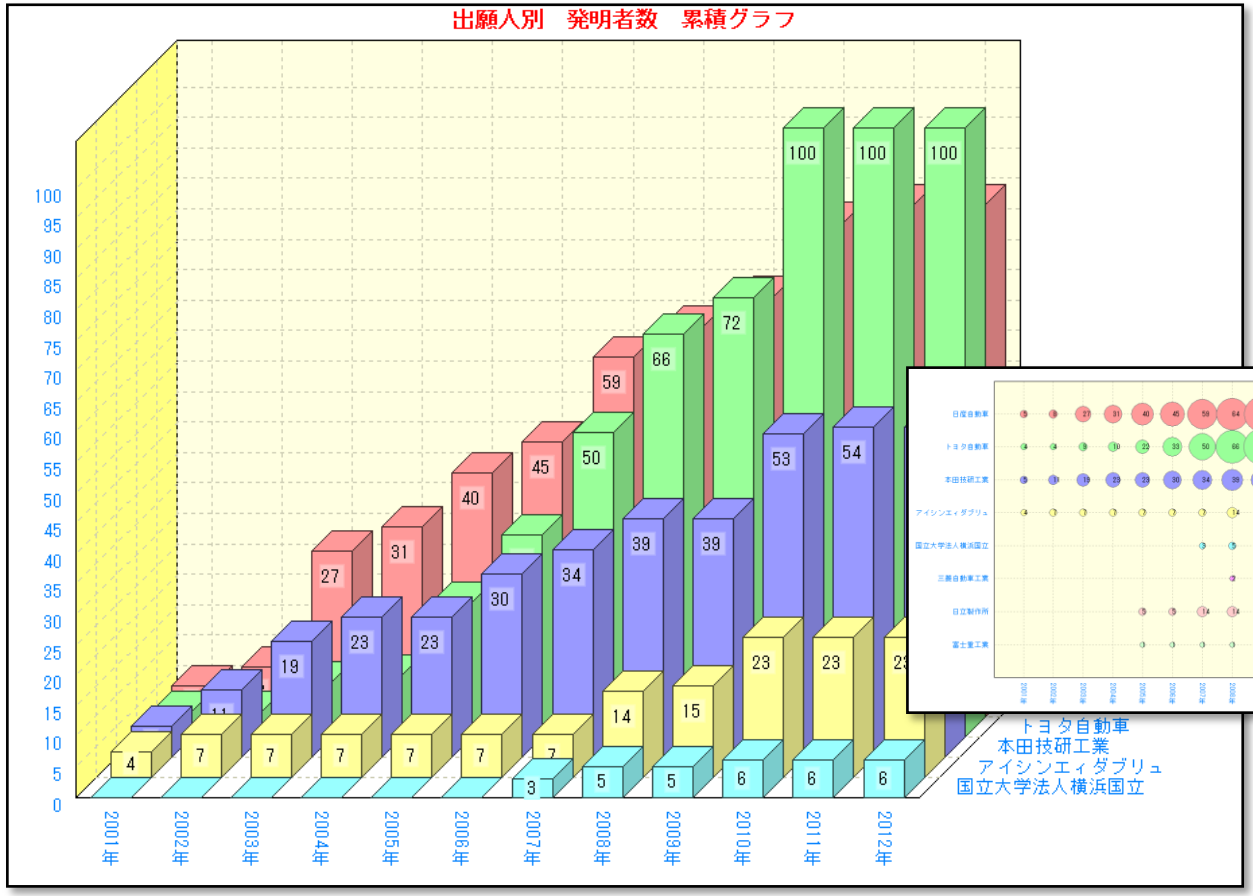
バージョンアップにおける　主な新機能　（64）

新機能紹介

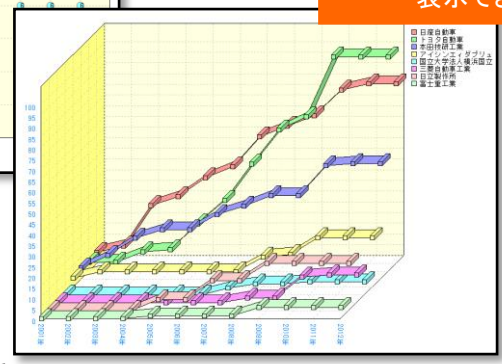
2012(Ver.5.12.0010) → 2012(Ver.5.12.0018)

累積集計機能搭載！！

X軸に出願年、発行日などを選択し、出願数の積算を表すグラフを作成！



出願年、公開年、発行日などの軸項目を累積して表示できる



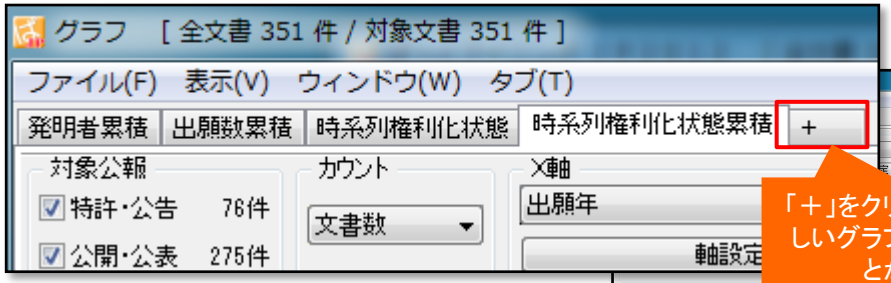
グラフ作成時に、出願年、公開年、発行日など、年月日に係る項目を選択した場合、軸設定で「累積集計」にチェックを 入れることで、時系列順にデータを累積した結果を表示します。

バージョンアップにおける　主な新機能　（65）

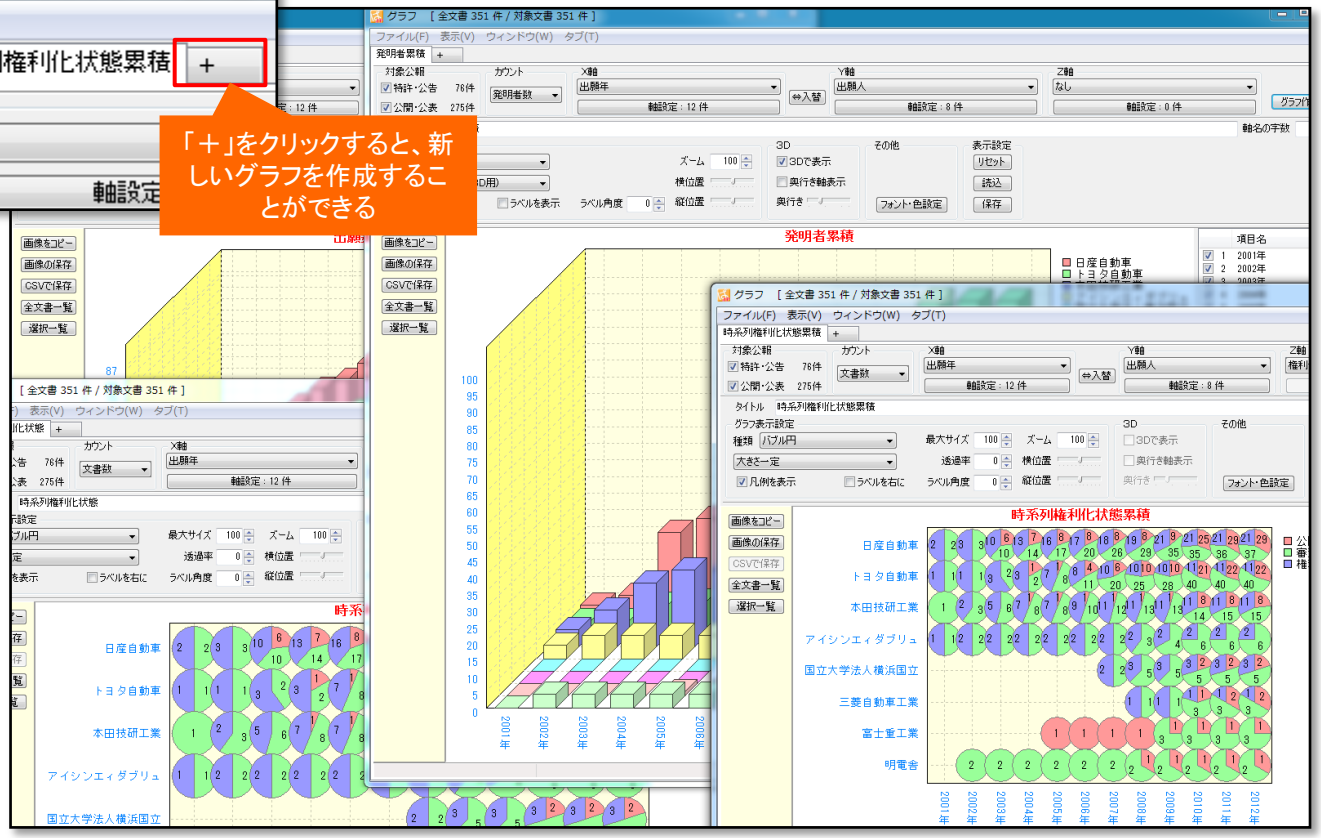
2012(Ver.5.12.0010) → 2012(Ver.5.12.0018)

複数のグラフを作成し、表示が可能！！

作成したグラフを消さないまま、新しいグラフを作成。
「条件の異なる複数のグラフ」を比較する！



「＋」をクリックすると、新しいグラフを作成することができる



・グラフブラウザに、”タブ”を設けました。”

・「＋」タブ”をクリックすると、新しいグラフの画面を作成（追加）することができます。

・複数のタブを切り替えながら、グラフを比較検討できます。それぞれのタブの中で、条件を変更し、グラフを再描画することができます。

バージョンアップにおける　主な新機能　（66）

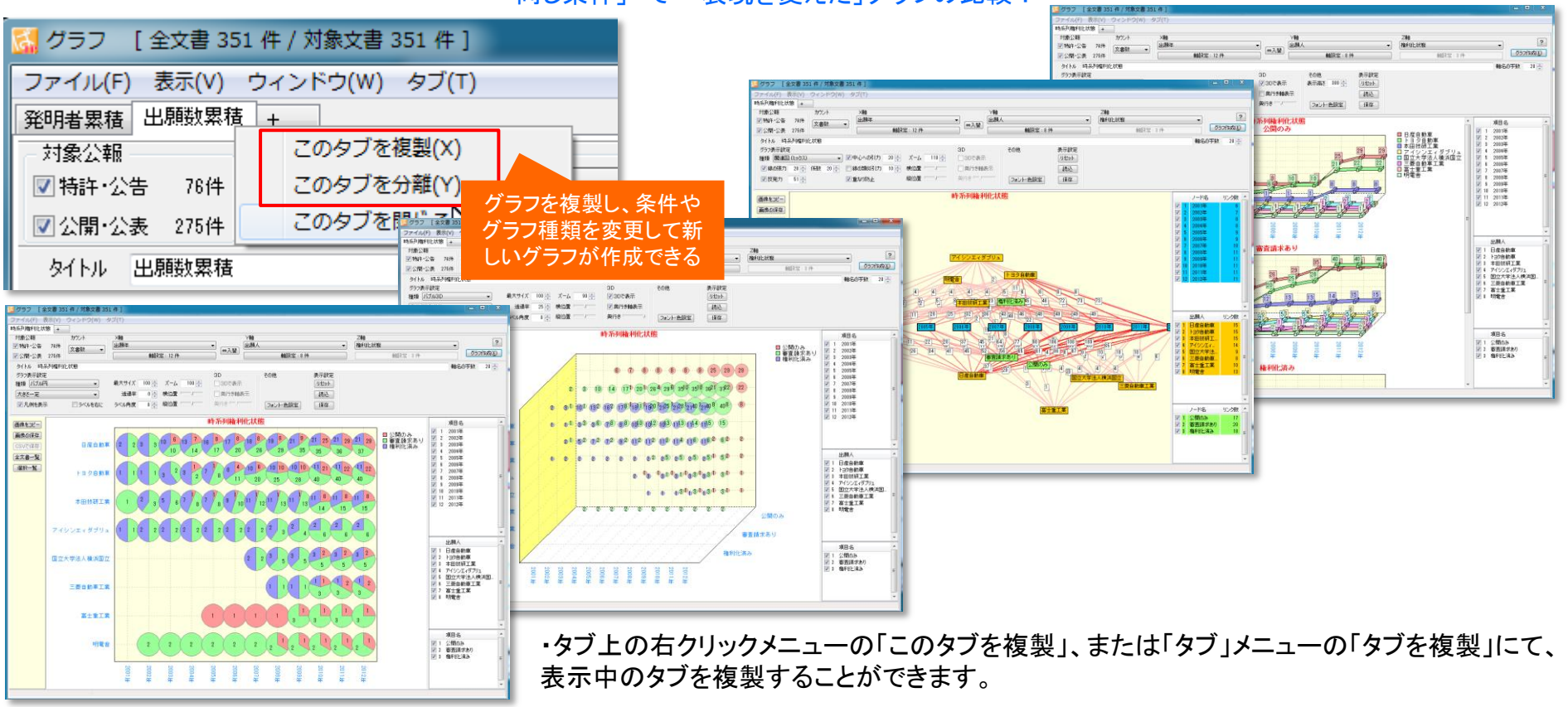
新機能紹介

2012(Ver.5.12.0010) → 2012(Ver.5.12.0018)

グラフのコピー機能搭載！！

同じグラフを複製することが可能に！

「同じ条件」 で 「表現を変えた」グラフの比較！



・タブ上の右クリックメニューの「このタブを複製」、または「タブ」メニューの「タブを複製」にて、表示中のタブを複製することができます。

・タブ上の右クリックメニューの「このタブを分離」、またはタブ上のダブルクリックで、表示中のタブを別ウィンドウに切り離すことができます。会議やプレゼンにも最適！

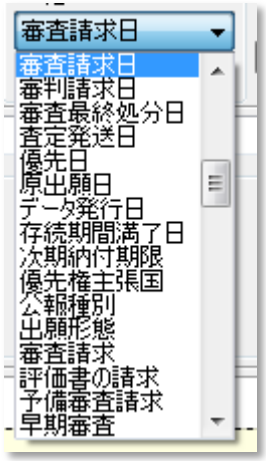
バージョンアップにおける　主な新機能　（67）

新機能紹介

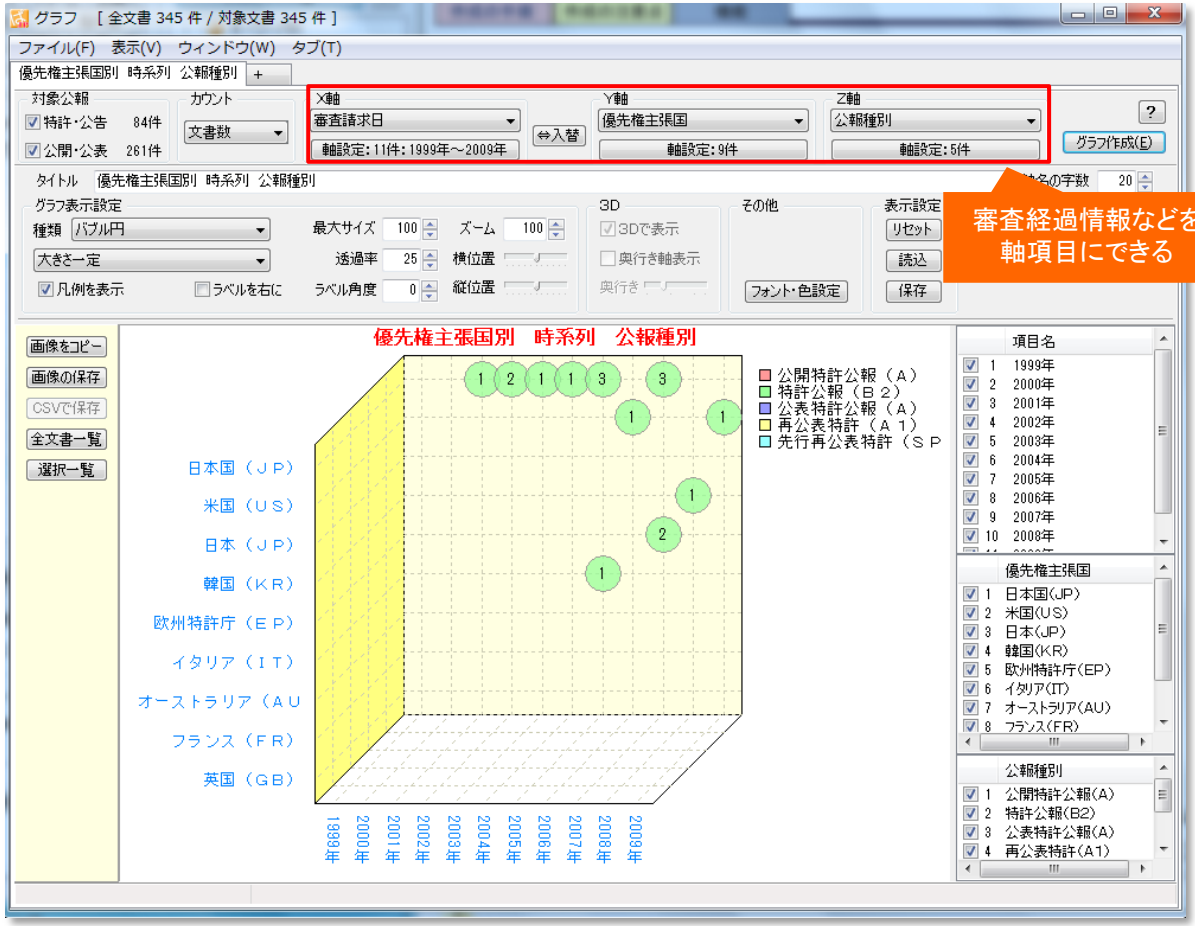
2012(Ver.5.12.0010) → 2012(Ver.5.12.0018)

軸項目の選択項目を追加！！

審査経過情報などを軸にしてグラフを作成！



審査請求日、優先権主張国、査定種別など、軸項目が大幅に追加されました。



バージョンアップにおける　主な新機能　（68）

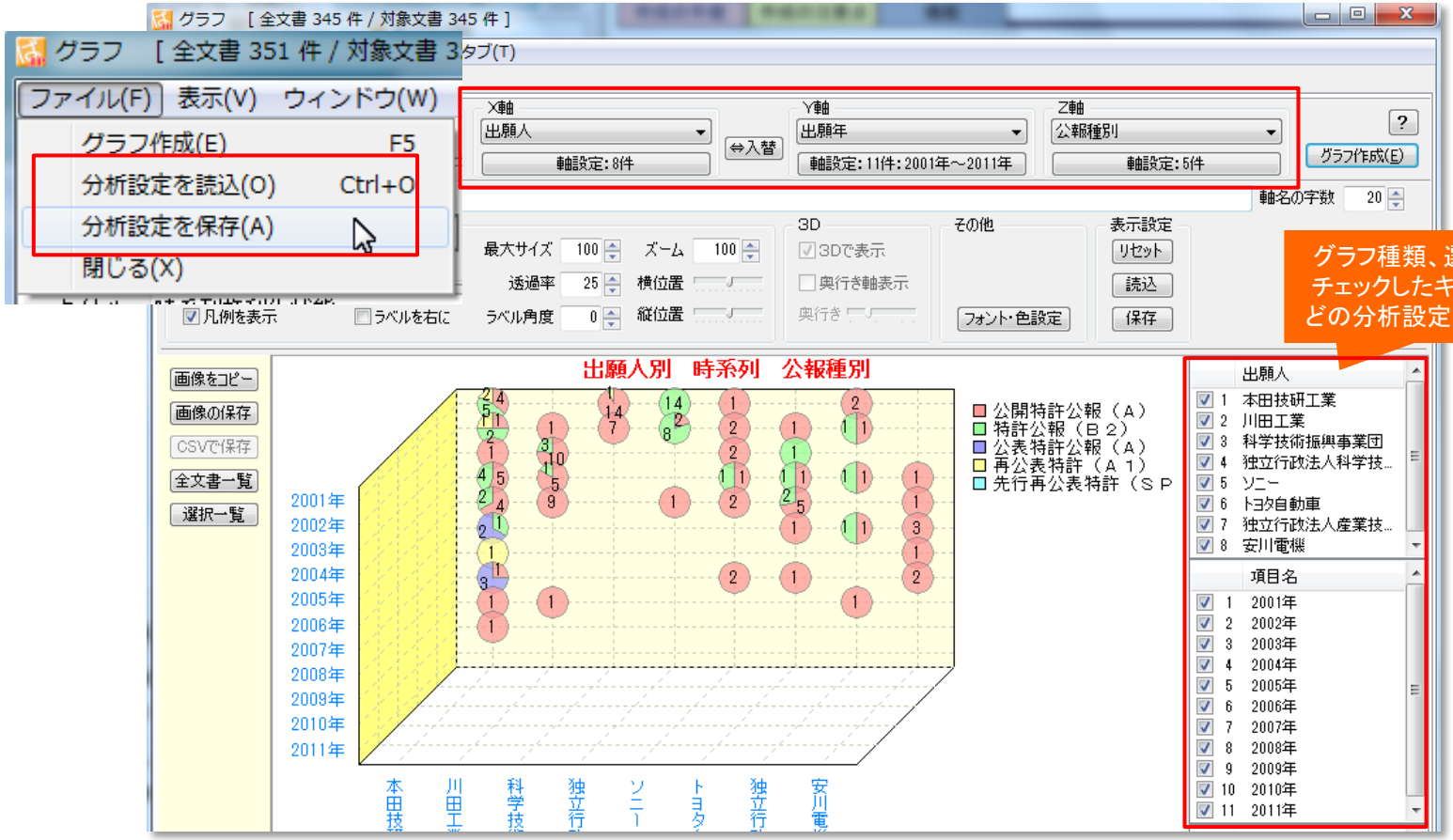
新機能紹介

2012(Ver.5.12.0010) → 2012(Ver.5.12.0018)

グラフの設定の保存・読込が可能に！！

選択項目やチェックしたキーワードなどの分析設定が保存可能。

読み込んですぐに同じグラフを作成！



グラフブラウザの「ファイル」メニューの「分析設定を保存」から、分析条件の設定が保存できます。
これは、グラフを作成した時に設定した条件を、ファイルとして保存できる機能です。

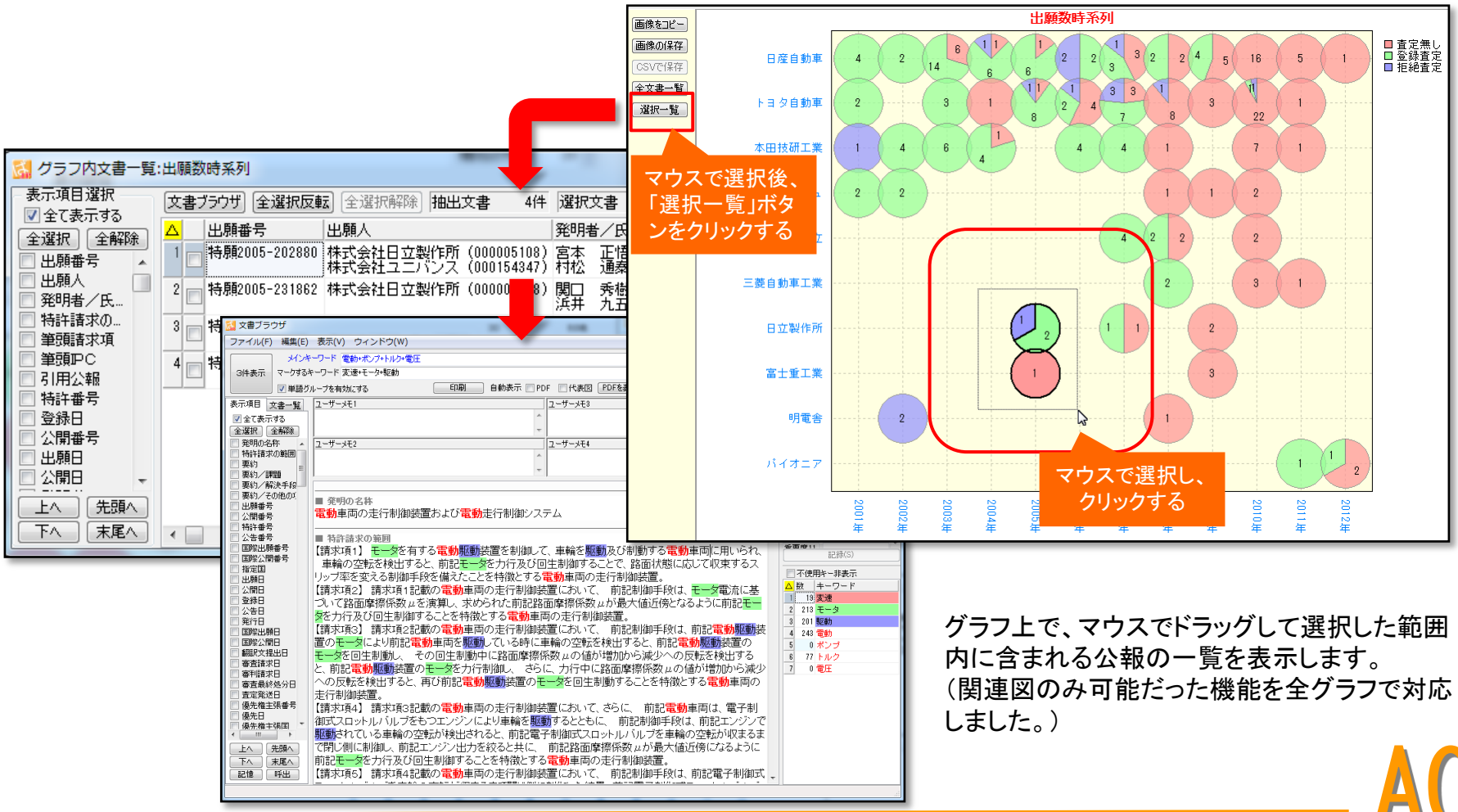
バージョンアップにおける　主な新機能　（69）

新機能紹介

2012(Ver.5.12.0010) → 2012(Ver.5.12.0018)

選択範囲の公報一覧機能を全グラフに搭載！！

グラフ内で、マウスで範囲を選択し、範囲内に含まれる公報の一覧を表示し、内容を査読！

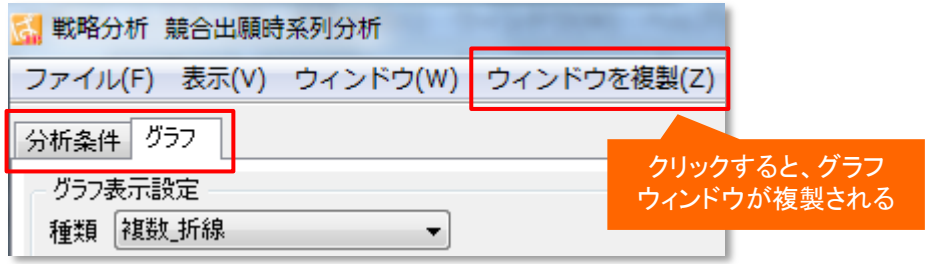


グラフ上で、マウスでドラッグして選択した範囲内に含まれる公報の一覧を表示します。
（関連図のみ可能だった機能を全グラフで対応しました。）

バージョンアップにおける　主な新機能　（70）

2012(Ver.5.12.0010) → 2012(Ver.5.12.0018)

戦略分析の複数起動･コピー機能搭載！！



・「グラフ」と「分析」条件がセットになったウインドウを、複数表示可能として実現しました。

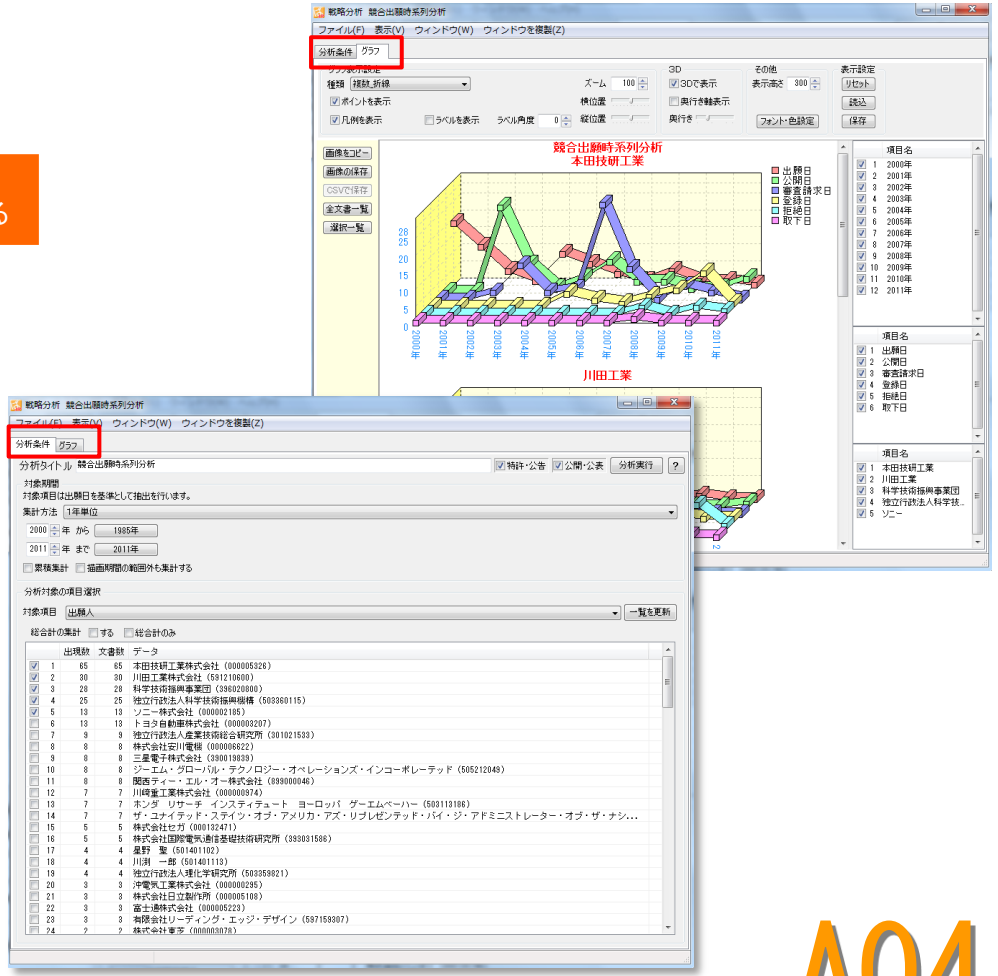
・分析実行ボタンをクリックする毎に、新しいグラフウィンドウが表示されます。

・グラフウィンドウ内に「グラフ」と「分析条件」のタブを設け、「分析条件」タブ内で条件変更できます。

・「ウィンドウを複製」メニューにて、表示中のグラフウィンドウを条件内容を含めて複製することができます。

・条件を少しずつ変更したグラフを描画して、検討する場合などに利用いただけます。

複数のグラフウィンドウを同時に起動可能！　プレゼンや会議に！！



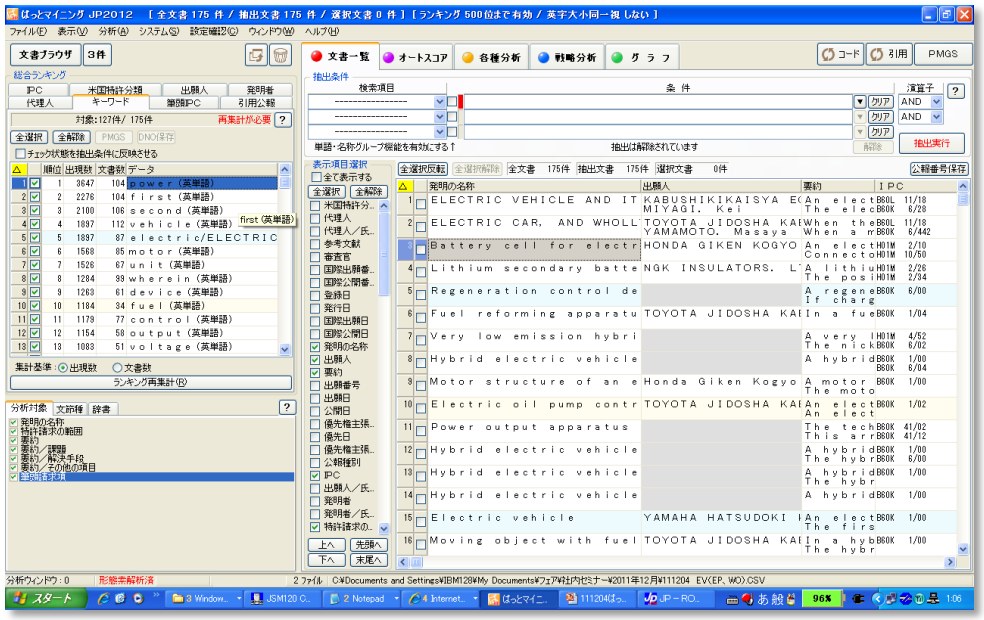
バージョンアップにおける　主な新機能　（71）

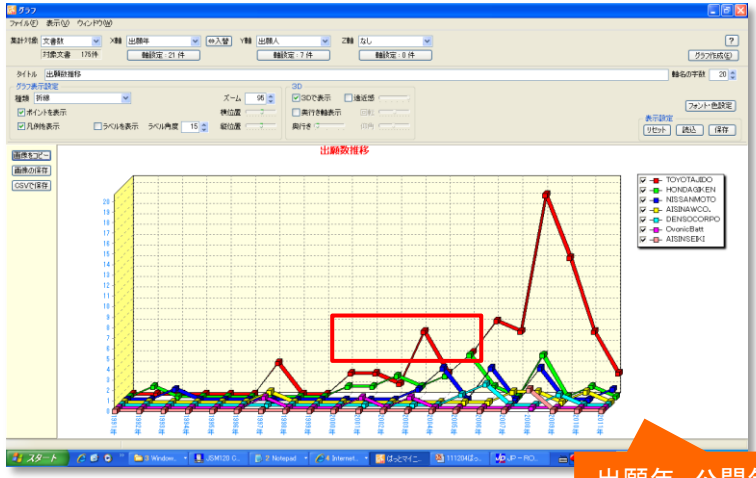
新機能紹介

2012(Ver.5.12.0010) → 2012(Ver.5.12.0018)

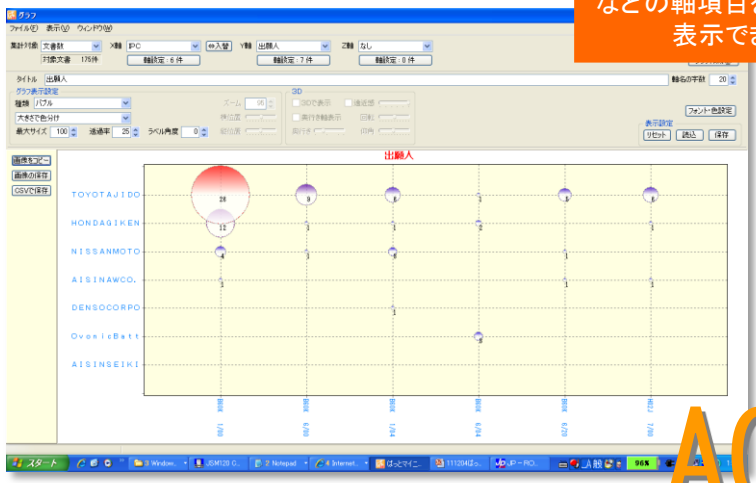
中国特許、ドイツ特許の英文公報に対応！！

英文公報でも、日本特許と同様の分析、マップ作成が可能に！！





出願年、公開年、発行日などの軸項目を累積して表示できる



JP-NETの海外特許、中国・ドイツの英文公報に対応しました。

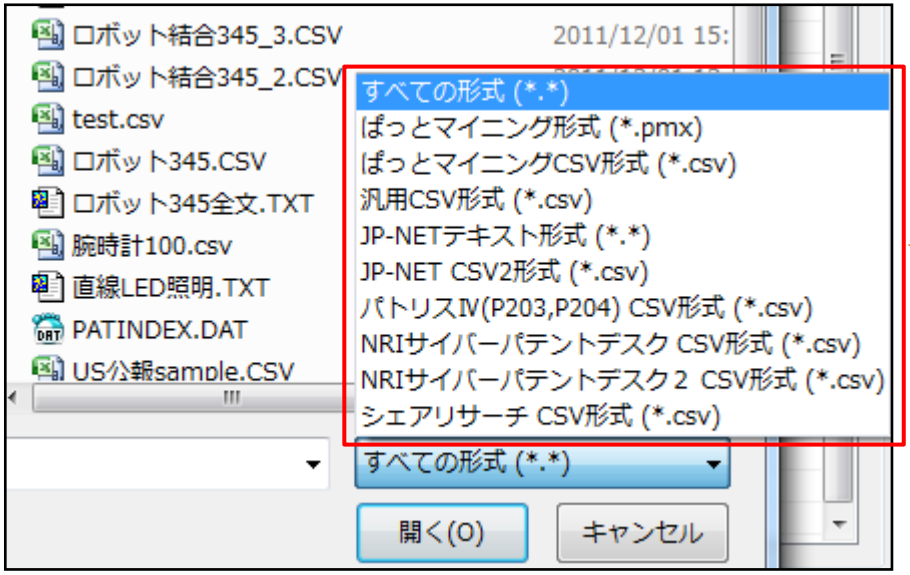
日本特許と同じ手順で分析・査読・マップ作成ができます。

バージョンアップにおける　主な新機能（72）

2012(Ver.5.12.0010) → 2012(Ver.5.12.0018)

複数データベースのデータに対応！！

NRI サイバーパテントデスク2（同1）、Shareresearch（シェアリサーチ）、SRパートナーのデータに対応しました！



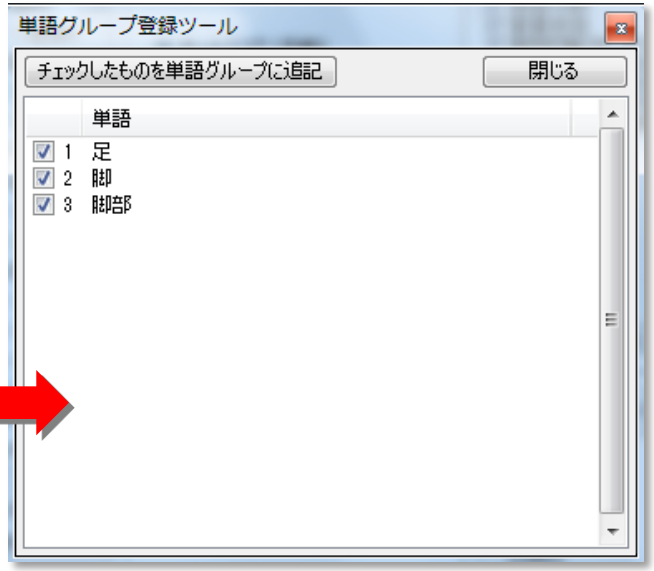
JP-NETだけでなく、各種データベースのデータに対応！

バージョンアップにおける　主な新機能（73）

2012(Ver.5.12.0010) → 2012(Ver.5.12.0018)

単語グループ登録の機能強化！！

総合ランキングから単語グループの登録が可能に！



・総合ランキング、ランキング分析の結果から、各辞書に追加したいワードを選択し、右クリックメニューの「単語グループ辞書に追加」をクリックすることで、「単語グループ登録ツール」が起動します。

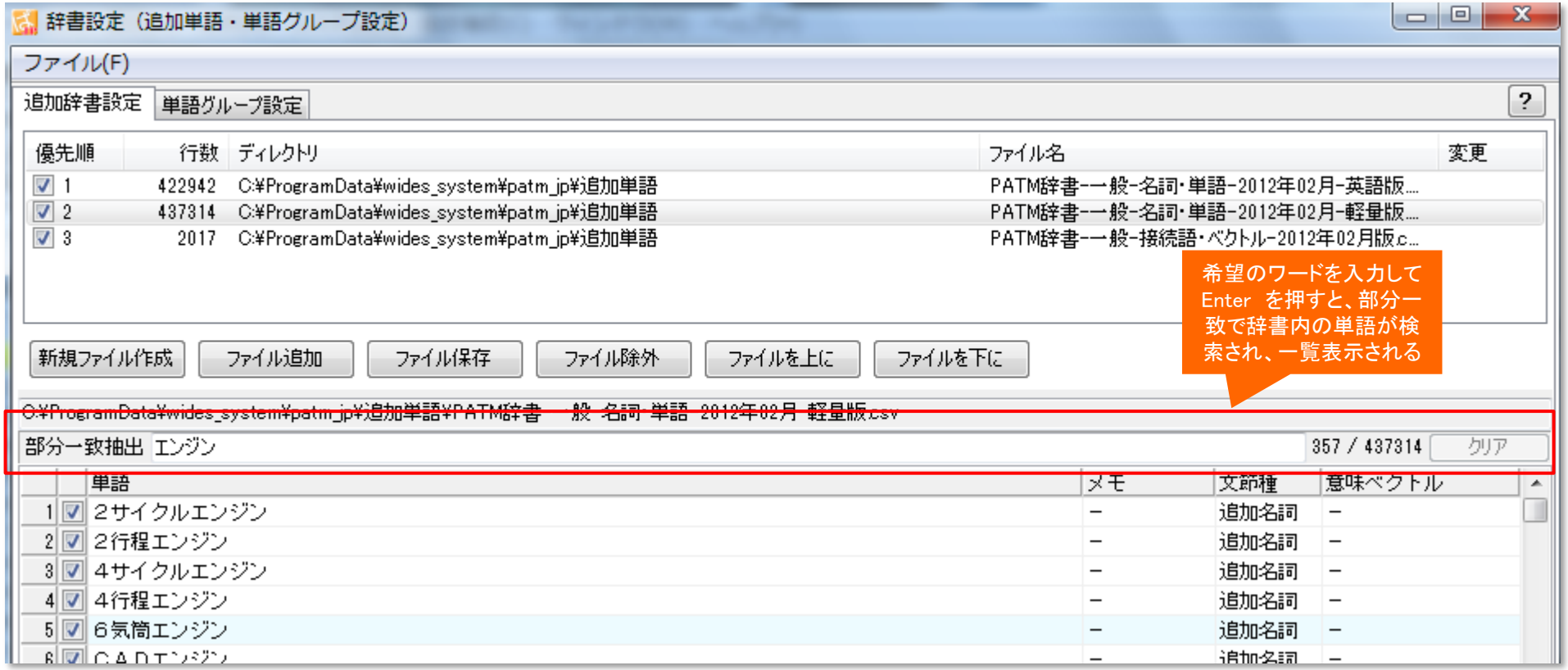
・複数の単語を「単語グループ登録ツール」に含めておき、必要なものを確認（チェック）した上で、「チェックしたものを単語グループに追記」ボタンを押すことで、任意の単語グループ辞書に、グループを追加することができます。

バージョンアップにおける　主な新機能　（74）

新機能紹介

2012(Ver.5.12.0010) → 2012(Ver.5.12.0018)

辞書画面で単語の部分一致抽出が可能に！！　追加単語・単語グループ設定画面で「部分一致抽出」！



追加単語・単語グループ設定の登録の画面内にて、「部分一致抽出」欄を設け、単語の部分一致抽出が可能になりました。

希望のワードを含む単語が、どの程度登録されているかを迅速に確認できます。

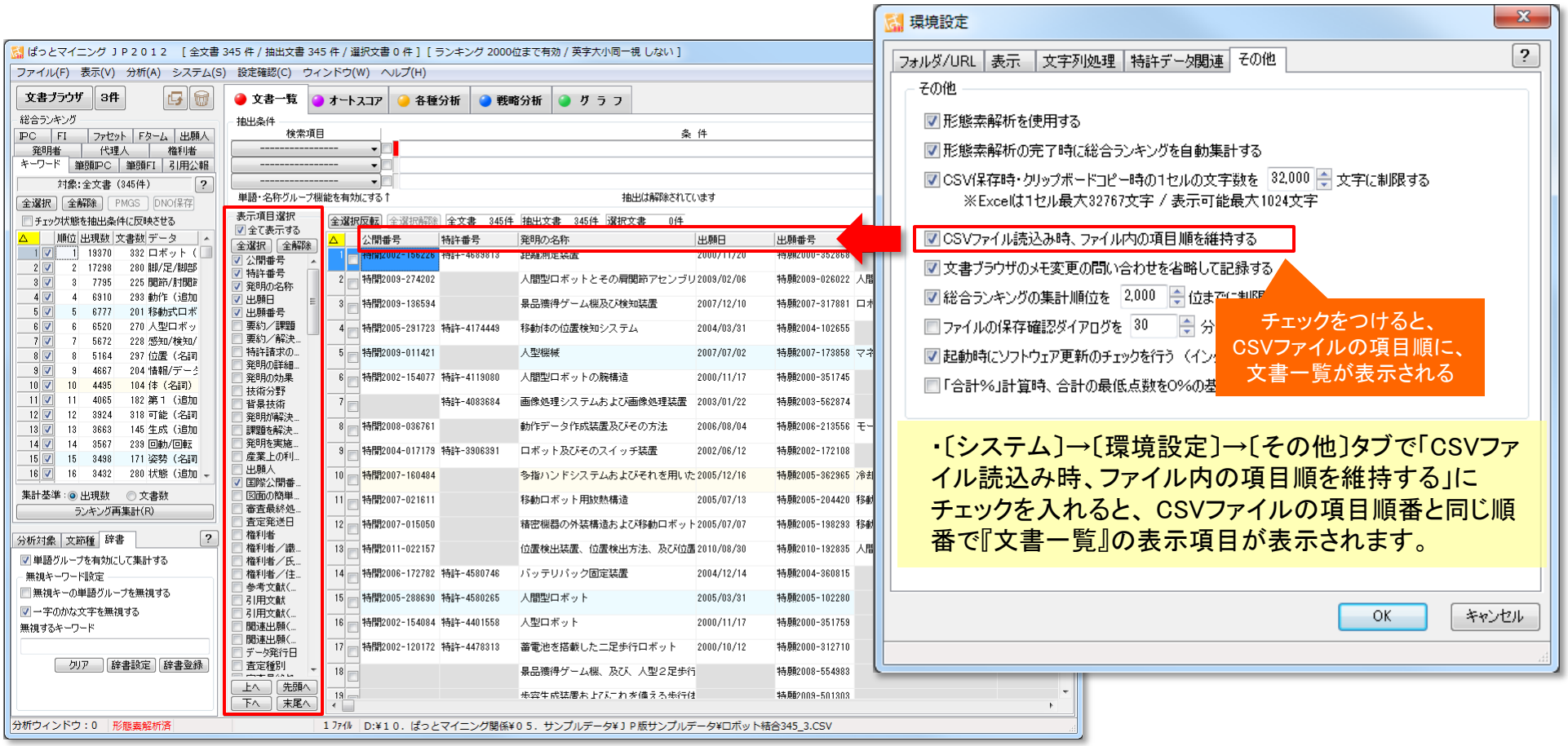
バージョンアップにおける　主な新機能　（75）

新機能紹介

2012(Ver.5.12.0008) → 2012(Ver.5.12.0009)

ファイル読込み時の項目名表示順番の選択

CSVファイル読込み時に、表示項目順の選択ができます。



※「CSVファイル読込み時、ファイル内の項目順を維持する」のチェックを外している場合は、前回終了時の項目順に表示します。
前回終了時にはなかった新しい項目が増えた場合は、項目順の末尾に表示されます。

※【出願人】という項目は、【出願人／氏名又は名称】をもとにぱっとマイニングJPが生成する独自項目です。グラフ作成時は【出願人】が集計の対象となります。

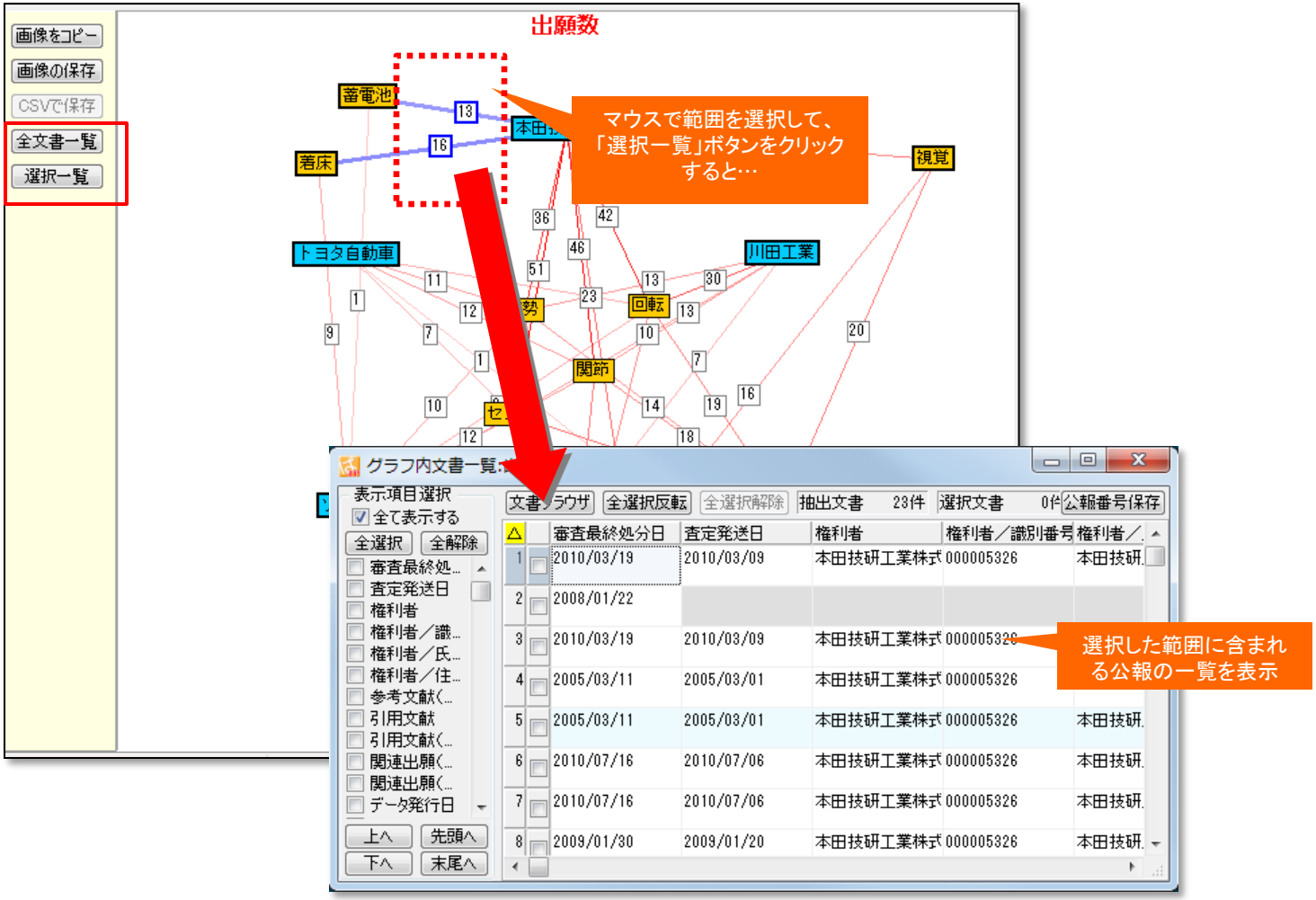
バージョンアップにおける　主な新機能（76）

新機能紹介

2012(Ver.5.12.0005) → 2012(Ver.5.12.0008)

選択範囲に含まれる文書だけを抽出できる――関連図

範囲選択した文書が一覧表示できるようになりました！



- 「関連図」で気になる範囲をマウスで選択すると、その範囲に含まれるラベルに対応した公報が一覧表示できます。
- グラフ画面左の「全文書一覧」ボタンをクリックすると、グラフ内に含まれるすべての公報の一覧が表示されます。
- 「選択一覧」ボタンをクリックすると、選択した範囲に含まれる公報の一覧が表示されます。
- 右クリックメニューにも、「選択した文書一覧」を追加しました。

バージョンアップにおける　主な新機能　（77）

新機能紹介

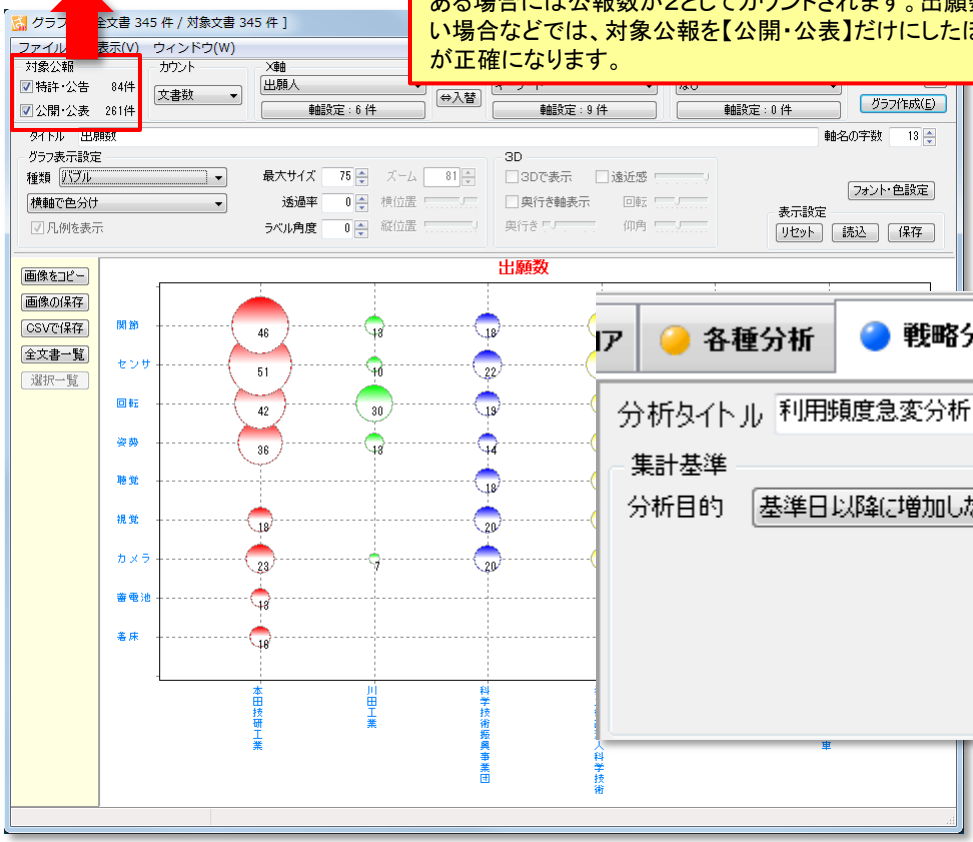
2012(Ver.5.12.0005) → 2012(Ver.5.12.0008)

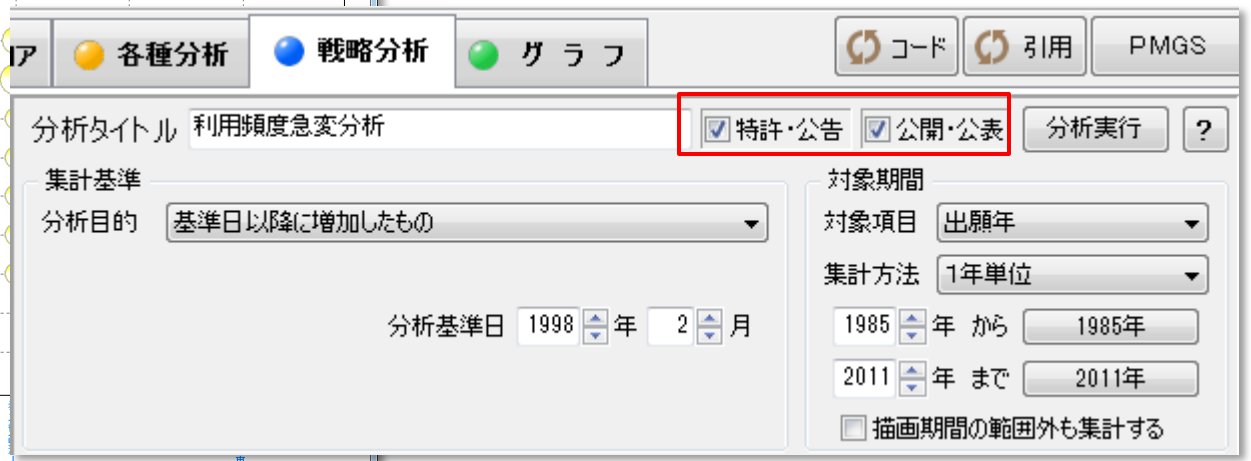
グラフ作成時・戦略分析時に対象公報が選択できる

権利化された公報だけでグラフ作成・分析ができるようになりました！

【公報数カウントルール】

特許公報と公開公報は別の公報としてカウントしています。
そのため、同じ出願番号の公報であっても、特許公報と公開公報がある場合には公報数が2としてカウントされます。出願数カウントしたい場合などでは、対象公報を【公開・公表】だけにしたほうが、数値が正確になります。





・グラフブラウザ上で、対象公報を選択することができます。

・「特許・公告」にチェックを入れておくと、権利化された公報がフラフの対象となります。

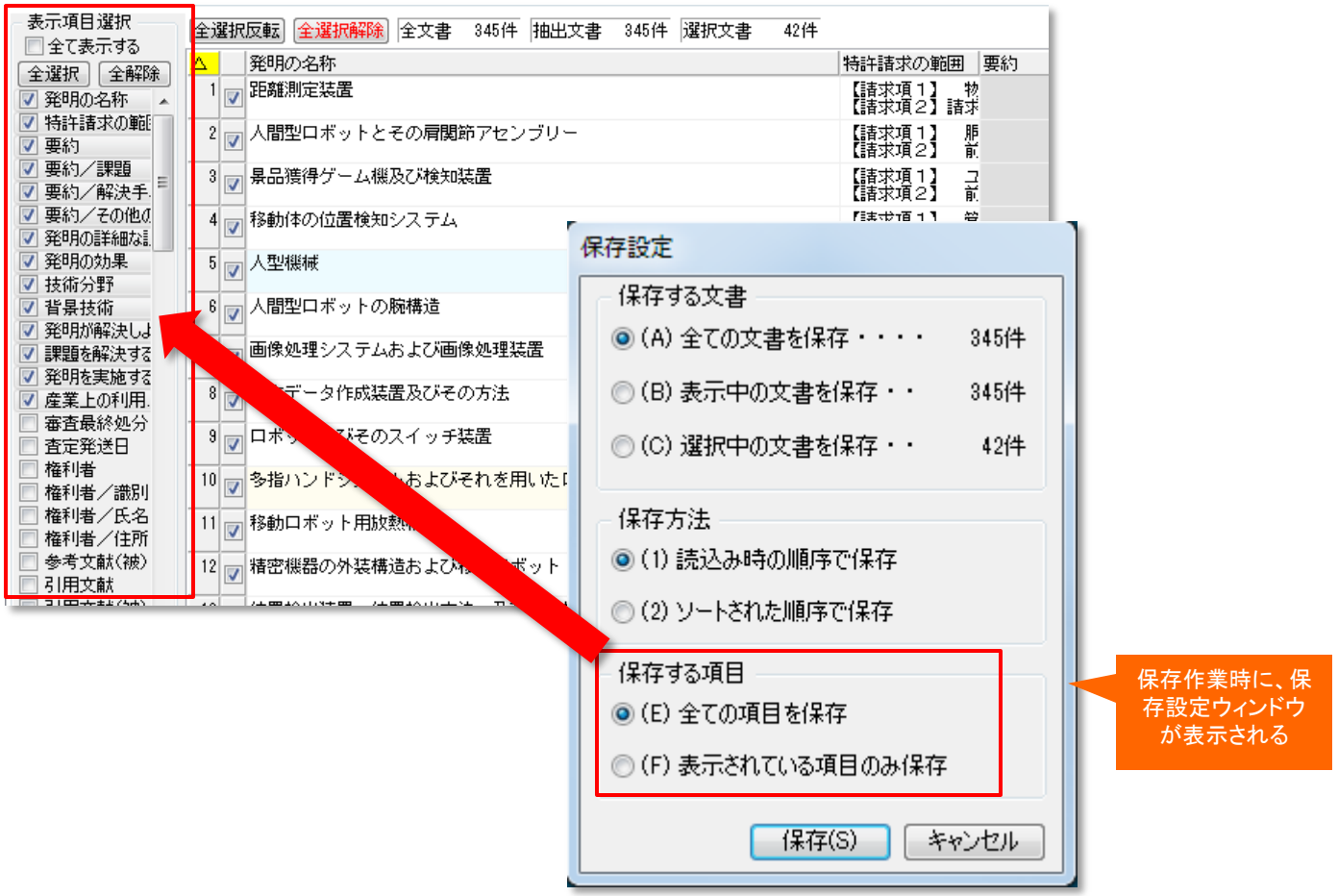
・「公開・公表」にチェックを入れると、公開公報がグラフの対象となります。

・戦略分析においても、同様の選択が可能になりました。

バージョンアップにおける　主な新機能（78）

2012(Ver.5.12.0005) → 2012(Ver.5.12.0008)

CSV形式保存時の選択



保存時に保存する項目を選択

・CSV形式で保存する場合、従来は文書一覧で表示されている項目だけを保存する使用でしたが、保存時に保存設定ウィンドウが表示され、保存する項目を選択することができるようになりました。

・「すべての項目を保存」を選択すると、文書一覧での表示項目にかかわらず、すべての項目を保存します。

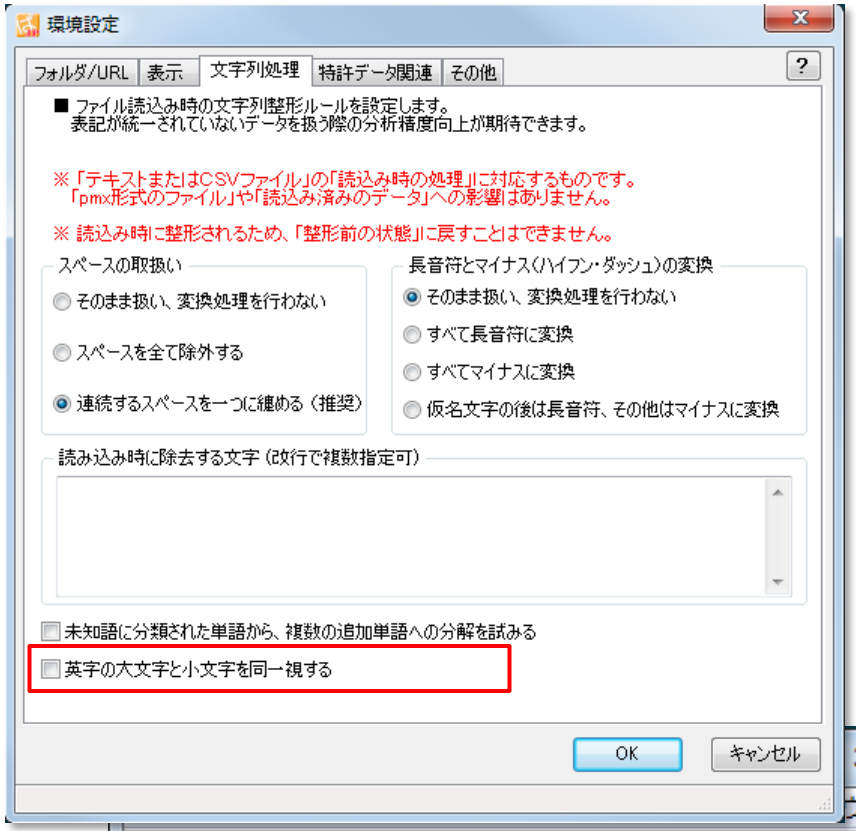
・「表示されている項目のみ保存」を選択すると、文書一覧で表示されている項目だけを保存します。

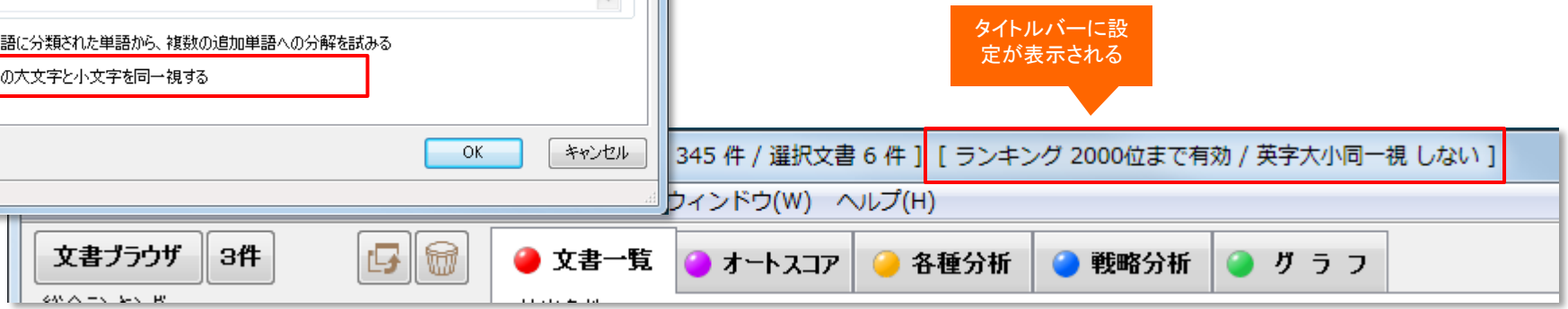
バージョンアップにおける　主な新機能（79）

2012(Ver.5.12.0005) → 2012(Ver.5.12.0008)

英文の大文字と小文字を同一視

大文字小文字の区別なく分析したいときに活用





・環境設定の「文字列処理」タブで、「英字の大文字と小文字を同一視する」の選択ができるようになりました。

・「英字の大文字と小文字を同一視する」にチェックを入れると、アルファベットの大文字と小文字を区別せずに分析します。

・「USB」と「usb」を、同じ単語として扱いたい時などに、便利に活用することができます。

・チェックの状態は、タイトルバーに常時表示されます。